

識知礎基の設建西東

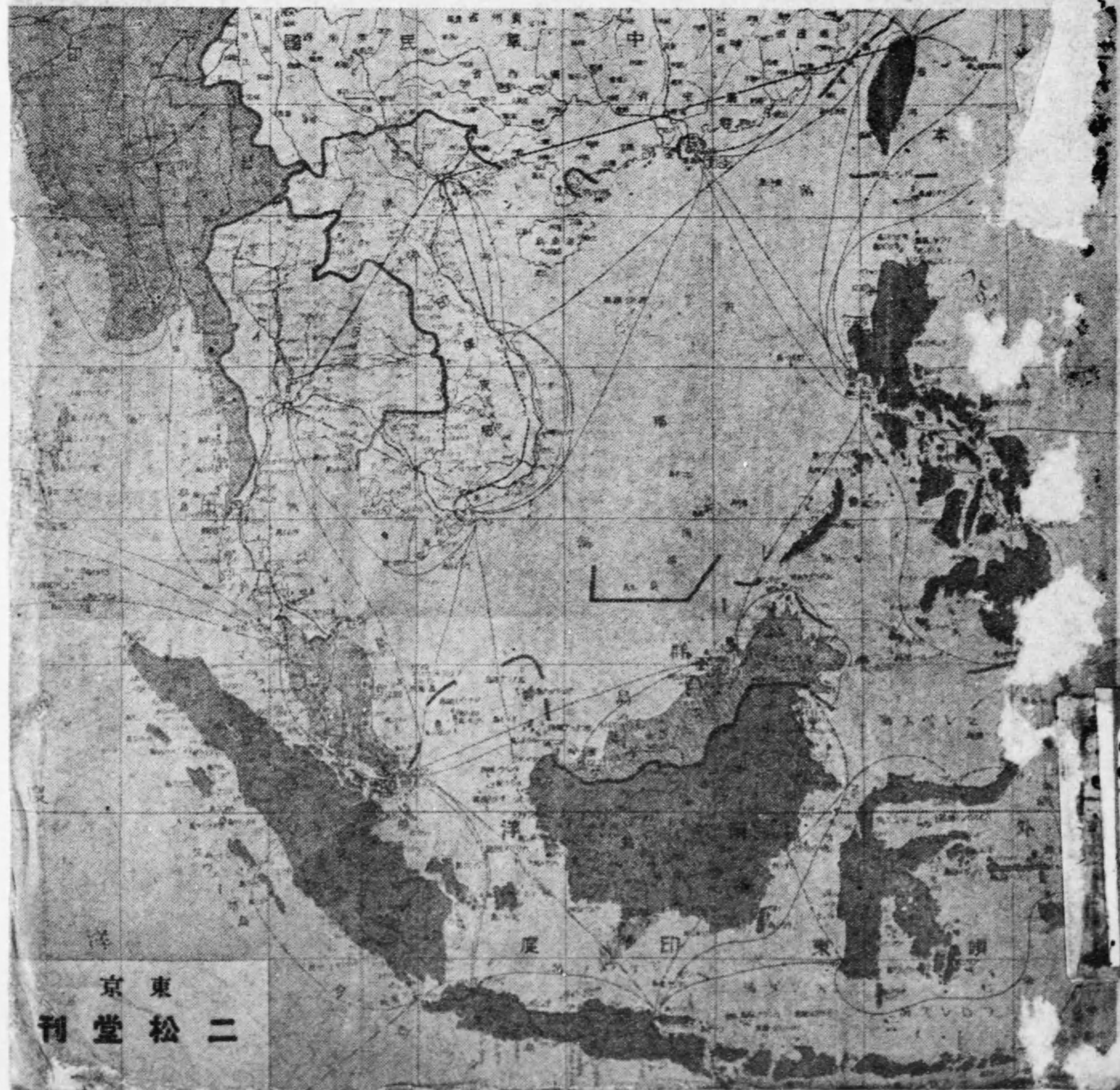
事參副社聞新々日京東

士學商

著 雄 龜 下 宮

332.2

M646d



東 京
二 松 堂 刊



* 0021935000 *

3

0021935-000

332.2-M646d

誰にも解る大東亞建設の基礎知識

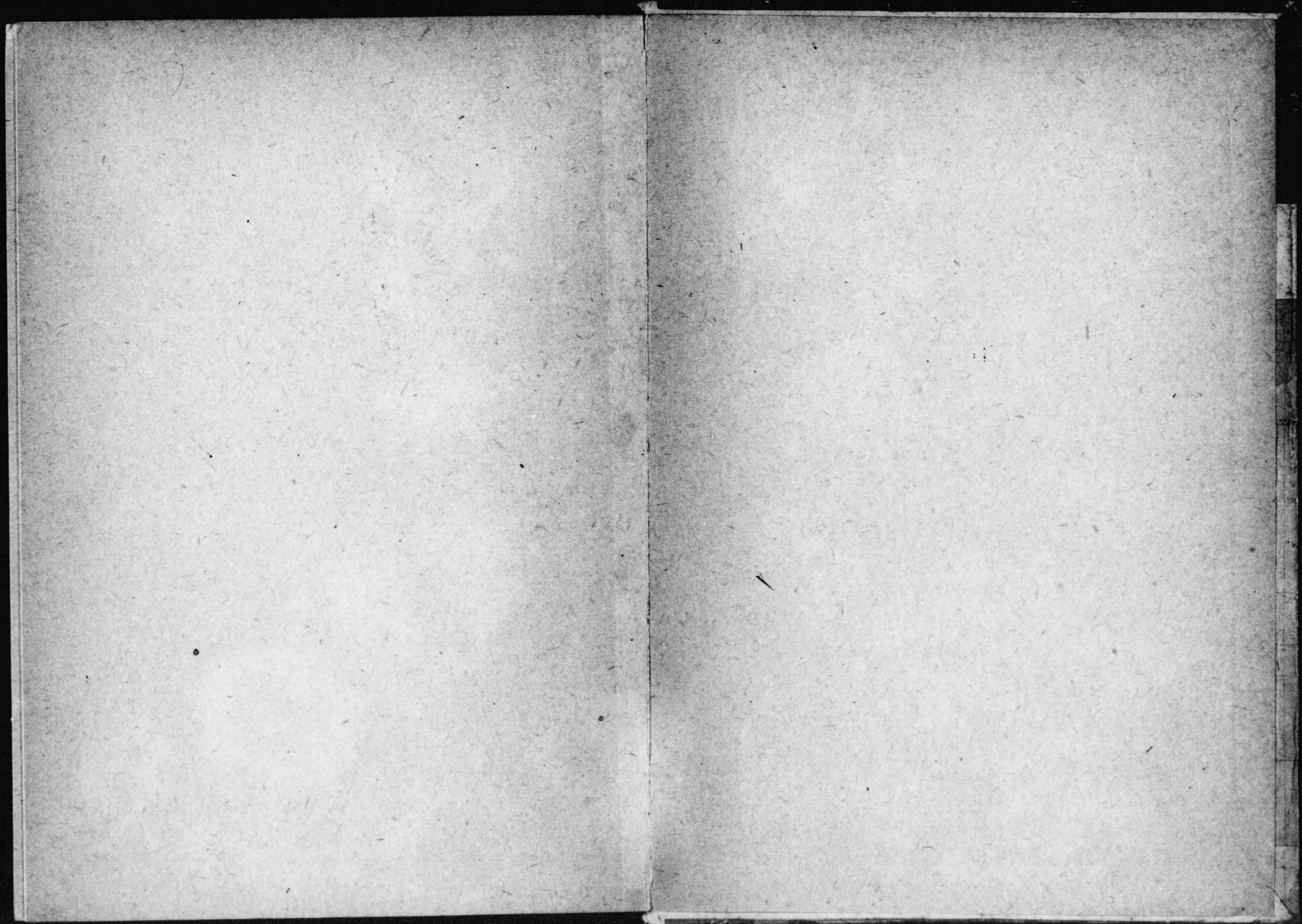
宮下龜雄・著

二松堂

1942

ADC

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法第67条の規定に基づき、平成12年5月15付けで文化庁長官の裁定を受け使用するもので



東京日日新聞社
副参事

宮下龜雄著

誰にも
解る

大東亞建設の基礎知識

東京 二松堂發行

332.2
17646d



31278

序言

序に當つて私はくどくしい事を申しません。大東亞建設の必要な事は今日誰よりも皆様がよく御承知の筈です。

併し日本國中の誰でもがこの有史に會つてない大事業を仕遂げやうとする幸福な時代に生れ合はせた事を欣び合ふと同時に、今後どうすればこの建設道を遅滞なく進み得られるかといふ點で、はたと行きづまりはしないでせうか。

道は近くに在りますが求め得られる者はそう澤山はありますまい。

建設の基礎知識を一日も早く識ればそれだけ開拓選士としての資格は早く具はる譯です。

此の意味に於て日本國中誰でもが本書を開いて貰ひたいのです。今や國を擧げて戦つて居りますが、その建設も總力戦に外なりませんから一人として落伍されてはなりません。

ですから誰にでも解る平易な解説を必要と致します。且繁雑な數字の羅列を出来るだけ省きまして努めて簡明に説明致しました。

これは進んで南方へ躍進しやうとする方ばかりの手引書ではありません。一億國民が新東亞の指導者として恥かしくない生活字引の積りです。

本書によつて各階級の人々がその職場々々に在つて大東亞建設の理解を深められたら私の喜びは最大と申せませう。

御 詫

限りある紙面に述べたい事を悉く載せたい爲に、全頁に無駄な餘白を作らず内容を詰められるだけ詰めましたので、多少読みづらいかも知れませんが、用紙節約の折から御寛容下さい。

珊瑚海の大戦果を開くの日 著者 識

誰にも解る **大東亞建設の基礎知識**

目 次

第一章 大東亞戦争勃發の由來と意義	一
第一課 日米會談の経緯	三
第二課 米國の主張	七
第三課 亞細亞の黎明	一一
第二章 共榮圈經濟の出發	一七
第一課 世界經濟の新編成	一七
第二課 東亞共榮經濟の課題	二一
第三課 南方經濟建設第一步	二五
第四課 南方建設の諸機關	三五
第五課 共榮圈の通貨問題	四〇
第三章 決戦日本の構へ	四三
第一課 財政必勝の配陣	四四
第二課 金融界協力の配備	五四

第三課	重點に終始する産業部門	六
(一)	生産力擴充計畫	六
(二)	統制會の運營	七
(三)	中小企業の整備	七
(四)	企業許可令と整備令	八
(五)	産業設備營團と重要物資管理營團	八
(六)	配給機構の整備と物價問題	八
第四課	自給を目指す農業	九
第五課	決戦下の海運對策	九
第六課	整備を急ぐ各部門	九
(一)	貿易部	一〇
(二)	醫藥部	一〇
(三)	保險部	一〇
(四)	木炭部	一〇
(五)	水産部	一〇
(六)	林産部	一〇
(七)	技術部	一一
(八)	航空部	一一
(九)	治安部	一一
(十)	人口部	一一
(十一)	證券部	一一

(十二)	電力部門	一八
第四章	南方經濟建設と決戦日本産業	二〇
第一課	鐵鋼	二三
第二課	非鐵金屬	二五
第三課	石炭	二九
第四課	石油	三三
第五課	人造石油	三四
第六課	砂糖	三五
第七課	ゴム	三九
第八課	人絹、ス・フ工業	四四
第九課	紡績	四九
第十課	生糸	五一
第十一課	其他	五一
第五章	大東亞共榮圈を繞る諸國	五一
第一課	タイ	五一
第二課	佛印	五三
第三課	比島	五六
第四課	馬來	五九

第五課	蘭	印	一七〇
第六課	ビ	ル	一七四
第七課	印	度	一七六
第八課	濠	洲	一七九
第九課	新	西	一八一
第六章	日滿支の經濟合作		一八二
第一課	中	華	一八六
第二課	滿	洲	一八九
第三課	蒙	疆	一九〇
第七章	南方經濟の實力を握る華僑		一九一
第八章	敵陣營の檢討		一九七
第一課	米國國防の現状		二〇〇
第二課	英國戰時經濟の悩み		二〇七
第三課	天命茲に極る重慶		二一四
結びの言葉			二一八

誰にも
解る

大東亞建設の基礎知識

宮 下 龜 雄 著

第一章 大東亞戰勃發の由來と意義

昭和十六年十二月八日!! 此の日こそ私共國民は銘記して忘れる事の出来ない日です。この日午前十一時四十分、アメリカ合衆國及びイギリス帝國に對し長くも宣戰の御詔勅が渙發せられ太平洋に初めて戦火が開かれ、アジアの盟主日本が大アジア民族解放と、新しい大東亞建設といふ大目的の爲に永い間の隱忍を敢然と打破つて起ち上つたのです。誠に御詔書にも在る通り、有史以來の最大危機に直面した我國の威信と生存權を守るべく、又利己的な世界制覇を目指す米英撃滅の爲に起つたこの聖戰こそは、又觀方みかたに依つてはアジアの新しい誕生、大東亞共榮圈

の確立といふ重大なる意味と使命を並び持つて居ます。

皇軍の比類稀な大戦果に依つて米英の誇稱した軍備も一朝にして崩れ立ち、英國の東洋に於ける二大據点である香港、新嘉坡も瞬く間に陥落し、蘭印、ビルマ又次々と我手中に握られ、濠洲はおろか遠く印度の攻略も迫つて來て居ります。一億國民は今更御稜威の尊さをはつきりと感じると同時に前線幾多忠勇なる將士の今日あらしめた努力を感謝せねばなりません。

此の戦は假りにも西歐文明を謳ひ且世界一を自負した米英を相手の一戦です。假令最後には倒れるにしても、そう簡単に白旗を揚げる相手ではありませんし、又その富有的な財力と傲慢な敵性から察しても必ずや相當長期に亘つて抵抗を続けるに相違はなく稍共すれば短氣な國民性を持つてゐる日本人は、今後共根強い忍耐心と抗戦力を培ふ一方、經濟的には長期建設の腹をじつくりと決めて掛からねばならない事は言ふ迄もありません。

銃後國民の責任も亦この意味に於て大と言はねばなりません。一體その覺悟が何處まで出來て居ませうか。世界の地圖は刻々と改變され經濟は戦前とは全然その趣を異にし、産業の前途は昔日の比較にはなりません。これに順應して行ける丈の準備は國內各層に萬端整つて居

ませうか。太平洋の波は今も昔も變りはありませんが、昔のまゝの太平洋では決してありません。或る時は卑屈にゆがめられた我儘を押し拂ふ様に狂瀾怒濤を逆巻き立たせた太平洋も何時かは鏡の様に澄み渡つて平和の檜舞臺ともなり得るのです。

茲に私共は新しい世紀に生れ出でた満足と幸福を享受すると同時に、この好運を徒に逃がす事なく皇國の爲何事か爲す事が無くてはならぬ譯です。これが私共に與へられた使命であり責任なのです。この様に犇々と身に迫る責任を感じる前に私共は靜に過去を振り返つて此の度の聖戦の由來を今少しく玩味して見ませう。如何に米英のこれ迄の仕打が横暴であつたのか、これに對する日本の態度がどの位平和目的の貫徹の爲に精進辛苦したかを充分了解して置かねばなりません。この眞相を識れば日本人なら誰でも石にかじりついてども戦ひ抜かふといふ意氣込が自然に出て來る譯です。

第一課 日米會談の経緯

抑々日米關係は元來が穩やかであるべき筈の太平洋を差し挟んで居乍ら今迄も度々危機を胎

んだ事があります。然しこれは日清、日露の兩大戦後着々と國威を發揚して來た日本を兎角目の上の瘤の様に考へた米國が、何かに付けて日本の出鼻を挫かうとした甚だ身勝手な振舞から出たものであつて、我國民が進んで海外へ發展の路を求めやうとした所謂海外移民がよく働き而も賃金の安いのを却て自國の商賣の仇と逆怨みの果、排日移民法といふ法律迄作つて極力我國の世界への躍進の勢を阻止しやうとしました。此の頃も一時日米の國交は危懼されたものですが、我國の隱忍の態度でその時は平和に納りました。元來を言ふと、日米間は貿易の關係から言つて互ひに依存の状態にありまして戰爭をする仲等では決してない譯ですが、歐米人は昔から有色人を輕蔑する悪い傾向があり、殊に有色人の中でも日本人の様な優秀な才能のある人種に對しては何となく脅迫感が手助つてこれを殊に敵視し勝ちなのです。支那人等も同じ黄色人種であり乍ら自分等の言ふ事をおとなしくし又自分は弱い者を勞はるといふ自己陶醉の甘い優越感からその取扱も恩情的なのです。殊に滿洲事變や支那事變を自分等に都合よく曲解して日本人は支那を征服するものと勝手に決め込んで、東洋の新秩序の建設といふ理想には全く一顧も與へやうとはしません。東洋人が自分自らの力で理想的な東洋を作り上げやうとする

のに西洋人がこれに異議の申立をするとは全く話の辻褄が成つて居ません。それなのにその無理を押し通さうとする奥底には、日本がこのまゝ發展すれば支那も南洋も日本の勢力圏に入つて、遂には米國の持つて居た東洋の從來の權益も水泡に歸すと解したのです。今迄我慢を續けた日本を弱いとなめきつた米國は、茲で日本に一撃を與へれば簡単に我國を打破れるものと自分の實力を過信し、その後には弱い支那だけで自分等の今後の東洋への植民地なみの進展は思ひの儘となるから何でも日本は潰して了はない迄も、せめて手も足も出ぬ様にしたいとの腹だつたのです。ですから事の端に付けて日本に難癖や物言ひの數々を言ひ續けて、丁度その時支那事變最中であつた日本を支那の手を藉りて屈服させ様として重慶への援蔣物資やら資金の貸與等を英國と歩調を合せて何の遠慮もなく遂行し續けました。尙これ文に飽き足らず、和蘭をも自分の陣營に加へて所謂 A・B・C・D 包圍陣（アメリカ・ブリテン・チャイナ・ダッチ）を形成して殆ど脅迫に等しい威嚇を日本に加へたのです。卑怯な日本に對する經濟斷交も亦その脅しの一手にしか過ぎません。當り前ならこれ文で立派な喧嘩材料ですが、遍へに東洋に平和を一日も早く回復させて、兄弟姉妹皆楽しく生活するのが目的であつた日本は、大きな度量

を見せて昭和十六年八月末、近衛文書といふ平和の相談書を時の近衛首相から米國のルーズヴェルト大統領に送つたのです。

その文書の内容は、太平洋問題處理方策の検討を盛つたもので、米國の言ひ分も聞かう、併し日本の顔も立てられる丈は立て、欲しいといつた内容だつたのです。勿論日本の實力を見くびりのぼせ上つた米國が何でこれを承知するものでもないので、到頭東條首相の代になつてから來栖大使を渡米させて眞の日本の腹を割つて米國と相談させたのです。この時行はれた非公式の會談が二回、公式の會談が前後八回に及びましたが米國の態度はつけ上る丈で一向埒が明きません。その相談を續けて居る最中に一方ではA・B・C・D會議をしたり、南洋方面では比島、馬來、蘭印等の軍備の増強に狂奔し、總動員の發令やら軍隊の待機命令、燈火管制の實施、豫備兵義勇兵の召集を始めとし、新嘉坡へは新銳戰艦プリンス・オブ・ウェールズが入港して英國の極東艦隊を強化する等全く米英の會談に對す精意の一片すら無かつたのです。最後には米政府は逆に日本へ向つて訊問でもする様に「東亞の事情に關する日本の説明」を求めると言つて、對日照會を發するに至つたのです。その仕打は失禮とも強慢とも言ひ様がありません。

ん。遂に茲に至つて日本が堪忍袋の緒を切つたのは當然の事と言へませう。

第二課 米國の主張

初めから會談を成立させる氣でなくて長引かせた舉句對日包圍陣を固める丈固めて、最後に袋の中の鼠となつた日本が泣き寝入りするのを豫期して居た米國の事故、その主張等は始めから問題にはなりません、一應その言ひ分を聞いて見ませう。

彼等の主張の根本を爲して居るのは、所謂太平洋原則と稱するものです。即ち(一)武力行使に反對、(二)門戶解放を爲し徹く迄機會均等であるべし、(三)既存の條約を尊重すべし、——これは國際間で締結した不戰條約及九ヶ國條約を何處迄もその理由やその時の情勢がどうなつて居やうとおかまいなく初めの約束通り守り通せといふ事になります。(四)他國の内政に干渉するのは反對なり、(五)軍備縮少の主張、の凡そ五條に要約出來ませう。一體太平洋原則といつてもその條文は大變に長文であり繁雜なものです、要旨をかいつまむと右に列記した事になるのです。而も我國が獨伊兩盟邦と三國條約を結び、又佛印と共同防衛の議定書を成立させ

た後は益々露骨に對日の敵性根性を露し、米のルーズヴェルトと英のチャーチルの有名なウエールズ艦上で議定された八ヶ條の共同宣言に依つて、日本、獨逸、伊太利を一體として侵略國扱とし、從來の太平洋原則は大西洋原則と一體として徹く迄日本の發展を喰ひ止めて自己の野望を完ふさせ様とするの外はなかつたのです。

口には成程平和を唱へ自由を叫び他人の武力を排撃する彼等が、それでは自分達の今迄して來た行爲に從來の植民地略奪といふ矛盾があつたのをどう辯明する積りなのでせうか、アメリカ第一主義を揚言して憚る處なく、他の迷惑や困苦等全く眼中にない彼等の正義は、私共が眞面目になつて論議するのも可笑しい位です。

尤も米國の自由主義といふのは昔からこの米國第一主義の形の變つた言ひ方で、古くはモンロー主義から始まつてジョン・ヘイの唱へた門戶開放、機會均等主義及びウイルソンの有名な十四ヶ條の宣言等口にする所文を聞くと立派な文句ですが、今となつては主義の墮落と言ふより外はありません。

扱、今回の日米交渉に當つて米國はこの原則を因執して我國へどうしろと言つて來たでせう

か。原文を離れて簡略に以下簡條として列舉しますと

(イ) 日、米、英、蘭、支、泰は不可侵條約を結ぶ事

(ロ) 以上六國は佛印の領土主權を尊重する、又佛印に於ける貿易及び經濟關係は平等の原則に據るべき事

(ハ) 日本は支那及び佛印より一切の軍隊を撤收する事

(ニ) 日、米は重慶政府以外を否認する事

(ホ) 日、米は支那の治外法權を撤廢し、又他國にもその拋棄を慫慂する事

(ヘ) 日、米は最惠國通商條約を商議する事

(ト) 日、米は相互に資産凍結令を廢止する事

(チ) 圓弗爲替安定を協定する事

(リ) 日、米は第三國との協定條約の太平洋平和に矛盾せざる事に同意する事

(ヌ) 以上の諸原則を他國にも慫慂する事

誠によくも蟲のよい事ばかり竝べ立てたものです。右の内(ハ)(ニ)(リ)の條約文を率直に言

ひ換へて見れば、日本が幾多の尊い血を流して抗日支那を膺徴して居る事實を一際念頭に入れないで、支那から陸海軍隊を無條件に全面撤兵させよといふ事及び一度相手にせずと聲明した重慶政府を認めて私共に共鳴して樹立された南京政府を否認せよといふ事、及び日獨伊三國條約を破棄して聯合國陣營に参加せよといふ事になります。

換言すれば、日本は支那事變以前の日本へ戻つて支那との戦争は今迄やつた丈が損で元の白紙状態へ歸り、獨伊との握手は止めて米國の味方になり、黙つて東洋の隅に指をくわへて見て居れば今迄斷絶して送らなかつた屑鐵も石油も少しは頒けても可いといふ言ひ分なのです。その言分には啞然として口も出ないではありませんか。

萬一之の條項に屈服した曉の日本は、最大眼目たる支那事變の完遂はおるか今後は支那からも相手にされず、而も友邦獨、伊を失つて完くの孤立の状態に墮り自滅の時期を待つばかりです。帝國の面目が何處に立ちませう。

踏んだり蹴つたりといふのは此の事です。帝國政府がこの前記米國提案に對して十二月七日付を以て送つた「對米覺書」の最後の條文ははつきりと私共の言ひたい事を言つてくれて居ま

す。即ち

「惟ふに合衆國政府の意圖は英帝國その他と苟合策動して東亞に於ける帝國の新秩序建設に依る平和確立の努力を妨害せんとするのみならず、日支兩國を相闘はしめ以て英米の利益を擁護せんとするものなる事は今次交渉を通じ明瞭となりたる所なり、斯くて日米國交を調整し合衆國政府と相携へて太平洋の平和を維持確立せんとする帝國政府の希望は遂に失はれたり仍て帝國政府は茲に合衆國政府の態度に鑑み今後交渉を繼續するも妥結に達するを得ずと認むるの外なき旨を合衆國政府に通告するを遺憾とするものなり」とあります。

斯くして八日未明の眞珠灣軍港の攻撃となり一舉に米太平洋艦隊を覆滅し終り、さしも傲慢な米國も餘りの實力の差に啞然としたのですが、これ丈の武力を練つた陸海軍の日頃の勞苦に對しては私共感謝の言葉を知りません。

第三課 亞細亞の黎明

思ふに此度の大東亞戦争は禍轉じて福となつた感があります。貧弱な抗戦力を以て今日尙奥

地に抵抗を續ける重慶政府とて決してあれ丈の武力や經濟的の實力がある譯ではなく、英米の背景あつてこそ今日も未だ餘命を保つてゐるので、蔣は英米の單なる走狗に過ぎません。彼の蒙昧の爲に塗炭の苦澁をして居る幾億の支那民衆、及び英米蘭の壓力下に未だに文明の恩澤だに知らぬ幾多の東洋人は大東亞戰の勃發に依つて、初めて光明を見出したのです。誠に亞細亞のみ亞細亞を救ふので東亞の盟主日本が此の一戰に賭けられた命題は尠しとしません。

今や聖戰は獨り日本的な目的よりでなく支那人、馬來人、泰人、比島人、ビルマ人、印度人のより向上した生活確保の爲に遂行されねばなりません。これは人種的に言つても無意味な事ではないのです。元來考古學の教ゆる所は南方のマレーヤインドネシヤ族、北方のツングース族、及び西方の蒙古族、漢民族等の幾多の東洋人種が日本の國へ移つて來て幾萬年かの間に純化融合し合ひ原住民を北方へ追ひやつて茲に優秀な血液の渾化した純粹の大和民族を作り上げたので、この優秀なる大和民族が悠久二千六百年後に再び南方へ飛躍して之等諸民族を指導育成する運命となつたのも又意味深い事であります。

又東洋の天地へいつからこんな皮肉の色の違つた米英人が入りこんだかといひますと、そ

の歴史は大して古い話ではなく近々百年位前からの事なのです。即ち新嘉坡即ち昭南島を英人ラッフルが占領したのは徳川家齊の時代文政二年ですから今から百二十三年前の事、又香港へ英軍が上陸占領したのが天保十二年徳川家慶の項で丁度百年前の事です。又蘭領印度に於てはスマトラへ和蘭の工場が設立されたのが慶長五年で丁度秀吉が明國の國書を見て激怒した年に當ります。更に同じくパタビアに和蘭東印度會社本部が設立されたのが元和五年で徳川秀忠の時代、更には又比島が米國に併合されたのは僅かに四十四年前で、日本が臺灣を版圖にした三年後に過ぎません。

何れも我國が鎖國主義に禍されて外國と通交を絶つて居る間に續々と歐米人に蹂躪されて了つたのです。秀吉の外征や南洋各地へ八幡船と稱する日本武士團の侵入、泰の山田長政等といふ海外進展の異例もありますが、今日より觀れば日本人を始め東洋人の進展の遅かつたのは否めません。然し米英反撃といふ動機が手引で茲に亞細亞が眞の姿に甦生すると思へば今後の盟主日本の立場は重大と言はねばなりません。

さらにしても茲に共榮圈の問題となるのは、一は經濟の建設と一はこの民族問題なのです。

血は同じ東洋民族であり皮膚の色も酷似しては居るが百年間の歐米教化の爲に彼等は多分に歐米化されて居る者あり、又その特殊文化や習性傾向を異にして居ります。米英人は彼等の進歩を嫌つて文化の向上を與へず種族個々の生活を許して團結を許して居ませんから彼等の今後の訓育は相當努力を必要とするのです。而も宗教問題は民族指導の上に於て忘れてはならない鍵でせう。佛教ありラマ教あり、扱は隠然たる大勢力を有す回教ありで之等宗教の自由は勿論肝要な事となつて來ます。この様に多種多様な民族が原始的にばらばらな生活をして來たのを指導育成して共榮圈に目覺めされる事を考へる時アジアの黎明は輝いて居ますが道は近いとは言はれません。經濟的問題を觀ても通貨、資源開發、原料分布、食糧等々その一切を轉じて今迄の歐米本位の狀態から日本的の性格を與へる迄には一朝一夕の事業ではありません。經濟建設に關しては以下出来る丈詳しく説明を致しますが、この外に秩序や統治をどうしたらよいかといふ問題が生じて參ります。之等の問題に就いては私共より當局者方が苦心を拂はれる所で、慎重な態度でゆつくりと百年の大計を必要とする所です。

併し現在迄の所統治に對する官の方策は私共の首肯出來る所と思はれます。即ち香港攻略後

いち早く軍當局は同地の華僑の有力者を招待して彼等にその協力を求めて居ます。比島の攻略後は有力者たるマニラ市長に委託統治を許して居ります。之等は統治される民族の心理を巧みに捕へ得て妙といはねばなりません。蘭印、ビルマ及び印度に對しても東條首相は各々その民族の自立共榮を確約して倚らしむる所を明にして居ります。尤も英領の南洋各地は我領土としても民族間に政治的連絡は少なく比較的樂と思はれます。

何れにせよ今後の共榮圈の統治と秩序の問題は彼等に名よりも實を與へ、安心して日本に信頼せしめる所に骨があるのでせう。米國などは比島併合の後政治的獨立思想を吹込んで御得意の自由主義を鼓吹し乍ら經濟的にはその自由を與へなかつたのです。

即ち第一次歐洲大戰前には比島の米國への輸出は總額の二分の一さへも出なかつたものが、大正十五年以來は毎年四分の三以上を輸出して居た様な有様で實際上の獨立はこれでは出來得ない結果になつたのです。茲にも米國の一流の政治的手腕が見られます。英國の印度に對する獨立空手形は今更説明する迄もありますまい。(大東亞戰爭の戦火が印度へ迫ると見るや再び英國はこの手を用ひましたが、軽く印度から一蹴されて今更あわてゝゐる始末です)

米英人が東洋へ進出して来て土民人に與へた經濟力といふものは殆ど零に近いものがあります。よい例が米英人と土人との生活様式を見ても解りますが、まるで文化の程度が違ひます。百萬長者と犬位の隔りは充分在ります。こんな虐待されても土人等は別段不平を訴へる譯でなく易々として歐米人の顎の先にこき使はれて居たばかりか、此度の戦争で何時も危険な第一線に曝されて日本人と闘つたのは彼等ばかりではありませんか。永い間の屈從生活が彼等をして斯かる不平等な生活に甘んざしたとは言へ、一度皇軍の連撃に一堪りもなく打ちのめされた白色人を見て手を叩いて喜び、進んで我軍の作戰に協力の態度を見せたといふのも無理からん事です。日本人を天與の救世主の如く思ふ事せう。この觀念の存在する間こそは統治も満足に行き亘る事せう。

然し彼等が日本人を尊敬する一面、私共は彼等と協力するといふ態度をなくしてはなりません。彼等を卑下して屈服させ様とすれば今迄の歐米人と何等異なる事はなく、而も一度民族意識を取戻して居るだけにその反抗は強いものでせう。徹く迄も日本は東洋人の指導者らしく、各國民の自治的協力を求めて政治的及び經濟的に彼等のより幸福な生活を考へてやるべきです。

この爲には彼等民族の意識を研究する必要があります。この研究は極めて角度が多く複雑なもので決して表面だけの上滑りな獨り決めは出來ない事は勿論です。

斯の様な意味合ひから言つたら、寧ろ此度の大東亞戦は米英との武力の争ひといふより、東亞の新秩序の建設戦と言ふ可きでせう。更には又共榮圈經濟の確立長期戦とでも言つた方が穿つた言ひ方になります。

茲に今回の大東亞戦の意義が在り使命の重大さが在るのです。私共日本人の禪を締め直さねばならぬのも亦茲の謂に外なりません

第二章 共榮圈經濟の出發

第一課 世界經濟の新編成

抑々歐洲に第二次の大戦が突發した時から世界の經濟は全然今迄と模様替になつて了ひました。今迄は唯金を持つて居る國、植民地を澤山持つて居る國が氣樂な生活をして、貧乏な物資

のない國は何時迄たつてもその分前わけまへに預らないのでは餘りに不公平過ぎます。それ丈ではありません。持たない國が持たうとして進出を企る度に持つて居る國から出鼻を挫かれては全く立つ瀬がありません。歐洲の一角に獨逸が敢然と立つて英國に挑戦したのは全く伊達や醉狂からではなかつたのです。言ひ換へれば獨逸も日本も自國の存立を危くする破目に陥つたから起ち上つた丈なのです。持たざる國の代表的な獨逸と日本は、從來の自由經濟の矛盾を革新して新たな理想の經濟を編成せんが爲に持つて居る國米英と干戈を交へるに至つたのです。

それならこの新理想に燃える經濟とは何を言ふのでせう。所謂高度國防國家經濟なのです。元來戰爭が無く共從來の資本主義や自由經濟の悪い結果にフラ／＼になつて來た我國の經濟が、辛うじてその餘力を繋いで來たその根幹は國家が統制の監督をしてその限られた重箱の中で脱線をしない様に養てられて居た經濟がいざ大戰の勃發に直面して、戰時經濟と並行して直進して行く爲には、いやでも應でも國家を基本に置いた廣い眼界の經濟が必要になつて來る筈です。嚴重に申せば唯經濟丈の問題ではなく政治も國民生活も教育も文化も總ての國民國家の活動力を一丸として國防といふ一點に集結して、而も最高度にこれを發揮させる機構これぞ國

防國家經濟といふの外はないのです。いやに廻りくどい言ひ方をせず一口で言へば國家の全能力を發揮出来る様に經濟の組織を編成替へする事なのです。世間にいふ公益優先も新體制も何れもこの組織を中心として初めて意味あるのです。

次に獨逸の有名なフンク經濟相は獨逸の戰後の經濟組織の組立て方策として廣域經濟といふ言葉を使つて居ります。即ち今後は歐洲は獨逸を中心とした歐洲廣域經濟圏を作つて、この圏内で自給自足の經濟を營むべしと論じて居ます。これも言ひ換へれば國防國家經濟に外なりません。つまり、自分と利害目的を同一にした諸國家群が一團に固まつて各自の持つてゐる物資と無い物資とを交換し合ひ、如何なる國際間の危機に直面する場合があつても、完全にその圏内だけの生活を他の力を藉らずにやつて行ければ國家の強みはこれ以上のものではありません。

この廣域經濟圏の中に含まれる國家群は從來の様な自由獨立國の集團ではなくて、一の指導國を中心として之れに協力する諸國家群であります。勿論この國家群は何れも政治的に見れば各自獨立國であつて決して差支へはありません。

日本を中心とする東亞共榮圏と言ふのも畢竟この廣域經濟を言つたに異りません。獨逸、伊

太利を中心とする歐阿廣域經濟は歐洲の諸國とアフリカを包括したものであります。

それなら其れ自身廣大な領域を有する米國やソ聯はどうかといふに、如何に持てる國と言つたところで自分だけの力で何もかも調達して行くといふ事は考へられませんし他の有力國家群には勿論頼れません。従つて夫々その勢力範圍を自らの近隣の國家群に求めてその協力を求めざるを得ません。米國が最近南米の諸弱國を使喚して日本に對し宣戰布告を強要して居るのはその一の表れでなくて何でせう。南米中にはアルゼンチンの様な相當腰の強い國があつて、安と米國の註文には嵌りませんが、併しこれとて時期の問題で脅し半分の米國にかゝつては最後の切札は大體見えすいて居ます。其處でこの北米、中米、南米を貫く廣域經濟を汎米共榮圈といひませう。最後に同じ意味からソ聯からベルシヤ灣迄をソ聯中心のソ聯廣域經濟とします。

以上四の廣域經濟は目下の歐洲大戰及大東亞戰爭が齎した已むに已まれぬ隣組共榮陣であります。假りにこの兩大戰が終了した曉を考へて見ます。之等自給自足に依つて固定された國家群の組織が平和になつたからと言つて急に元の構成に復歸出來るとは考へられません。一度基礎の出來た産業組織はそう急には元へは戻れません。例へば本屋を模様替へして全然設備の

違ふ食物屋にするといつてちよつと間に合ふものでもありません。

まして廣域經濟の出發の目的は國防にあるのですから、平和になつたといつて急に國防を棄てるのは無謀この上もありません。従つて、この廣域經濟の組織は從來他の廣域群と通商の機會があつても、飽迄自給自足の本質は動ぜぬ譯です。

大東亞共榮圈の重要性は茲にはつきり皆様の目に映つたと思ひます。

第二課 東亞共榮經濟の課題

日本を盟主として滿洲、支那及び南洋各國及びビルマ、印度を含めた大東亞共榮圈の經濟は兄弟しつかり結び合つて互ひにその有無を相通じ一致協力して、他の何れの廣域經濟圈の國民にも負けない様にやつて行かねばなりません。併し口には簡單に言へますが實際に經濟的の歩調を合せて行くには前途に澤山の難問題が横たはつて居ります。

成程南方には豊富な物資が山程あります。但し此等の物資は今後米英に向つての輸出が止つて東亞共榮圈の中で鹽梅あんばいする事となると有り餘つて了ふ心配のものがありません。(砂糖、ゴ

ム、錫類) 他面共榮圈内の生産では各自の需要には不足する場合も生じませう。(纖維原料としての棉、重要非鐵金屬としての銅、亞鉛、ニッケル其他、及び濠洲を加へぬものとする) 羊毛及小麥類)

此等の過不足物資を上手に處分したり一部に遍在して居る物資を交流させて例へば米完全共榮圈内で自給自足するには随分と困難な事はありませう。今迄の南方共榮圈内で行はれて居た貿易の實績を見ましても圏外へ物資を輸出した額は全體の七割で圏内の輸出といつては三割に過ぎず、又南方共榮圏外から仰いで居た物資は輸入總額の六割で圏内仲間同志の輸入といつては四割に過ぎません。この經濟調整は一に掛つて日本の指導開發の技能如何に在る譯です。

差し當て日本の遂行すべき任務は何でせうか。南方からその重要物資を取得したり、南方諸地との物資交流を行ふ一面此等物資の開發資材と生活の物資を供給してやる必要が生じませう。然し乍ら現在に於ける日本は米英を相手としての生きるか死ぬかの一大決戦の最中です。それなのに反面經濟建設に乗り出す事は非常な骨折な事は言ふ迄もありません。極めて廣範圍に亘る南洋諸地域の經濟開發は焦つては失敗の第一です。着々として堅實な一歩々々を踏み出

す事が肝心でせう。従つて比較した結果最も開發を必要とする物資の順から着手して徐々に全體へ手を廻す様にしなければなりません。又考へ様によつては資材の點に於て中國や滿洲國の様な新規の生産設備は不要の場合もありませう。それどころか物資に依つては今後或る程度の生産制限乃至は他の生産への轉業を必要とする場合も生じるかも知れません。

ゴムの如きは従來は世界の九割迄此の方面で生産され(一年約八十萬トン)その内五割即ち四十萬トンを米國へ輸出して居りましたし、錫は世界の七割で此れ又歐米へ殆ど輸出され、砂糖の様なもの比島、ジャワで一年百萬トン近くも生産されて居りますが、日本は従來臺灣からその供給を仰いでその餘剰さへ生じて居たのでその分を滿支方面へ廻して居た位です。こんな状態ですから以上の物資には新しい開發資材は要りませんが敵國が相當既存のものを破壊して居ませうからこれが再建の程度で充分と思はれます。但し今後開發を必要とするものに鐵鋼石及び石油が在ります。政府の方針は之れに對して國策會社を設立せず既存の民間企業を總動員するとして居りますが、これには勿論自由進出を許さず政府が統制に當つて、猫も杓子も進出出来ると言ふではありません。又地域に依つてその出來高が多かつたり少なかつたりして

居る米其他の食糧品の場合は之れを内地又は必要な土地へ輸送する船舶其他の交通機關を充分に備へなければならぬ譯でこれとて戦争を遂行して居る片手間においそれと實行出来るものでもありません。茲に所謂長期經濟建設の必要が起るのです。勿論軍事能力を充分發揮させるだけの物資を獲得する事の必要な事は喋々する迄もない事ですが、民需の方面は先づ私共國民の生活程度を我慢出来るだけ切り下げて、齒を喰ひしげつてもこの聖戰を貫徹させる迄は何事にも贅澤を言へません。又均しく東洋諸民族幸福の爲の戦争なのですから南方の諸住民にも同じ様に負擔を分け合つて貰つて、一時は苦しくとも多少の犠牲は覺悟して貰ひませう。

此度の戦争を百年戦争と呼ぶ人があります。勿論そんなに掛かるとも思へませんが長期の艱難に耐へる爲にはその位の覺悟が必要です。従つて經濟工作の效果にしたところが二十年三十年後を楽しみに今日の不自由を忍ばねばなりません。甚だ都合のよい事に南方の諸物資は米英が日頃この地方からの輸入のみに頼つて其他の土地からは澤山手に入らぬ物資ばかりです。従つて此等物資をこちらへ確保するのは敵を弱らす最上策です。武力戦で勝ち抜いた日本は又經濟戰に於ても敵に悲鳴を擧げさせねばなりません。

茲に共榮經濟今後の大使命があると共に、南方民族火の玉となつて何でもこの經濟隣組の實績を擧げねばならぬ所以が在る譯です。

第三課 南方經濟建設第一歩

南方經濟開發の方針を一言で言ひ表はすとしたなら大東亞自給自足體制の確立と言ふ事が出来ませう。千年の大計を計るには勿論未だ幾多の宿題が在りませうが、現在有史以來稀に見る大構想な戦争を完遂させて居る途上に在る帝國として、尠く共現段階に於ける經濟建設の道は一あるのみです。此の道へまつしぐらに一億國民は突進すべきのみです。

今少しく具體的に言つて見ますれば(一)先づ資源を確保せねばなりません。それも第一に軍需資材であり、然る後に國民生活への必要物資であります。(二)南方に在る豐潤なる資材を少しでも敵國へ流出させてはなりません。これ聖戰を大勝へ導く近道であり、我が經濟戦力に餘剰を與へる奥の手です。敵國はどんなに南方の資源を渴望して居る事ませう。戦前米國が我國に對して必要な石油の輸出を禁止して手を叩いて喜んだのが、どうでせう反對にゴムや錫

の供給路を絶たれて手も足も出ない醜體ではありませんか。勿論敵といつても代用品や今迄の貯藏品で數年間は持ちこたへませうが、十年百年の大計は思ひの外です。第一に必要な物資を得られない精神的打撃は考へるだけでも相當に手痛い事です。(三) 作戦軍の現地の自治の確保です。目覺めた東洋民族が友達同志仲よく手を握り合つて共同の敵の爲先づ完全平和な土地を拓かなければなりません。(四) 南方民族の我への協力を誘導する事、詳しく言へば各民族をして各その所を得せしめる事です。風俗、習慣、宗教、何れも彼等獨自のものを持つて居ませうが、極力その自由を許して、歩調を合せて共榮といふ同一目的に文化向上を期待せねばなりません。又その歩調は飽迄も協力であつて強制であつてはなりません。東條首相は我國に進んで協力、米英に敢然宣戰の布告(一月二十五日)をした友邦泰國の獨立を尊重すると明言して居ます。又現在軍政下にある諸地域も秩序回復を目的とするもので決して民族を壓迫する目的から出たものではありません。過去百年の米英の搾取をのみ目的とした羈絆から彼等を解放して東亞の自主的共榮的經濟建設の第一歩を力強くも踏み出した譯です。日滿綜合産業計畫の樹立といひ、日滿綜合經濟の建設といひ孰れも東亞諸民族一體となつて米英の金權主義からなる

血と汗の搾取政策に對抗するものです。英米富強の根元であつた巨大な資源を東亞民族自らの手に奪還すると共に、之を東亞民族の解放の爲に又その發展の爲に用ひる事の出来るのは愉快の極ではありませんか。

私は繁雜な數字の羅列は努めて避けて讀者の理解を第一と致しますが、簡単に南方共榮圏の資源の生産状態の如何に豊富なるかを知る爲申しますと、先づ錫鑛石は一九三七年に十四萬瓩で世界總産額の六割六分(馬來、蘭印)石油は同年に於て九百萬瓩(蘭印、ビルマ、英領ボルネオ)鐵鑛石は二百六十七萬八千瓩(海南島、比島、馬來)タングステンは二千瓩、マンガン鑛は一萬六千瓩(蘭印、比島、馬來)亞鉛鑛は二十七萬一千瓩(ビルマ)でありその他銅は一、千二百萬ポンド(比島)ニッケル五萬五千瓩(蘭印)ボーキサイト二十七萬瓩(蘭印)クロム十三萬瓩(ビルマ)等で、南洋地帯は鑛産物の天與の寶庫ですが、尙今後鑛業の開發は將來に期待する所大であります。

此外特殊資源としてゴムは世界全産額の九割(英領馬來、蘭印)コブラ七割、椰子油四割、規那皮九割八分、マニラ麻が五割五分(比島二百六十萬擔)等で、東亞で自給出来ないものは

僅々數種に過ぎません。勿論之等でも我國の科學、技術の進展に依つて代用資源を合成創造致し充分補へるものと存じます。従つて此等の資源の輸送に必要な船舶は將來一千五百萬トン以上を要し、この數は戰前世界一の海運國英國の生命線とする最少限度の所要船舶に迫るものであります。

扱それなら此の様に有り餘る物資を包藏する東亞經濟圏の建設は如何にするのか。これこそ私共が第一に識つて誰よりも先にその實行者とならねばなりません。

その意味に於て、政府が南方經濟建設に當つての方針を識らねばなりません。鈴木企劃院總裁の説明に依りますと凡そ次の八點になります。

(一) 先づ資源を開發する順序は、資源を需要する方面の緩急な物から初め且つ輸送狀況と睨め合せてやらねばなりません。この順序は大綱を中央當事者が決めて民間は之に應じて動かねばなりません。これら取得又は開發する重要物資の用途も勿論一定の規則を作つて何の方面へでも使へるといふ譯には行きません。この用途を一番能率的にする爲に政府は考慮中であります。

(二) 開發に當る人間は何うするか。原則として石油、鑛産、農林産の開發はこの道に經驗手腕のある企業者に依頼して、綜合會社とか共同企業等は努めて避ける方針です。從來兎角能率の擧らない半官半民式の大會社に事業を任せてその實功の擧らなかつた弊が屢々ありましたが之の計畫は誠に適當な事せう。更にその企業者を決定する手段としては、民間の企業者團體には統制會といふ中心團體がありますからその意見と官廳の審議とを結び合せて採用するのです。

尙その採擇に當つては從來現地南方に在つて活躍して居た邦人又は邦人でなく共その事業に當つて居た人で我方針に協力的態度を採る者で適當であると認められたものの活用の途を構する要があります。

(三) 經濟開發に當つて一番重要な通貨の問題はどう處理するか。先づ差當ては現在その地で使用流通して居る通貨と等しい價格を持つ軍票(軍隊で發行する札)を使用する。但しこの軍票は飽迄一時的な處置であつて將來は兩者を調整して一つのものにするが、原則として現在は資金を移動させる事を許さないで、日本から現地へ現金を送る事が出来ません。それなら事

業資金は何處から得られるかといへば南方開發金庫といふ一種の銀行を作つてこゝで一切の賄をするのです。南方開發金庫に就いては場所を變へてよく説明致します。

(四) 日本と現地との物資の交換方法は、直接物のやり取りを行はずその間に政府が仲介人として扱ります。即ち、現地から日本へ物を供給する際には、先づ政府がその物を買入れて日本へ輸入します。同様に我國から現地へ物を供給するにも一度政府がそれを買ひ取つて輸出をする形をとります。これは政府が仲次業をやるといふ意ではなく、交易の運営は民間の商社が之れに當りますが、政府は便宜上本邦の統制機關と現地の輸出入組合と連絡をとつて單に監督者としての役目を果す事になるのです。

従つて現地の物資を集めたり配給したりするのはその地の専門家である商人なり又は勢力ある華僑の手を藉りる事は勿論で茲に初めて共存の實が擧がる譯です。

(五) 南方物資を輸送する順序はその物資の數量の多少と大切な物か否かの差に依り區別する事勿論です。現在の陸海運は殆ど軍部の監督下に統制されて居りますから、軍需品第一は已むを得ません。

(六) 經濟建設の側面的大目的は、此等の重要物資を一片と雖も敵性國家へ流出せしめない事です。

(七) 大東亞の天地へ勇躍したい人は數多ありませうが現在の處勝手に一般人の渡航は絶對禁止致します。これは却て現地の整理を混亂させ百害あつて一利ないからです。併し順次一般人の渡航も許されますが但し相當嚴重な選抜を受けます。これは私共の南進を禁ずる意味ではなく、現在に於てこそよりよい南方共榮圈を作つて日本人の活躍の天地を將來に於て益々強固たらしめ様とする一手段であります。

(八) 南方經濟建設の最大目的は、他なく、武力戰に於て勝つ以外に在りません。私共は勝たねばなりません。勝つ爲には非常な不自由を忍んでも大東亞の經濟建設を一日も早く完遂せねばならないのです。戦はん哉大東亞戰爭。拓かん哉大東亞共榮圈であります。

太平洋に波立ち騒いで未だ五ヶ月にもならぬ今日、經濟建設の具體方針が決定せぬのは無理ではありません。併し時局は少しの猶餘を許しません。着々としてその方策は決定されねばならないのです。

ところで今迄の邦人の南方活躍の實績を調べて見ますと遺憾乍ら産業會社の進出は餘り澤山ありませんでした。米英の横暴から邦人に對す壓迫の手は苛酷なものでしたが、他面我國人が南方に對す理解の度が少なかつた事も一原因でせう。農林水産鑛業の全體で南方へ進出して居た邦人は約四萬餘、その投資額も僅か三億圓餘に過ぎません。之れに加へて近年強度の入國制限やら、輸入割當又は禁止、企業進出の阻止等目に餘る仕打の連続でした。今にして此等迫害された邦人の積る怨は晴らされたのです。

更に事業會社で從來南方を舞臺として居た會社は（括弧内は會社又は事業所の所在地）

南洋拓殖會社及南太平洋貿易會社（セレベス）

南洋興發會社（ニューギニア）

石原産業會社（マレー）

野村合名會社（蘭領ボルネオ）

東洋拓殖會社（英領ボルネオ）

ゴム栽培協會（スマトラ、ボルネオ、マレーのゴム事業）

東拓及日比興業會社（フィリッピン）

等でこの内南拓及南太平洋貿易と南洋興發とは合併されるでせうが、總て以上諸會社は總て一丸となつて大同團結の氣運に乗つて居ります。

南方開發に當つては此等既存會社を第一に尊重し、これに加へて新たなる資本との調整に依つて既に開拓にある土地は勿論、南方幾多の處女地の開發こそ目覺しい事でせう。

何事でもそうなりますが特に南方開發の場合大切なのは御膳立よりこれを運用する人に在ります。どんなに立派な組織や機關が備はつて居てもこれを充分に活用出来る人間にその人を得なかつたら寶の持ち腐れに了ります。ところがこの要求に應じられる既成の經驗者は餘り多くありません。といふのも南方に對する邦人の今迄に於ける進出振りが色々の事情や妨害の爲甚だ貧弱であつた爲です。増して適材適所の人を選ぶのは此の際誠に困難な事になります。この缺を補ふには民間の商社や經濟團體と緻密な連繫を持つて、技能の秀でたよく衆人を率きいらされるだけの手腕の人を選定するのが何よりでせう。

併しこれは當座の便法と稱すべきで、宜しく長期に亘つての南方開發人の養成は國家の最も

大切な事です。勿論この爲に從來の國民教育の全般に亘つて改良を施す事にもなりますが南方國民の訓練所といふ可き計畫も必要です。(第九十八議會に於て政府に此の用意ある事を首相が明言しました)

その組織を考へて見ますと、收容人員は今後南方へ開發の希望を持つ人々、引上邦人や殘留邦人で再教育の必要があると認められる人々で、内地及現地に出来るだけ澤山に設置の要があります。教育の内容は今後南方開發に必要な科學や技術的に缺く事の出来ない經濟常識の修得を第一に、南方民族の理解とこれが指導者として恥かしからぬ様な道德修養も大切です。

扱茲に今日南方を引揚て來た邦人は約四千人以上も居ります。此等の人々の活用手段として更に今一度南方の天地へ飛躍して貰ふ事です。但しこれには充分な人選のいる事は勿論で、その素質のよい人には再渡航の優先權を附與致します。又訓練の必要のある人は再教育の上その得た體驗に物を言はせて貰はねばなりません。今迄米英の壓制の下に涙と共に働いた人達が、今日からは堂々と日の丸の下で主人格の仕事をするのですから働き甲斐もあり、それだけ疲れも感じないでせう。

政府は又場所と事業に依つて南方への特殊移民の計畫中で、一例を挙げれば海南島へは既に豫算を計上して居ります。

第四課 南方建設の諸機關

緒戦以來赫々たる戦果を納めて居る一面に於て、政府は頼もしくも着々とその經濟及び治安の建設に鋭意努力中であります。

この目的に添ふ爲には先づ民間人の優能の士をどしどしと軍政顧問又は相談役として重用する方針で、南方陸軍の要職へ囑託として八氏を依囑(元内務次官大達茂雄氏外知事級四人及び陸軍中將片山省太郎氏外軍人關係三人)更に海軍々政顧問としては財界、政界の大建者五人を決定しました(元商相で産業設備團總裁といふより藤原工業大學校長で有名な藤原銀次郎氏、元企劃院總裁竹内可吉氏、元大藏次官大野龍太氏、元警視總監山崎巖氏、日本及東京商業會議所會頭の藤山愛一郎氏)又軍政補佐機關としては東京市長として識見の高かつた永田秀次郎氏外三人(村田省藏、砂田重政、徳川義親の諸氏)が確定し何れも現地某方面に於て軍部の相談

役として永い間の蘊蓄を傾けて居ります。

更に中央機關として國民の凡ゆる智能を總動員して、今後南方開發の総合的な計畫を樹てたり、又はこれを實行するに當つて種々と調査審議を目的とする大東亞建設審議會といふ會があります。

この會は東條首相を總裁として委員は全部で三十七人から成り、その總てが學識經驗のある立派な人達で、財界方面からは鮎川義介氏外十四人、貴衆兩院方面からは有田八郎氏外十三人、軍部からは井上幾太郎氏外三人の當代一流の方々ばかりで、此等の人々が集つて、南方經濟の建設に關係のある一切の事を相談し合ひ、南方開發の名案があればそれが適當なものかどうかを決めるばかりでなく、進んで良い計畫を建議する事が出来るのです。

例へば或る事業に就いて南方へ進出して發展を計り度いと思へば、政府は先づ此の審議會へ持ち出して一同の意見を聞き、更にその事業の統制團體と相談をしてよいと決まれば適當の人物を選定して、充分に活躍出来る様にしてやるのです。丁度これは天下の御意見番大久保彦左衛門といつた役所です。

斯うして練りに練つた名企劃が成立したとします。これをいさ南方で實行するに當つて忘れてはならない事は資金關係の問題です。

徒に一部の資本家に委ねては慎重にも慎重を重ねた折角の名企劃も、その實權は一方にのみ片寄つて意味をなさなくなります。

この必要から生れ出た國家的金融機關が南方開發金庫と申します。こんな機關は勿論我國では初めての事ですが、この道の先進國である獨逸にもその例がありません。

その事業とする所は今申した様な資本の投下や融通の外一般銀行業務の仕事に似た事もやり、又中央銀行（日本で言へば日本銀行）の役目である通貨の調整もその一役ですが日本銀行と違つて紙幣を發行する權限はありません。

それなら何から資金を求めると言ひますと、現地で債券を發行したりして地場の資金を吸収し、日本の金融機關の資金の餘剰分や現地に在る夫々の中央銀行から資金を借入れます。又占領地區の敵の財産を沒收しても資金は得られます。尙日本國家の財政豫算の中の臨時費特別會計といふ部門からも軍票資金を借入れられる事になつて居ます。但しその主義として飽迄現地

の資金を動員する事即ち既存の金融機關を活用する事となつてゐます。

茲に注意する事はその業務の行はれる土地の限界で、一言に南方といひますが、現在のところ現地の通貨を使用せずに軍部から發行した札即ち軍票の使用區域に限られて居ります。従つて南支や南洋委任統治領は申す迄もなく我國への協力國である佛印と泰もその區域の内へは加はりません。従つて今のところその業務の對象となるのは比島、馬來、ボルネオ、蘭印等を指す事になります。將來この範圍は皇軍の戦果と共に擴大する事勿論です。

又この金庫は決して一時的便法から設立したのではなく、作戦に應じてその業務の範圍は擴大もすれば、縮小もするのであつて、南方の治安が平常に復歸し現地の通貨が（現地通貨は非常に複雑ですが後の章で説明致します）利用出来る様な場合には軍票を回収して現地通貨と交換をする爲替の賣買といふ新しい業務も出来て参ります。

その資金融通者として規定されて居る者は軍政下に在る企業者又は物資蒐集者でありましてこの内には南方關係の水産業者も含まれて居ますが、但し、捕鯨漁業者は適用外とされてゐます。

何れにせよ投融资と中央銀行の二種類の業務を兼ねた金融機關は珍らしい事です。支那の場合を見ても投融资は北支開發及中支振興の兩會社が受持ち、普通銀行と中央銀行の役目は中國聯合準備銀行が當つて居ります。従つて南方建設に此の「手八丁」とも言へる南方開發金庫の活躍は充分期待出来る事と存じます。

尙本金庫は當分資本金一億圓で本店を東京市に置き、現地に支金庫又は出張所を設けますが此の外銀行で南方へ進出するのは横濱正金銀行と臺灣銀行の二行に制限し、既に在つた支店以外は民間銀行の進出を許しません。

現在南方各地に支店のある銀行は次の通りです。

正金銀行は、佛印（河内、西貢）泰（盤谷）蘭印（バタビヤ、スラバヤ、スマラン）馬來（昭南港）比島（マニラ）ビルマ（蘭貢）

臺灣銀行は、蘭印（バタビヤ、スラバヤ、スマラン）馬來（昭南港）比島（マニラ）

此の外三井銀行支店が蘭印のスラバヤに、華南銀行が蘭印のスマラン、馬來の昭南港に在ります。

第五課 共榮圏の通貨問題

今南方共榮圏に使用されて居る通貨を見ますと、その國が各々違つて居る關係から通貨の種類も何通りもあります。即ち

佛印——ピヤストル

泰——バーツ

蘭印——盾

比島——ペソ

馬來領及ボルネオ——海峽——弗

ビルマ——ルビー

等々の繁雜さです。

軍部は之等の諸地を占領の軍政下に於ては現地の通貨と等しい價格で表はす軍票を發行してこれを流通させました。

これは支那事變の際の支那の軍票が日本の圓を以て發行されたのとは違つて、例へば比島の場合軍票の一ペソは從來の比貨の一ペソに等しい譯です。

従つて我國から經濟進出するに當つては(一)我國の圓(二)現地通貨を表示する軍票(三)在來現地流通の通貨の三種類があつて繁雜の様ですが、總て現在に於ては、一時的の假處置として軍票が絶對支配權があるのです。これは軍政が完全に行き亘つた今日何等の不便もありませんが、併し通貨に三種類あつては圓滿な經濟活動には多少妨害になります故治安が安定し、經濟状態が元へ復歸すれば何等かの適當な通貨制度が早晚實施されるのです。

畢竟するに現在の段階に於ては長い間英米の經濟勢力の浸潤してゐた南方各地から、成る可く迅く敵性通貨を追ひ拂つて、完全な共榮圏經濟を取り結ぶ通貨制度を創らねばなりません。即ち從來は米國の弗と英國の磅が爲替の基準となつて居ましたがこれとの連繫を切斷して假令各地の通貨はそのまゝ使用されて居ても我國の圓貨を基礎として、經濟取引の中心は飽迄も東京で決濟を行ひ、各地の中央銀行なり發券銀行は我國の日本銀行に清算勘定といつて、夫々の國の決濟口座を設け、受取り勘定も支拂勘定も一樣に圓貨で日銀口座の上で處理する様に致さねばなりません。

佛印のピアストル貨も泰のバーツ貨も從來は米國の弗を仲介として決濟をして來ましたが、

之れとて同様に我圓貨に連絡させねばなりません。

尤も米英との物資の交換が無くなれば、いや應なく敵性の通貨は影をひそめ我圓貨に靡かざるを得ません。政府は右の主旨から自主獨得の大東亞金融圈を設定して一月一日より實行致しました。

即ち之れに依りますと(一)外國爲替相場は從來の米英基準を一擲して總て圓建とします(二)從來爲替相場は爲替銀行間の協定に基いて大藏省が認可を與へてゐましたが、今後は總て政府が決定して發表する事になります。従つてその決定が動かない限りは相場の變動等は起らない譯になります(三)爲替相場といふ名を廢して換算率といふ事にします。從來の様な賣と買の二本建の相場は自然無くなり、一本の換算率で決濟されるので、東亞に於ては圓がなくては經濟は棒絞りと同様になります。之れは獨逸が全歐洲にマルクを中心とした通貨關係を樹立したのと同じ態度に出た譯です。

尙日泰兩國間の貨幣關係は等價即ち百圓につき百パーツとする事に諒解が成立します。四月二十二日から實施となりました。

第三章 決戰日本の構へ

我國は支那事變開始以來四年間致々として臨戰態勢を整備して參り、劃期的な大東亞戰爭に依て國力を伸張させるの好機に遭遇したのでした。支那事變の最中横暴にも米英の資産凍結に逢つたり、其他飽く事を知らない幾多の敵性行爲に直面しまして、海外からは日本國力を總ざらににする一大消耗戰の如く呼ばれ、國民も亦米英の宣傳や策動に乗ぜられて、四面楚歌の内暗澹たる前途を心配したものでありましたが、戰爭の遂移と共に着々として共榮圈が確保されて行く事は帝國の前途に希望と光明を投げ掛けました。先行見込の充分在る戰爭です。今日只今の困苦に何で不満を抱けませう。よし私共の時代に實を結ばなくても結構です。私共の子や孫が我々の光輝ある業績に依て日本國民に生れた事を感謝する事があつたら私共の欣快は之れに過ぎるものではありません。

大東亞戰爭の突發と同時に我國は既に支那事變に依つて整へかけられた決戰體制を一層強固なものにする段階に入りました。政府は時を移さず戰時に必要な萬端の緊急對策を採り、財界

各界又これに相呼應して共同戦線を敷き徹く迄完勝の決意を披瀝し、一時心配された財界の動搖などは大藏省の聲明を待つ迄もなく些かの搖ぎも見せない位です。生産部門を見ましても、新たに南方物資の獲得といふ力強い將來性もあり、又國內生産の増強もこれと呼應して進捗の道に就き長期建設戦の旗じるしのもと微動だに致しません。他方國民生活はどうなつたかといひますと、物資統制令の施行と貯藏營團の實施に依り、堅實の足並に少しの狂ひも見せません。國內の此の頼もしい協力を背景として二百億に近い軍事費を含む未曾有の大豫算も何の修正もなく議會を通過致し、今更帝國の實力の偉大なのに驚かされる位です。

この上は私共は何に恐れることがありませうか。唯戦勝を目指して國の内も外もひたすら協力その成果をより一層擧げて共々國威を發揚するあるのみです。私は以下順次各方面の強靱な陣容を御照介致しませう。

第一課 財政必勝の配陣

一國の財政といふものは一家の懐勘定と同じ意味で總てを支配するものです。つまり國家を

して一切の戦争行爲を完全に成し遂げさせ、今後の經濟建設をして微動だにもさせない爲には之れを切り廻す國家の臺所勘定、即ち財政の運用を上手に切り廻さねばなりません。從來何度か我國は外國と戦争をして來ましたが、幸にどの戦争にも大勝を博して來ました。今その何れの場合を考へても世界富強國の内に我國を最眞にしてくれる國家が必ず何處かにあつて、これが財政的に色々と便利を計つて呉れたので戦費の調達は内國債の外に外債といつて一定の利子を拂つて日本國家が外國から金を借りる事が出來たのであります。その頃の日本の財政的實力はまだ貧弱なもので獨力で戦争をするだけの財政的實力がなかつたので勢ひ歐米の先進國から金を借りて戦争費を處理せざるを得なかつたのでした。處が此度の支那事變延いては大東亞戦争となりますとその趣き（きま）ががらりと違ひます。一切合切の切り廻しは獨立獨歩で行くより外はないのです。外國で我國に金を借してやらうといふ事が無いばかりでなく、それに頼らなくとも日本が自分だけの獨力で處理して行けるだけの國力を今日に於ては持つてゐたからなのです。事變の初め、抗戦相手の支那を初め歐米各國何れも日本の此の財政的の實力を見くびつて、長期に亘る戦争に依り國內の生産力は減退し財力も疲弊して、到底永い年月外國と戦争の

出来る能力等あり得ないと誤算されたものでした。この錯覺あつたればこそ米英は我國の武力的優秀さをも認識出来ないで、我國を侮蔑し切り無理にでも喧嘩を賣付けて來た譯なのです。それにどうでせう、我財政力の餘裕綽々たる事は日清、日露の兩役を完全に數十倍するやうな大きな戦時の賄を獨力で切り盛りして尙且つ餘りあるのです。然し戦はやつとその第一段階に入つたばかりです。まだ／＼今後の戦費はどんなにかゝるか見當もつきません。國民はこの位で油斷したり、安心は決して出來ません。何と言つてもこれからの戦争は物と金との争ひです。戦争する爲には充分の物資と之れを調達する金がなくてはなりません。所謂腹がへつては戦は出來ない事になります。此の意味で國民各層の者一層眞剣になつて國家と力を協せて財政の健全なもり立てに努力しなければ、折角の武力戦争の大成功も水泡に歸してしまひます。

只今申しました通りこれからの戦時財政といふものは全然今迄と行き方を異にして居りますし、その金額も殆ど昔とは比較にならぬ程大きなものであります。茲に面倒な數字を列べ立てた所で皆様の理解を混亂させるに過ぎませんから、努めて簡略に申しますが、支那事變當時の毎月の戦費は四億圓から五億圓位を要しましたが、大東亞戦の今日は優に十億圓を突破して居

ります。

此の尨大な経費を賄ふ爲の國家の豫算は、平時に於ても見積らねばならない一般會計と軍事費の外に、特別に戦争の爲の軍事費とに分けられます。その内一般會計は八十八億圓に達しますが、其の経費は普通の経費ばかりと言ひますが戦時下に缺く事の出來ない経費ばかりを計入したもので、假令名目は普通の経費でありますが廳て軍事を推進させる上に役目のある経費ばかりでありますから、その實質は軍事費と何等異るところはありません。

次に本來の軍事關係費に於ては、一般會計即ち平年度に於ても見積らねばならぬ性質の軍事費は極めて少くて七千五百萬圓に過ぎませんが、大東亞戦の爲の特別に必要な軍事費即ち豫算の上で臨時軍事費追加と稱するものは百八十億圓に達します。この追加は支那事變以來の追加からいふと第八回目で第一次からの追加額を總計しますと合計四百七十億圓といふ莫大な數字に昇ります。

この様な多額の軍事費ではありますが、この内容を仔細に見ますと、所謂純粹な武力戦争費用の外に、これからの南方開發に大切な資源の買入やら、又これが爲に資金の流通を計る南方

開發金庫の様な經濟建設の經費も加算されて居るのを見逃してはなりません。つまり軍事費と一概に言つてもその中には之等の南方開發經費やその貸付金、物資貸付金等を加算してありますから、差引すると純粹な戰爭費の額はそれ程多額とは申されません。又之等の貸付金の利子や物資賣渡金による収入は從てその歳入の側に入つて來ますが、その豫算額は約九億五千六百萬圓で、これだけ戰費から差引いて考へても可い譯です。

扱此の尨大な經費は何處から支辨するのかといひますと、これを先づその主要財源としての公債の發行に依つて百四十一億圓餘を支辨致します。勿論其他にも一般及特別會計から繰入れる金額が三十億圓餘と其他からの支辨も多少あります。

要するに軍事費は國債の發行が上手に切り廻せるか否かに依つて支辨出来る出來ないが決まります。公債發行といふのは愛國債券乃至報國債券の名目で賣り出されて居るのが此れです。

國債發行の過去の成績を申しますと、大體に於て成績は良好でありまして昨年中の發行總額八十七億八千萬餘圓の内消化出來たのは七十三億餘圓で、發行した總額の八割三分九厘迄は消化し切れたのです。又支那事變以來の發行總額は二百六十三億圓で、その内消化額が二百十八

億圓ですからその八割二分八厘が消化された譯です。

國民が國家へ献納する資金は右の國債に依つてのみでなく最大の資源を爲すものは、その納税に在る事言ふをまちません。所謂納税の義務は國民の三大義務の一である事は御承知の通りであります。國家の資力の基礎を作るものは國債と租税に在るので、まして戦時の財政を調達する爲には國民は凡ゆる生活を犠牲にしても納税の義務を立派に成し遂げねばなりません。日本國民である限り一人残らず戰費の負擔を引受ける事は當然の事で、どんなに零細な税金でも、各人の負擔する納税額は積り積つて多額の國家收入となつて參ります。

敵國である英國の場合などは、その税率はどの國にも見られない程高く、從て戦後平和によつて國家の財政に餘剰の出來た場合はその納税額の何割かを國民に拂ひ戻すといった様式もあり、又獨逸に於ては國難犠牲税といつて、一種の高率な財産税の様式を採る所もありますが、我國に於ては現在の處それ程迄に焦らなくとも立派に處理して行ける見込であります。國民としては今後一層高い税金にも驚かないだけの覺悟が必要です。

扱現在に於ける増税の内容を調べて見ますと、分類所得税を中心として平年度に於ては十一

億數千萬圓の増徴で、初年度には約十億圓未滿の増徴になります。その増徴の對象とする税の種類は(一)分類所得税を中心とする直接税(納税者が實際直接にその税金を負携するもの)
(二)電氣、瓦斯、廣告、馬券税等のやうな新たに創設された税(三)一面に臨時租税措置(一種の減免税)として法人が留保して居る所得に對しては課税を輕減し、減價償却年限を短縮せしめます。其他綜合所得税に於ては産業資金を流入する目的からして公社債、豫金利子の源泉課税選擇に依つて税率を引上げたり、配當所得に對する税率を引上げたりしますが、之等は繁雜ともなり、又特別の關係者以外には必要ありませんから説明を省きます。

要するにこの直接税の増徴に依つて先に七十七議會で増税となつた間接税(例へば酒税の様にその製造家が納税しますが實際は最後の消費者が租税を負擔するものです)の平年に於て六億三千萬圓の増税と、兩者が一體となつて本年度の豫算の根本は租税額六十億圓といふ數字が出て參ります。

大體國家の資力といふものゝ基礎は三方面に配分して割當てるものです。(一)財政資金——國家の財政を賄ふ方面(二)産業資金——産業を運行する爲の資金(三)消費資金——國民が

生活の爲に消費する資金、の三部面です。此等の三配分資金の基準となるものを國民所得と稱するので、現在の國民所得額は豫算から推定して約四百五十億圓とされて居ります。

(一)財政資金は約二百四十億圓でこの財源は、既に申し述べた通り、公債發行に依つて百六十億、租税の收入に依つて八十億であります。

(二)産業資金は約六十億で、この資金と公債發行資金とは國民の貯蓄力で支拂はねばなりません。

(三)消費資金は約二百十億圓で、國民所得から政府の消費する財政支出を差引いた殘金に當るものです。もつと解りよく申せば一億の國民が各自その生活費用に充當すべき一年の金額は國民所得の割合から言ひますと一人二百十圓、一ヶ月十七圓五十錢でありまして、平均一人の國民はこの範圍内で暮して行かねばならぬ事になります。この國民消費額は前年邊りから比べると昇つて居る事は事實ですが、但し國民生活はその數字ばかりからは割り出せません。勿論國家の監督や諸施設の御蔭で物價の騰貴は大分輕減されては居りますが、普通りの物價とは勿論申されません。加へるに生活の各部門に於ての税金の負擔は一層その生活を苦しいもの

に致して居ります。ですから今後は、總力戦に備へる爲に一層その生活基準を引下げて、一面貯蓄を計らねばなりません。茲に私共のより一段の奮起と努力を必要とする理由があるのです。

國民一人平均の消費金額に對して所得金額は何程かと言ひますと、人口一人當り約六百圓となり、この數字も從來から見て著しく増加して居ります。その國が文化が發達して文明國であればあるだけその所得は増加せねばならないのですから、今後この四倍にも五倍にもする工夫が肝要です。一人約六百圓といひますと獨逸、米國、英國、に比べて大分の相違があるのは誠に遺憾と言はねばなりません。

既に説明しました通り國家の財政を圓滑に運営し、充分に公債の發行額を消化する爲には、國民の貯蓄を一層殖やさねばなりません。貯蓄力の増進は又一方、通貨が無闇と流れ出して經濟社會を混亂させる事、普通インフレと言はれますがこの弊害をも防ぎますし、從て物價の騰貴をも防止致しますから、貯蓄の効果は延いては物資、勞力の節約迄も左右する偉大な力が潜んで居ります。

政府が國民に盛んに貯蓄を奨勵して居るのはこんな重大な理由があるからで、單なる動機か

ら出た譯では決してない事が御解りでせう。

ところで最近の貯蓄の情勢はどうなつて居りませうか。昨年の夏から秋へかけて一頃は大幅その実績が鈍つて、政府をして一時は今後の財政運営に就いて心配を掛けた事があります。その理由は生活費が嵩む一方で貯蓄の餘力がなくなつて來た所へ、又増税等の心配から見越購入に資金が廻されたり、兎角太平洋の波が騒ぎ立つた頃ですから國民の現金の手持が普段より餘計に増した爲からと思はれます。この様に一時危険だつた貯蓄勢力も本年に入つてからはもり返して來ました。郵便貯金で申しますと一月だけで三億七千四百萬圓の増額で、この數字は今迄に曾つて無かつたものです。この様に急増した譯は外にもありませんが、主因は政府資金の撒布、貯蓄奨勵の増勢、増税其他の見越購買が一巡したものとされて居ますが未だ前途はこの位では樂觀が出来ない状態に在ります。

數字ではつきり示しますと、昭和十六年度の貯蓄目標は（本年三月末迄に完成すべきもの）百七十億圓で一月初迄に百二十億迄達成しました。この成績で行くと、何が何でも三月迄には残りの五十億を完成せねばなりません。

ところで昭和十七年度の貯蓄目標は先にも説明しました國債消化資金百七十億と生産力擴充資金の六十億を賄ふ意味で、二百三十億圓と決定しました。此の額は貯蓄運動を最初に始めた昭和十三年度の目標から見ると約三倍といふ飛躍的な増額であります。國力の進展に順應して大東亞建設を一日も早く完成させる意味に於て、是非共この目標を達成せねばなりません。

第二課 金融界協力の整備

今大東亞戰爭開始迄の我國の金融界を大觀して見ますと、從來金融の多忙を極めるか閑ひまであるかはその季節々に依つて異なるといふ特殊の性質がありましたものが全然見られなくなりました。一にも二にも政府資金の撒布解りよく言へば政府の支拂金の多寡に依つて左右される有様となりました。即ち政府の支拂額が上ると金融界の表面は如何にも可成緩和された様に見えますが、その基本状態は全くそれと反對で梗塞の有様となり、通貨は膨脹を來し、豫金の増勢は鈍り、又公社債の消化は良好とは言へなくなりました。その原因とする所は生産能力が低下したり、貿易が不振となつたりする爲で、資本でも物資でも働かない儘になつて居るものが餘

計あつて利潤といふものを少しも生み出しませんでしたので、國民の所得は減退するばかりで従つて財政の基本を爲す貯蓄といふ力が次第に退歩して來ました。これは郵便貯金や銀行豫金の増加率が停頓して來た事ではつきり解りますが、又一面金融界の圓滿に遂行されて居るか居ないかは株價の動きを見るとよく判断が行く事です。試みに最近迄の株價の動きを調べますと、大戦前の株價の値段は全く下落の底でありまして重要な花形株（新東とか郵船、鐘紡株の様な代表的なもの）は勿論株式一體に額面額を割るか又はそれに近い安値に落ち込んでゐました。一體この金融界の消長を示す證券市場の歴史を見ますと、大正十年頃は産業界の總資本が約四百億圓位であつたものが最近では約八百億に近く、年々の増加額は大凡五十億位で生産社會の進歩は驚くばかりでありました。この重要生産力を擴充する資金である株式の價格の安定は畢竟國內の生産資金に關聯を持つ事は尠くなく、この値段が暴落する事は生産社會を不利とする事は當り前であります。ですから大戦前の様な暴落した株式市價を何とか安定させる目的として戦時金融株式會社を設立させてはといふ議論ももち上つた位であります。

併し大東亞戰爭は此等一切の不安を譯なく解消してしましました。即ち大戦勃發の當日である十

二月八日の内に株式市場は稀有の活況を示し、日本の國力の底力を如實に示して呉れました。これこそ財界の斷乎たる決意を示すと同時に、財界も亦戦争に對して準備の完了してゐた事を物語る證據に外なりません。(米英の株式市場は丁度この反對で大暴落を來し、如何に普段の備へがなかつたかを如實に表して居ます)

株式市場のこの國力發揚相場に次いで、我財界も事態の重大性をよく認識して些かも動ずる事なく、大變に冷靜澗達でありまして、開戦即日各種の銀行、信託會社團體の代表者等は一堂に集つて政府の非常時對策に一致協力する旨を誓言しました。

其他産業經濟界の代表機關も各自國策に順應して大戰の遂行に協力する旨を決議發表しました事は心強い限りでありまして、中央農業協力會は農民協力して食糧の確保へ邁進する事を約し、東京商工會議所は積極にして果敢なる挺身を宣言し、大日本産業報國會も全産業人の此の秋に於ける奮起を決議し、其他日本經濟聯盟、其他有力團體も同様の各宣言を相次いで決定致しました。

民間のこの協力態度に呼應する様に政府の金融非常時對策も、開戦直後遲滯なく實行されま

した。その主要點を申しますと次の通りです。

(一) 豫金の支拂は一切制限を行はず (二) 銀行等の金融機關が爆撃其他の戦争の被害を蒙つた場合は之れに關聯のある他の金融機關が豫金等の責任を引受ける (三) 爆撃被害地區内の營業者が振出した手形が不渡の場合は日本銀行、朝鮮銀行、臺灣銀行が之れを引受けて再割引をする (四) 諸産業會社が金融機關から資金の回収を求められた際、興業銀行、勸業銀行がその貸出金の肩替又は保證を引受ける (五) 在外凍結資産が敵國に收奪された場合は適當の處置をする。

之等の緊急處置は國民の安心を買ひ加へて財界の協力態度が物を言つて、我金融界の其後は心にくい位微動だに見えなかつたのは誠に頼もしい事です。

大戰は其後着々と戦果を挙げ第一段階を終了しましたが今後財界へ與へられた役割は、益益増加される戦費調達の大臺所として四百億圓突破の國債を充分に消化せしめて、前線の軍備をして少しも後顧の憂なからしめる事に在る事は勿論であります。

政府は更に進んで、戦時財政の強化と併せて生産増強を計る意味合ひから十五の大藏省關係

の法案を決定しました。その内主なる法案は増税と戦時金融機關の確立を期する主旨からしての日銀法、社債登録に關す法律案及び戦時金融金庫法の四であります。

その内増税に就いては財政の課で説明した通りです。

(一) 日本銀行制度の改革

これは今初めて實施されましたが長年の懸案であつたもので、戦争勃發に依り益々金融新體制の確立が必要となつて來ましたので、その新體制の金融の中心とも言ふべき日本銀行の制度を根本的に總體に亘つて改革して、新しく誕生した日本銀行を中樞として決戦金融を完全に運営しやうとするのです。

従來日銀は國內に於ける銀行の銀行（各銀行の親銀行）と言はれましたが、今後は凡ゆる金融機關の元締となつて大東亞金融圈の指導的役目を果し國家機關としての任務を盡す様に改正されました。

改革の要點は一、現在の株式組織を改めて特殊法人とし、所謂營利的色彩から完全に離れて國家と一體的關係を持ちます。二、現在の業務範圍は國內商業金融に限られてゐましたが、こ

れを擴張して産業金融、國際金融取引も行ひ、且つ金融の調節通貨の調整、信用制度の保育をする機能を積極的に與へます。三、銀行券發行制度を根本から改革します。即ち日本銀行券の發行には従來は金本位と言つて金貨の準備を基礎として來ましたが、之れは殆ど名目に過ぎず昔の様な國際自由通商を前提とした古い遺物に過ぎませんから、之を改めて管理通貨制度に改めます。具體的に言へば紙幣の發行限度は従來はその引當ひきあての金に依つて決められてゐたものでしたが、今後は大藏大臣がその限度を決定出来る事になつたのです。この管理制を行つて居る國は實質的には兎も角として、表面上掲げてゐるのは現在獨逸と滿洲國に過ぎません。

この日銀の改正法の内特に南方建設に役立つものはその擴大した業務の内在る如く、日銀は今後南方各國中央銀行に對して御互の間に貸借決済をする直接の機關となる事で、即ち南方のこれ等中央銀行に對して日本銀行は出資やクレジット（信用勘定）を與へたり、清算協定を行ふ場合の直接當事者となる事が出來ます。これ等の業務を今迄やつた銀行は正金銀行でしたが、仕事の性質から言つて此度改革された様に中央銀行が行ふべきだったのでせう。但し現在市中爲替銀行が行つてゐる一般に對す爲替の賣買は行ひません。

(二) 社債登録制度の創設

社債を登録に依つて届出でる問題はこれを行ふ趣旨から言つたなら、元より結構な事柄ですが、いざ實行となると技術的に困難が伴ふので未だ最後のものは確定して居りません。併し現在大體想像される事は、(1)社債の登録者は命令に依つて定められた者で、社債發行の委託を受けたもの、即ち引受會社又は受託會社を以てする見込で、(2)社債の移轉や質入の場合には登録のまゝとする事を認められるものと想像されます。それなら何故社債を登録したら可いかといふと、此度の分類所得税は大幅の引上を致しましたが、登録社債利子には輕減をする事になつて居る關係からと、空爆其他一般的に社債を無くしたりした場合の防止との二大目的があります。

前者の目的は金融機關が運用利廻の低下のため資金の運用が困難な場合の緩和となす事であり、後者の目的は勿論戦時に於ける幾多の豫期しない事故に對す安全策と見られます。

茲で注意するのは社債の種類で、(一)銀行債(割引發行或は賣出によるものは除く豫定)
(二)會社債(三)特殊債券(四)地方債(五)本邦内に於て發行した外國社債の五種を指す

ものとされて居ります。

(三) 戦時金融金庫の創設

今日の金融といへば、總て戦時金融を指すのに外ならないので改めて戦時金融の機關を設ける必要は無駄の様であります。今のまゝより特別な戦時金融金庫を作つた方が何かと便利な事は當然なので特別に本金庫が創設されました。

その使命とする所は、興業銀行の強制融通資金制度及び時局共同融資團の運用と相助け合つて、現在の日本協同證券株式會社を統合して出來た國家的金融機關でありまして、主眼とする所は、事業に依つては現下企業の將來性が不確實で一般の金融機關から心配で融通の出來ない事業であります。その事業の目的が國家的に大切なもの、があるに違ひありませんが、これをこのまゝ放つて置く事は國家の爲損失ですからこの場合本金庫が進んでこの種の事業へ、これに對して投融资するのです。即ちその要綱に依る業務として擧げて居るのは(1)國家緊急産業を營む者、又は政府の方針に基き未働遊休設備(現在の所は何等運轉を開始してゐない設備)を保有し、重要物資を貯藏し、若くは事業の整備を行ふ者であつて必要なる資金の調達困難なる

ものに對する投資及び融資(2)市價安定のためにする有價證券の賣買(3)前各號に附帶する業務(4)戰時金融金庫はその目的達成上必要あるときは政府の認可を受け前項以外の業務を行ふことを得るとして居ります。

それなら本金庫は右の事業に對してどの程度迄融通する限度があるかと申しますと、資本金は三億圓で政府の認可次第隨時に増額が出来ますし、又政府は二億圓迄はこの金庫に出資する事が出来ますし、又拂込資本金額の十倍迄は戰時金融債券を發行する事が出来るので相當廣範圍迄融通は出来るものです。(前藏相小倉正恒氏以下陣容決定四月十八日より開業しました)

62

要するに戰時に於ける重點戰爭産業を確保しやうとして一足先に誕生した産業設備營團(之れは後で説明します)と共に國家の緊急産業を保持育成する爲に出來た金融機關でありまして、本金庫を利用出来る人達はその業務要綱にもある通り(一)重要産業者であり(二)政府の方針に基いて未働の遊んで居る設備を有つもの(三)重要物資の貯藏をして居るもの(四)更に又國家の方針に沿つて事業の整理をするもの等であります。

(四) 營團及金庫

茲で少しく説明を加へて置きますのは、この營團とか金庫とかいふ新しい經營の形態であります。勿論やかましく論じ立てたなら經濟學者や法律學者は兎や角言ふかも知れませんが、私共は何も法人(法律上人格を與へられた會社)の何ものであるかを論じ合ふ譯ではないのですから、簡単に理解行く様次に解説して見ませう。

金庫と申しますのは既に恩給金庫、庶民金庫、産業組合中央金庫等といふ様にその名稱は屢屢使はれて居りまして耳新しい言葉ではありませんが、その意味は早く言へば公益を目的とした金融業とでも言へませうか。又言葉を換へれば國策會社としての銀行業とも申せませう。但しこの國策會社にありましては今迄の單なる國策會社よりすつと意味が強いものであります。政府の經營及び監督權を一層濃く働かした所に特質があります。

次に營團といふ言葉であります。これは此度が全然初めて使はれた言葉であります。その意味は金庫と同じ型式であります。金融業以外の主體に適用したものです。元來營團の文字は經營財團の營と團をとつた略語でありまして、既に住宅營團、交通營團、農地開發營團、産業設備營團等の實施があります通り國營企業と國策會社の中間の形式をとつた組織であります。

解りよく申せば、政府出資と其れ以外の出資から出来て居ますが、政府以外の出資者はその經營に對して全く發言權がないのです。經營は飽迄事實上國家でありまして、この組織に於ては兎角近頃やかましく論ぜられる經營と資本の分離が完全に實行されて居ます。その事業に投下された資本がその經營に絶対權があつた從來の資本主義の遺物である株式會社とこの點で全然その行き方を異にして居るのが營團の特長です。而も營團組織は外國にもその類がなく純粹の日本式形態なのです。私共は今後續々現れてくるであらう金庫及び營團に對して此位の常識を知つて居れば充分と存じます。

尙産業設備營團とは緊急産業の設備の貸與又は買上を目的とする營團、重要物資管理營團とは重要産業の製品の買上又は貯藏を目的とする營團、交通營團とは詳しく言へば帝都高速交通營團ともいひ、政府、東京市、東京近郊電鐵會社の共同出資に成る高速度交通業の統一を目的とする營團、住宅營團とは國民生活に緊要な住宅の建築其他一元的な統制を目的とする營團、食糧營團及農地開發營團とは呼んで字の如く大切な農地の開發助成又は食糧の確保を目的とする營團といふ事になります。

最後に少し説明が後先しましたが現在銀行豫金の利子は三分三厘、但しこれには資本利子税がかゝりますから之れを差引いた利廻は二分八厘五糸となり、又郵便貯金は無税であります。利廻は安く二分七厘六毛であるのに對し、据置貯金は五千圓以下の場合三分三厘で而も税がかかりません。勿論これは政府が國民に貯蓄を奨励する主旨から出た事で、この利下の論者もありませんが、現在の所政府はその主旨から言つて現行の利率のまゝを續けて居ります。一寸貯蓄者への御參考迄に申して見ました。

又日銀の制度改正に依つて誤解を招き易いのは金きんに對する觀念です。今迄の様な米英に依存した經濟を全く清算した今日に於きましては、既に説明した通り日本銀行の兌換券制度を改正して金はこれから發行券に何等の支配權がないので、金は全く不要になるといふ考へを起し勝ちですが、之れは危険な事でありまして、政府も從來の産金政策は今後もすつと踏襲し、且つ南方で獲得した金鑛の開發は實行する事は當然であります。その理由としては (1)日銀制度の改革は既に出来上つた事實を法文で示して發表したものであり (2)將來大東亞經濟圏と他の經濟圏との物資の交易には今日のところ他に適當な方法を考へ出さない限り金による外はありま

せん (3) 東亞圈内に流通すべき圓系統の通貨の信用を維持する上に於て又必要であり (4) 人間が永い間金に對する憧れの根強さは一朝にして崩されるものとも言へますまい (5) 従つて政府も内地、朝鮮を通じて産金二億圓を維持する爲の保護助成をして居り、近くは日本産金會社と帝國鑛發會社とは合併統合して益々その事業を強化する方針であります。

第三課 重點に終始する産業部門

昭和十二年に出發した我國統制經濟の陣容は、其後益々その必要を加へて大東亞戰爭に依つて遂に最高頂の段階に達するに至りました。統制經濟は新しい生命に甦つた東亞諸民族を引具して、廣大な資源を含む諸地域の經濟を圓滿に實行する爲には已むに已まれぬ非常手段なのです。或ひは生産力擴充計畫といひ、統制會の活用といひ、中小商工企業の再編成といひ、産業設備營團の創設といひ、戰時物價政策の遂行といひ何れも國家百年の大構想を着々と具現して行く途は唯一あるのみです。即ち度々申す事ですが高度國防國家の完成之れ以外の何物でもありません。

政府が機會ある度に口を酸くして國民に戒しめて居るのは、武力戰の最初の段階に於ける大捷利に依つて、南方の豊富な物資が明日にでも我々の手に轉げ込む様な考へ方です。勿論こんな甘い夢を追つて居る國民は一人もあるとは思へません。併し大戰果に酔つた或る人達の内には、假令戲談にもせよ今年の暮になつたら何とかなるとか、來年になつたらどうかならうとか、よしそこ迄考へなくとも二、三年も経てば生活も樂になる位の考へ方をして居る人は無いとは申されません。こんな考へ方が今の日本に一番悪い影響を及ぼす事になるのです。勝つて兜の緒を締める位でなく、鎧も具足も今となつては一步も手離せません。私共は勝つてく／＼勝ち抜いて、最後のトドメを刺す迄は安心出來ないのです。

差當て産業部門に課せられた重責は尠くありません。南方の資源を手にする爲には、勿論輸送機關が要ります。肝心の船も人も一人でも戰爭の方面へ廻したい時代です。よし産業方面へ多少廻つたところでそれは國家にとつて一番大切な部門に振り向けねばなりません。航海の途中には又どんな敵の策略があるかも知れません。それどころか我々の住む土地とて敵のゲリラ空襲の危険があります。この際の樂觀は悔を遺す元となるの外に何もありません。勿論事態は

我々の豫測を許さず、どんな具合で好轉するとも限りませんが、そんな僥倖を待つて今日の樂觀は少くとも許せません。光明の彼岸は確實に見えたのですから、今日の贅澤は言ふだけ野暮です。唯私共としては子孫の幸福を思つて専心職域奉公の誠を盡すのみでせう。

而も生産力擴充の實績は大戦勃發迄は停頓し勝だつたのは事實です。生産力の高下は工業生産量指數（基準年度の生産量を百としてその年の生産量の高下を數字で示したもの）を見ればよく解りますが、戦時の爲最近の調べがないからはずきり近況は解りませんが、大戦前迄の情勢を見ますと總平均、製造工業平均、鑛業平均共に大體昭和十四年三月を峠として低落乃至停頓して居り、中にも製造工業中で生産力擴充計畫をした重化學工業關係のものですら停頓の傾向が在つたのです。併し俄然大戦の影響は商工各方面の人達の一致協力を増しましたから、最近の情勢は異常の躍進を示して來たと想像してもよいでせう。

即ち目標は (1)重要産業の重點主義 (2)高能率工場の重點主義 (3)計畫の綜合統一 (4)配給統制 (5)勞務統制 (6)従ては中小商工業再編成の強化に力點を置いて、物動計畫に拍車を加へ、行く／＼は一大工業國を目的に他面強力國防の源泉である農、漁方面は飽迄育成して名實共に

大東亞の盟主日本たらしめねばなりません。

この目的を達成する爲の當面の施策としては色々ありませうが、産業統制會を全面的に活用せしめ、又産業設備營團其他を極力利用し、企業許可令に依つて中小企業の再編成を助長致します。又政府の言に依れば傳家の寶刀として企業整備令の實施により、企業の整理に強制的な最後の切札を切る用意のある事も再三言明されて居ります。

以下順次此等に就いて説明を加へて見ませう。

(一) 生産力擴充計畫

本來この計畫は昭和十三年に初めて樹立され四ヶ年計畫を立てたので昭和十六年に於て完成された譯であります。大戦に依つて一層の擴充を必要とする事になつたので、本年は更にこれが再検討と言はねばなりません。

今重要産業部門の個々に就いて概略その現状と對策を見て見ませう。

鐵 鋼

屑鐵は石油と共に我國軍需資源を缺く最大の弱點で、この爲米國から禁輸の脅迫外交を受け

た事は國民の今尙忘れる事の出来ない事柄でした。

併し現在の我鐵鋼界は完全に屑鐵依存から離脱して居ります。即ち屑鐵の混入率を改正致しまして、銑鐵を以て一貫して作業の出来る仕組を擴充致し、従つて之れに伴ひ大切な鐵鋼石及石炭の増産に全精神を打ち込み、又國內に在る貧鐵（優秀な鐵質を含まない鐵石）を適當に處理改善を加へ、又特殊鐵材の回收を獎勵し、鐵鑛事業に就いては統制強化を一層計り延いては豊富な資源を抱藏する共榮圏の開發に最大の努力を注ぐ譯です。この爲には鐵用石炭及輸送力や勞力の點に萬全の備へを爲し、外地の資源は先づ第二問題とし、内地の鐵鋼事業の擴充に第一眼目を置いて、その製造業者へ補償金、獎勵金を與へる等の増産計畫に鋭意努力中でありま

石炭

武力戦にも、經濟戦にも缺く事の出来ない石炭の増産の爲には、これが開發に對しては凡ゆる資材、勞力を他の何れの産業部門を後にしても先づ優先的に斡旋致さねばなりません。

又従來の採炭業者には増産獎勵金を、新興開發業者には助成金等を與へ、全國的に石炭増産

運動には縊を掛け、又出荷統制を嚴重にしてその無駄を冗き輸送力に全力を集中致します。

非鐵金屬

銅、鉛、亜鉛、アルミニウム、錫等を言ひますが、之等の新資源地開發を待つ迄國內の開發を第一に計らねばなりません。

一體この内で銅は共榮圏でも日本と比島を第一としますが、需要の激増に従つて極めてその生産力は貧弱で、今後は一層新鑛の探究と舊鑛の増産を併せ實行し、國內消費規正を實施する要があります。又コバルト、白金、水銀、水晶等も共榮圏の資源は少く、將來は獨伊經濟圏との交流が約束されて居ります。硫黃、燐鐵、加里、ボーキサイトに至つてはこれ又資源が極めて貧弱で獨伊との連繫を必要とせねばなりません。鉛、亜鉛は濠洲と印度を共榮圏に加へれば心配はいらぬ程度でせう。

木材

熱帶地方の木材は樹質の加減で樺太や東シベリアの針葉樹にはかないません。尙木材は從來の用途の外今後生産部門になくはならぬ鑛山用の杭木とか鐵道の枕木等でも今の數倍も必要

となる事でせうから、比島やボルネオ邊の開発も大切ですが、技術の發達進歩に依つて防衛を高度に高めて木材の壽命を延長せしめたり、消費規正に依り、木材を主使途とする建築其他へは代用品を成可く求めねばなりません。

船

共榮圏の資源確保の爲にも、生産増進の爲にも第一條件は船とこれを入れる築港の整備が肝要です。政府もこれを第一目標として國家管理の下に鋭意努力中ですが、今後歐洲經濟圏及東亞共榮圏の連絡には航空機及陸上交通の發達も忘れてはなりません。昭南島——泰——佛印——支那——滿洲を経てシベリヤへ通する言はゞ大東亞縱貫鐵道とか、泰——ビルマ——印度——イラン——イラク——歐洲の大東亞南方橫斷鐵道の實現も遠い未來ではありません。但し茲に注意すべき事は、南洋各地の鐵道の軌道の幅が非常に種類が多い事でこれを統一せねば完全な連絡は求められません。

纖維品、羊毛

何れもその資源に乏しいので、一般の民需は衣料切符制の實施に依つて二層壓縮され、その

配給消費統制の手はゆるめられません。一方生糸の代用的價値を一層徹底させます。

石油

世界屈指の資源地を共榮圏内に持ち合えますが、現在のところ益々人造石油事業の發展を計り消費統制を強化致します。

以上總括的に要點を述べましたがその具體的な解説は章を變へて詳細に御話致します。

(一) 統制會の運営

統制會といふのは、或る事業なり會社なりが、今迄の自由な營利組織の時の様に各自勝手氣儘に競ひ合つてその業務を延ばして居たなら材料や勞力の有り餘つて居た時代なら兎も角、今日の様な非常時局に直面して居る際は、結局共倒れか勢力の強いものに壓倒され無駄ばかり出て公益優先の主目的に添はない弊害のあつたものを、先づ指導者は斯くあるべしの原理及び官も民も一致協力してこの國難に當る氣概を示す爲に確立された組織でありまして、國家の命令から出たものであります。即ちもつと細しく申せば、國家總動員法に基づく重要産業團體令といふ勅令案に依つて強制的に實行せねばならない組織を申します。

大體此の基準となる國家總動員法と申しますのは、新體制經濟を遲滞なく實行するには、政府も民間も一體となつてその智能を傾注すべき事をきめた總力戰體制下の劃期的とも言ふべき戰時立法でありまして、昭和十三年八月第一回の決定勅令案以來その實施されたものは五十件以上にも達して居ります。その中には既に皆様御存知の賃金統制令（賃金の規格を一定にきめて無駄な賃金の支給を禁止したもの）國民徵用令（必要ある場合は民間の事業にたずさはつて居る國民も軍事以外に召集する）會社經理統制令（會社の無軌道な利益配當、社員の給與等を適正にきめたもの）價格等統制令（物價停止令即ち世間でいふ九・一八停止令）地代家賃統制令等の代表的なものを含んで居りますが、統制會といふのはその内で重要産業團體令に依つて規定された統制組織團體であります。

統制會の内で第一回の閣令に依つて決定されたものは、鐵鋼、石炭、機械、貿易等七業種に就いて合計十二部門別に指定されたもので、夫々會長、社長がきまり、その設立を見る様になり、愈々近日中にその積極的な活動が始められます。その十二統制會とは（括弧内は會員數）鐵鋼統制會（四一社、一工業組合）石炭統制會（二四社、七統制組合）鑛山統制會（三四社、

五統制組合）セメント統制會（二二社）車輛統制會（九一社）自動車統制會（六社）精密機械統制會（三八一社）電氣機械統制會（二四五社）産業機械統制會（六九五社）金屬工業統制會（二社、二統制組合、六工業組合）日本貿易會（三六社、九〇貿易組合、四八業者）造船統制會（一五社、五造船組合）であります。

次に本年度は倉庫業、化學製品、纖維業種に就いて第二次の指定が下され様として居る有様で、今後益々統制會は増加の模様が見えて居ります。

右の様な次第で重要産業會社は何れもその統制會設立の機運にありますが、茲に問題となるのはどの程度の權限迄統制會が有つかであります。勿論統制會をして充分その活動を促す爲には政府も同體となつて進んでこれと協力する一面、誤りの無い様に監督指導するもので、この主旨から言つて統制會へは出来るだけの權限を與へねばなりません。

従つてその爲に多少なりとも輕減される可き官廳事務は差當て重要事項を立案したり、調査したりする方面へ専心向けられる様に改正せねばなりません。統制會の權限はこの様に軽くはありませんが、併し勿論そうかと言つて物價を形成する重大な發言權、換言すれば統制會が主

人格となつて物價をきめられる様なものでもありません。

新しく經濟建設に南方の地域が浮出して來ましたが、政府は如何なる開發者をこの方面に差し向けるかは勿論統制會の意向を参考とすべき事であります。民間の重要産業者であつて、卓抜した特別の經驗あり特殊の技能の在る者をその責任に於て選定して國家へ進言薦選する役割は統制會に打つてつけの役割です。

又將來の問題としては、此等多種に亘る澤山な統制會相互間の連絡を計る機關も必要となつて來ませう。又統制會自體の中にもその調査、企劃、研究等を目的とする權威のある事務局を作つて運用を圓滑に行はねばなりません。そうかと言つて、組織が徒に繁雜では事務の遂行も涉どらず、經費も嵩む事になりますが、その費用の出所は飽迄會員である生産者であつて國庫の補助はありませんから、成る可く簡にして要を得たもので人件費等も節約の要ある事は勿論です。

要するに統制會は發足したばかりであります、その効果は専ら今後に期待する所でありませう。

(三) 中小企業の整備

中小企業の再編成以前に於ける我國の中小商業者は全國で約二百萬世帯、といつて馬鹿にならない勢力があり、又中小工業は全産業の四割三分、而もその生産額は全産業の四割五分迄を占めて居ました。

この様に産業の内に中小規模の組織を澤山含んで居る事は、重點産業を目指す我國産業界の痛とも見られて居ましたが、又考へ方を變へますと、この様な潜在的な企業層があつたればこそ戦時下物資缺乏の折からでも比較的物資が無くならず済んだ事になります。

といふ譯は日本の家庭は昔から「保存」の觀念が強く、無駄費ひをしませんから今日外國の戦時下の國民生活程どん底へは落ちませんが、又一の大きな理由はこうした日本式の中小企業組織の元に貯藏されて居た品物がどの位今日御役に立つて居るか解りません。謂はゞ中小商工業は日本産業の弱點であつて又強味であつたと申せませう。

思へば一昨年經濟新體制が叫ばれて中小企業の編成を餘儀なくされてから、どの位これ等の人々は國策の線に沿はん爲に苦勞して來た事せう。而も大東亞戦争は開始されたのです。そ

の戦況はどんなに有利に展開されても未だ重點主義の企業を強大にする爲には、中小の企業は犠牲とならねばなりません。大の虫を助ける爲には小の虫を殺さねばならぬ所です。

但し戦争に依つて整理の主旨は大分變つて來た事は事實です。例へば勞力の徵用の意味を含んだ廢業もこれからはありませう。一概にその取扱ふ事業の規模が小さいから整理するといふのではなく、現在の事業に従事するよりも他に轉業又は統合した方が國家にとつてより、強い奉公となる場合も生じませう。將來の問題としては新しい開拓の天地へ移住する事に依つて一層有意義を感じる場合も考へ得られます。

要するに整備の目的とする途は不變であつて、(一)生産能力を従來より向上せしめる事(二)配給機構を更に圓滑にする事(三)それに依り出來た餘剩能力をば他の緊急方面へ振向ける事の外には出でません。

唯従來は地方の特殊事情を考慮して主として業者から自主的にその業務を廢めて他に轉向する事の促進に努め、その統合に當つては實績主義を相當重視して來ました。

今後の整備方針としては、この實績主義は完全に一擲せねばなりません。即ち此等轉廢業者

を國家の必要部門へ吸收する大使命が加はつたのですから、新分野の事業に適當する有能力的な技術を持つ人とか青壯年者の轉業も亦國家の要求する所であります。

茲に注意せねばならない事は、新たに共榮圏内に加はつた南方の住民の日常生活用品の多くは之等中小商工業者の製品が尠くないといふ事で、再編成に當つてこの事實は見逃す事が出來ません。

商工當局が差當て中小企業の新編成方針として採つて居るのは組合制度を中心とする事と思はれます。又再編成の對策として先に決定した (1)國民職業指導所 (2)國民勤勞訓練所 (3)國民更生金庫の強化は益々今後痛切に感ぜられます。

殊に更生金庫は最近利用が漸く増加して參りまして、推定申込數が約七億三千萬圓と言はれる位ですから、政府は取り敢へず國民更生金庫の増資を行ひ(現在の二千萬圓から五千萬圓へ)又更生債券發行限度を擴張し(限度を十倍から十五倍位へ)、更に進んでは同業者團體の共助制度を一層押し擴めて(例へば國家から共助補助金三百圓を出せば組合からも三百圓を交付する事)及び轉廢業者が生活の安定する迄租税を減免する等といった資金援助等の親心を示さねば

なりません。又萬一將來に於て轉業者が元の業務に復歸出来る場合はその優先権を與へる事も勿論です。

次に軍部方面が中小工業に對してどんな整理の方針を持つて居るかと言ひますと、先づ陸軍に於ては轉業には特別の技能者を生かす方針で、例へば機械工場で堅實なものであれば規模が小さいとて之れを育成致しますし、小さくとも必要な兵器の下請工場の場合はその親會社と一貫綜合して擴充させますし、單獨の而も能率の小さい會社は之れを集團的に統合させる方針を持つて居ります。海軍側の意向を聞きますと小規模でも利用出来る限度に於て極力之れを活用する方針で、一例を申しますと海軍の技手を地方廳へ轉勤させて極めて小さな規模の工場（工員十五、六人以下のもの）に組合を作らせ仕事の割當高をきめて小さいものは小さいなりに能率を發揮させて居るので、昭和十五年の割當高は三・四百萬圓に達して居るさうです。

それから申し添へたい事は企業の整備の場合、從來の營業を更に統合に依つて擴大して行く場合は問題はありませんが、この商賣を續行せず他に讓渡する様な時營業權の讓渡はどうなるかと言ひますと現在原則的にはその讓渡を認めて得りません。これはたとへ讓渡致して見ても

場合が場合ですから高値に賣れる見込も薄く、従つて同業者の團體間で共助制度に依つて比較的割高な評價で引受ける方が結果から言つて得策だからであります。

x

x

序ついでに中小企業でなくとも大會社で近頃その整理統合が順次行はれて居りますが、原因としては（一）物資が不足して來たので之れに伴つて重點主義の實行をする場合（二）決戰體制の實現に伴ふ弱體會社の統合（三）經理令實施に伴ふ弱體會社が資金的に言つて國策順應に出でる事等からでせうが、茲に面白い現象は之等の大會社の合併統合は三井、三菱とかいふ所謂一流財閥を背景としたものには殆どなく、新興財閥系に多い事です。（例へば野村、鈴木味の素、伊藤忠商事、日本曹達の傍系整理等に見る様なもの）

果して之等會社の統合が今後南方開發に當つてどんな方向へ進んで行くかは興味ある問題でせう。

（四）企業許可令と整備令

企業許可令と同整備令とは丁度その關連ある事は裏表の様なもので、許可令は事業の新規開

業や設立を總體に禁斷するものであり、整備令は既存の事業をして國家の方針に適合する様に整備するのを目的とするもので、言つて見れば中小企業の轉廢業と此等の二勅令を以て事業界を決戰體制下最も合理的な組織に改めやうとする仕組なのです。

先づ企業許可令の方から説明申しませう。許可令は名稱を見ると許可令となつてゐますが、之れは丁度反對の意味があるもので、今迄あつた事業の外は今後一切の事業の新設や擴張や改良等を全面的に不許可にするものと解釋すれば間違はありません。つまりその目的とする所は(1)企業の整備を速進させ (2)それに依つて生じて来る餘剩勞働力を活用させる事早く言へば戰時生産力の擴充とでも言つたら早解りが致しませう。

ですからこの許可令の當てはめられる相手の商賣は總ての事業體を含むもので、その内には營利を目的とする營業者も、又營利を目的にせぬものでも商業組合、工業組合、産業組合、各種購買會の一切も包括されるもので、その商賣の中での適用業種も凡そ事業と名の付く總てのものを含み總數四百四十三通りもあつて、その内譯を言ひますと鑛業關係(石炭業もひつくるめて)、工業關係、商業關係(此の内更に細く衣料品、食料品、住居用品、雜品其他と區別)及

び交通業(陸上小運送をも含む)となつて居ります。

そして許可の方針を調べて見ますと、(1)工業鑛業の場合には國民生活に必要な場合は特別に許可を與へ (2)商業の場合には同じく國民生活や物資の配給にとつて必要缺く事の出來ない場合に限つて許可するとなつて居ります。今少しく細く言ひますと

- (イ) 企業を整備する上に必要な場合とか
- (ロ) 工業地方文化を向上させる場合
- (ハ) 事業をする者が軍人遺家族とか傷痍の軍人の場合
- (ニ) 發明とか考案とかに依る新興の産業の場合
- (ホ) 新興都市に新規な物資の配給をする場合

(ヘ) 企業の再編成に依つて轉業又は廢業した者が元の商賣へその時の經濟狀態の趨勢で、復業する様な場合等は特別の取扱に依つて許可されることになつて居ります。

この外工業倉庫業の場合としては勿論その場合に依つて多少の斟酌はありませうが、原則としては不許可の方針を採ります。

特に新設とか擴張、改良に許可がいる設備に付いてはその判断に誤のない様許可令に特別に指定がしてあります。

それなら許可を與へる者は誰かといへば主務大臣（商工關係は商工省、交通關係は逓信省といつたもの）地方の場合は地方長官であつて、更に統制會もこれに一役買つて出て居りますから、國家と統制會の二本建と言へます。

勿論今迄營業をして來たものは一應その儘全部存續を許されますが（報告書を提出する事により許可が発生します）その商賣が相續人に相續される場合は別に許可はいりません。但し賣藥販賣業は例外として本令の適用を致しません。

それならその事業を他人に委託する場合は如何かと言ひますれば、特に委託の必要があると思はれる場合には勿論許可制を適用致しますが、商業に於ては一般にその委託許可は出來ないと推斷しても差支へありません。

この様に何かと新規事業を斷壓する事が嚴重となると、今迄やつて來た商賣といふものに一種の營業權といふものが自然と發生してこれを高く評價して讓渡したりする闇行爲が行らぬと

も限りませんので、此方面の審重な監督を期して居ります。

企業整備令といふのは産業の再編成に當つて企業を整備する上に萬已むを得ない場合に限つて發令されるもので、飽迄も業界人は自分から協力して統制會とか商工業者の團體等の手に依つて國策に順應して整備すべく努めるべきで、これが行はれない場合に限つて整備令が適用されるものと當局の聲明に在りますが、この點特に注意すべきであります。

次に少しくその内容に就いて説明して見ませう。即ち、國家が整備を必要とすると思はれる企業に對してはその設備又は權利を一般的に讓渡したり其他の處分を制限又は禁止し得ると規定して居ります。更に又企業の許可令の裏付うらつけとして、事業の設備なり權利の讓渡や賃借は主務大臣の監督の元に當事者間の協議に依る可き事を決め、萬一その相談が不調になつた場合は主務大臣が之を裁定すると致します。この場合讓渡の相手方として次に説明する産業設備營團とか既に御話した更生金庫等が登場してくる事になります。又讓渡したり又はその命令のあつた設備に擔保權があつて消滅してゐない場合設備營團、統制會社又は組合が損失を蒙る惧れがあ

るので、これには相當の擔保を供託させる事が出来る規定があります。又從來の統制令には見られない所謂債權、債務の詳細の規定や緊急處分の場合や、受託、委託を規定して居りますが些か専門的になりますから茲には説明を避けます。

又企業整備に當つて必要な場合は特定の者に對して出資しろといふ命令を出すか、増資の場合それを引受けろといふ命令が出せる事になつてゐます。

特に其の内特別の規定によると、現物出資の場合株の割當に對して株式の上に擔保が移る事になつて居り、解りよく言へば會社は株を渡さず保管して居るだけでも實際の質權は移轉してゐる事になります、其外色々細かい讓渡、出資の規定はありますが繁雜になりますから之の説明を避ける事に致します。

要するに今後は凡ゆる事業は新設には許可令の制限を受けて殆ど開業は困難であり、又その讓渡も整備令の制肘に依つて勝手に實行する譯には行なくなつたので重點主義は茲に愈々強化されて來た譯です。

(五) 産業設備營團と重要物資管理營團

企業許可令と整備令に依つて産業の再編成を急ぐ一方、重要物資や之を取扱ふ事業の育成は一日も缺く事が出来ません。この達成を目的とした組織が二大營團であります。(營團といふ字句に就いては既に説明を致しましたから茲では省きます)

先づ産業設備營團といふ組織の目的はこの非常時節に遊休あそびだまり又は未働はたらかぬの儘に放つてある諸設備があつては誠に勿體ない事ですから、之れを完全に活用する事にあるので、資本金二億圓で總裁には元の商相藤原銀次郎氏が就任しました。即ちその擔當業務として數へられるのは、積極的方面として緊急事業の内で資材が缺乏して困つて居る事業に必要な資材を貸し與へる事と、消極的方面に於ては、操業を短縮して遊んで居る産業の中で他日入用のものは別としてそれ以外のものは總てその設備なり權利を買収し緊急産業方面に轉換させる譯です。此の讓渡を受ける場合に、先に説明した企業整備令の規定が活用されてくる事になります。これ等の事業は主として紡績工業や人絹工業其他が主なる對象となつて來るでせう。

この様にこの營團の仕事は極めてその活躍に慎重な研究調査を必要と致しますので、大藏省、商工省、技術家、勞務者の經驗ある才能の士との連絡が大切であります。又商業界の第一人

者である伍堂卓雄氏外五人の一流人を持つて来て顧問と致しそれこそ産業界總動員の形で應援を與へて居りますからその効果は著しいものが在ると存じます。

この陣容を見ますと日本の産業界全體を一丸として丁度一の大國家工場にでもした様な譯で誠に壯觀といはねばなりません、この様な組織に似てゐるものは前歐洲大戰の時英國では當時の首相ロイドジョージを首班とした軍需省及び米國に於て前大統領フーヴァーが軍需大臣として軍需品生産、運輸の一切を擔當した事があります。勿論此度の大戦に於てはこれに似た組織を作つて米英兩國躍起となつて重要資材の確保に努めて居る事せう。我國も之れに決して負けてはならない譯です。

この設備營團と相俟つて(1)重要物資の保管と(2)重要物資の買上又は賣渡を目的とする重要物資管理營團といふ組織が新設されました。尤も此の保管すべき物資と申しましても、商工省の管轄に入るべき物資や厚生省の管轄に入る醫藥及その原料品等で、食糧の保管は農林省の食糧公社が擔當する事になつて居ります。又鐵鋼、石炭、棉花、ボーキサイト、輸出滯貨品の様な

物は夫々の材料會社へ保管する事になります。

資本金は貳千萬圓であります、國債に依る強制的融通資金やシンヂケート團に依る計畫的な融通資金に依つて資金を融通し、又金利や倉敷料等の雜經費には國庫からの補助が出ます。本營團の取扱ふ買上なり保管物資中特に注意するのは、從來特別輸入とか繰上くりあがりに依つて海外から輸入致した物資で在庫する品物又は物動計畫に伴つて保留せねばならなくなつた物資や生活必需品が入る事は言ふ迄もありませんが、茲に特記せねばならないのは南方共榮圈から取得した物資の中で、軍需に向けるべき石油は除外するにしても、それ以外の南方物資は大體一應この管理營團に於て買人を爲し之れを現地に於てか又は日本へ持つて來て保管するのです。殊にゴム、錫等の南方に過剰して居る物資に付いての本營團の活躍は大いに期待出來ると存じます。又之等買入保存の物資の配給の経路は、各々その物資の配給機關へ販賣する形式をとる建前になつて居ります。

(六) 配給機構の整備と物價問題

物資の生産に就いての統制會は既に申し述べましたが、更に又統制會はその配給に於ても大

切な役割を持つて居ります。即ち配給統制會社は從來の元賣や卸商を廢して生産と配給を緊密な連絡に置いたと言へます。詰り配給を迅速にして正確ならしめ、その間に少しも不正な行爲の介在を許さず且又低物價政策と歩調を合せて行く意味に於て昔ながらの遺風に動く口錢主義の卸、元賣制度を整理せねばならないのです。

日用品必需品の配給に就いては總て中小商業者の再編成といふ結論に入る譯ですが、重要品目に就いて簡単に統制配給の足跡を調べて見ませう。

米の配給は典型的な國家管理となりました。つまり臨時米穀配給統制規則や米穀國家管理規則によつて出荷統制されたものが政府又は日本米穀會社の手に入り、次いで共同精米販賣業者に依つて配給されます。この配給機關は各層の商業組合に依つて擔當されて居ますが、實體は合同企業と言へませう。麥類の配給も米と殆ど同じです。

生鮮魚食料品は鮮魚介配給統制規則から出發したもので、先づ中央卸賣市場の仲買制度が廢止になり、出荷から市場、小賣業共同購入迄一貫した統制が實行されました。併し兎角闇値や料理家への横流れの弊が多々あつた爲登録配給制の實施（東京市）となりました。

木炭は道府縣外移出數量割當や商業組合へ集中さすべき兎荷配給の経路、及び特別會計資金による政府の買上開始等によつて次第に公平に配給されて参りました。

マッチは共販會社、卸商組合、小賣人を通る切符制が確立され、砂糖も亦切符制となりました。

纖維製品は所謂衣料切符の斷行で漸く完全な統制形式を備へ、又青果物は六大都市を初めその指定地區に於て青果會社が指定荷受組合となつて配給に計畫性を具へ、小賣商を地區別に組織して、從來兎角直接買付をやつた大口消費者を抑へ、又出荷の方面では出荷團體を指定して供出する割當を實施しました。

日用品物資を圓滑にこの戦時下に配給させる上には切符制は、町會及隣組の役割の増大と共に特筆すべき統制方式と言はねばなりません。

生産と配給のより以上の圓滑といふ事と更に物價は飽迄低額たる事は國民生活にとつて缺く事の出来ない事なのを言ふを要しません。生産力を擴充して行く上に於て低物價政策は一見一

寸ちぐはぐの様な感を與へますが高い値段で増産をする方針は絶対に避けて、若し必要物資の生産に邪魔が入つた場合は國民生活と睨み合せて多少の引上は行ふとしても、當局としては努めて補助金を交附する方針で進んで居ります。併し鐵、石炭を初め年々補助の金額は増大して行つて低物價に悪い影響を與へる事は認められますので、此等の物資に就いては將來適正な價格が設定される段取となりませう。

今物價の推移を一瞥致しますと所謂九・一八價格停止令と言はれる價格統制令が施行され、指定の品物の値段に㊦や㊧が確定されてから後八・一一停止價格が設定されて修繕料、運賃等に迄その範圍が擴められるに至りましたが、公定價格や協定値段の數は増加の一方で、中央で最高販賣價格を設定した品目數は、その内へ農林省の管轄に入る物資も加へますと十三萬一千餘點の莫大な數字に上り、更に地方に於ては四十六萬二千餘點となつて居ります。

所謂一般物品の外に例へば農地の價格等の様なものも騰勢の傾向にありましたが、農業生産上の支障もあり、又低物價政策に反する譯なので農地價格統制令が公布されてその價格は、當該農地の地租法に依る賃貸價格に農林大臣の指定した一定率（全國平均には田は三二、畑は三

九)を掛けて得た額を最高と決め、例外として地方長官の特別の許可のある場合は可い事にすると致した次第です。

第四課 自給を目指す農業

思ふに大東亞戰爭に勝つも負けるもその武力戰に在ると同時に銃後にある私共の覺悟にある事は言ふを要しません。即ち戰爭を完遂させる銃後の二大要件として、軍需生産力を擴充して些かも戰爭遂行に不便をなくする事と、一方國民生活を確保する事言ひ換へれば國民の食糧をしっかりと保育する事が最大肝要事であります。

井野農相の言に依りますと現在の食糧状態や緊急時に於ける準備等は遺憾ない譯で、外米が萬一輸入出來ない際は麥や甘藷を混食する覺悟があれば平氣ですし、敵機が來襲した様な場合には白米一ヶ月分の貯蓄及び一人六罐宛の罐詰と乾パン、鹽、味噌の準備が政府に於て爲されて居るさうです。

又米を南方から國內へ運ぶ船の點は軍需品輸送と共に第一位に置いてありますから今後の心

配は皆無の譯です。水産物、畜産物、食料油其他の必需品も着々萬端の準備中との事ですが、何分現在のところ勞力、石油、船舶が不足勝ちなのですから右から左へと國民の手に入るものでもないのですから、配給の公平さへきちんとして、國民の誰でもが甲乙なくこの不自由に辛棒するとなれば喜んで我々は大勝利を目指して忍耐致しませう。

一體それでは我國內地の米の收穫高は最近どれ程あるかと申しますと大變に成績がよいので、昭和十六年度の産米の第二回目の豫想收穫高を申しますと約五千五百餘萬石で平年度より約一千萬石の不足ではありますが此の外に持越米が八百萬石あり朝鮮、臺灣の米作も極めて優秀なのであります。(十六年度朝鮮米は大增收で二千四百餘萬石前年度より三百餘萬石の増收)此の五千萬石といふ數字は昭和年代に入つては昨年で六回目の數字でその内昭和八年の七千餘萬石は正に最高の記録で勿論之には及び兼ねますが戦時下に於ては安心出来る状態ではなくとも比較的好調なのであります。(参考——明治六年の收穫高は二千四百餘萬石に過ぎません)而も三ヶ月に亘る赫々たる戦果に依つて共榮圏は確保された今日、勿論先行の樂觀は^{さきゆき}大禁物ですが次第に食糧難の緩和されて行く事だけは事實です。

先づ共榮圏内の米に付いて見ますと、輸出出来る地區は佛印、泰、ビルマで約五千萬石、需要地區はマレーの二・三百万石支那の一千萬石此外印度、比島、蘭印諸地へ供給しても優に餘剰分が出てくるのです。但し佛印、ビルマの輸出米も最近は減少の傾向があり、ビルマ米は特に大面積を持つ印度といふ需要地があるので數字的に見るだけでは決して樂觀を許しません。而も南方住民の人口は増加の一途を辿つて居るので米の生産高は減るし、需要人口が増加するのではその結果は恐るべしと言へませう。例へば印度を含んだ全共榮圏内の一人の米の消費量は、古い調査ですが一九一六年から二〇年迄は一年百四匁だつたものが、人口と米の率が逆に進む爲一九三六——四〇年即ち二十年間に一年八十九匁に迄減じて居ます。

又人間は米食に慣れるとその消費高はどうしても増加致す事實は、朝鮮に於て從來一人當りの消費量が内地人に比べて約半分だつたものが次第に増加して來た實例でもはつきり致します。

此等の心配な事實を考慮に入れますと、米は南方が手に入つたからには絶対安心等といつて居られる場合ではなく宜しく萬全の對策が必要です。

次に南方の魚類に就いて言ひますと東支那海、黄海、東京灣、南洋は何れも豊富な魚類を包蔵して居るので、今後捕獲技術に於て世界に冠たる日本人の進展を待つ所が大であります。

南方の牛は戦前には世界の一分を産し、豚は同じく三割五分、家禽類は三割を占めてゐました。砂糖に於ては比島で戦前北米向輸出七十餘萬トンと聞いてはこれだけは有り餘つて却つて困る位のものでせう。

ですから米の今後の対策としては戦争中の事でもあり南方を當てにする譯には行きませんので、勢ひ内地の收穫を益々天候及び不足材料と戦つて改良發達させる一面、消費方面は節米の外はありません。

米の收穫には是非共缺けない主要肥料の供給は前年度に比し著しく減縮され、硫酸八割過燐酸石灰五割の配給は出來ますが加里鹽は殆ど配給出來ませんし、これに加へて勞働力、生産資材の不足から見て従來以上の増産を農民に要求するのは酷でせうが、一層その努力を求めて居ります。

擬政府が十七年度の食糧品生産目標の發表によりますと次の通りです。

米	約七千百萬石	小麥	約千四百萬石
大麥	約九百萬石	裸麥	約八百萬石
玉蜀黍	約九十萬石	甘藷	約十六萬七千貫
馬鈴薯	約七萬六千貫	大豆	約三百萬石

國家の農産増進への具體的方策としては農地開發營團を運營して十二ヶ年を目標とし、米は千百萬石、麥は千三百萬石の増産に集中してゐるので、此の爲には

(一) 零細農といつて小規模の農業を營む者は大體三町歩内外の適正な規格の農家へ次第に改變して行き、この爲に農地面積を擴張して開墾埋立、耕地の區劃整理を實行し、且つ依然として自作農を維持強化させ、滿洲開拓移民の例に見る様に農民の移植民を徹底させ、更に進んでは工業勞働へも計画的に勞力の送出を計り、先に創設した茨城縣内原に於ける青少年義勇軍訓練所の様な農業増産報國推進隊の活用を一層強めるのです。但し滿洲で行はれて居る世襲農地制の採用は傳統ある我國には困難と見られて居ります。

(二) 農村の人口を維持して行く事は富國強兵の本で、徒に工業化に走つて農村を疲弊させ

るべきではありません。工業立國は政策として立派かも知れませんが、一朝有事の秋自國の食糧の自給を失つて英國の様な憂目を見ますから農本立國は飽迄保持せねばなりません。この意味から言つて現在日滿を通じて現人口の四割程度を農村の人口とすべき事が決して居ります。これは前述の如く農を以て國の本とするからには是非共必要と思はれます。

次に屢々或る方面に論ぜられる事ですが農地國家管理又は農地國有の説ですが、現在のところ此等の考へには及んで居りません。但し食糧の管理は現在南方の食糧を急場に持つて來るのは容易でないから取り敢へず共榮各地へ保存貯藏の形式を採り、又外米の餘剰は凶作の場合に備へ、肥料の一元的統制を強めて生産者の團體へ一本で配給する理想の元に産業組合や商業組合と連絡して居ります。之れは早く言へば國家管理の形式とも言へませう。

(三) 其他米價對策としては管理米や小作米に對して石當り何圓ときめて米穀獎勵金を交付し、消費規正に於ては消費統制を大都市に於て強制し、切符制、通帳制を既に實施する外、代用食の獎勵や節米運動(附帶して酒造米の減給)があります。又農家には自家用保有米の限度を定めてその餘剰を供出せしめる所謂管理米制度は政府が消費規正を一層履行する前提であります。

ます。

以上要するに五ヶ年に亘る交戦下に於て交戦國の何れにも優る食糧の恵まれた我國は、今一段の隱忍と努力に依つて目下の肥料、勞力の困難を克服し國策に協調を企らねばなりません。

第五課 決戦下の海運對策

凡そ今日位日本海運に課せられた任務の重大な時代は稀でせう。實に海運こそは聖戰を完全に仕終へる爲の先驅的役割を占めて居るに外なりません。

今戰爭前迄の世界八大海運國の内ノールウェー、フランス、オランダは崩壊して了ひ、獨逸及伊太利は一時的乍ら歐洲に雌伏せねばならぬ今日残るもの日米英の三國となりました。

而も往時第一位を謳つた英國は戰爭に依つて七百萬トン以上を沈没され又日の進むにつれてその損失船舶は増大するばかりでありますし、第二位の米國は總噸數千五百萬トンと言つても湖沼や河川用をも含むもの乃至は沿岸航路用が多く、第三位であつた我國は現在に於ては外洋航路の點で正に世界一であります。

即ち我國の事變前の船舶狀況は千トン以上の船が約千隻（四百萬噸餘）あり、八百萬噸を目標として年々四十萬噸づゝ建造中であり、千噸以下の船は約千隻（四十萬噸）ありましたが支那事變に依つて徵用船やら鐵鋼材料の入手難から造船計畫は益々遅れて來ましたので計畫造船に本格的に身を入れて造船事業法を制定致しましたところへ大戰が勃發致したのです。

扱開戦に依つて近海航路以外は出船の停止命令が下され、軍用船は益々需要が殖える一方ですし、他方造船所の軍用も増加し、新建造の資材も勞力も一層窮屈となつて來ました。又今迄利用して居た外國傭船も漸減の形にありますので、政府は海運を國家管理へ移す一步手前の手段として船舶運營會と海務院を設置し、海軍が擧げて一元統制の元結もとじゆとなり民間には統制會を作る事になつて居ります。

一體海運の國家管理の目的とする處は、先づ海上輸送の權限を海軍が握つて先づ軍需に優先權を與へ、次いで國民必需品及緊急産業資材の運輸に割り當てる事でありまして、この爲小型及特殊船を除いた一切の船舶を政府が徵用して、その徵用船を運航するのは特別法に基いて出來た船舶運營會の役目なのです。

つまり統制の中樞行務機關として海務院あり、その實行機關として船舶運營會（配線とか輸送事務のみ専念）があつて、この兩者が一體となつて始めて一本の海運の統制運營が出来る仕組なのです。

海運の國家管理は獨り船舶に限られるものでなく、造船や船員に迄亘ります。その大綱を具體化したものが海運管理令なのです。

この内には（一）船舶使用に關する規定（二）船員徵用に關する規定及び（三）船舶運營會の組織運營に關する規定が記載せられて居ります。

（一）船舶使用の内徵用の相手方となるのは百噸以上の汽船及び百五十噸以上の機械船とされて居ります。

（二）船員徵用の目的は船員が國家意思を強く認識し國家保護觀念を植え込む爲であつて、實際上的の問題としては現在乗込んで居る儘で徵用される譯です。又徵用船員は第一線の將卒と國家に對する御奉公は同じ意味ですから一時金の支給とか家族や遺族への扶助の規定も陸海軍人の場合と同様に設けてあります。英國の例を見ましても船員の事故は軍人並に待遇し又船の

沈没した場合はそれより優秀な船舶を新造して船主へ返す等國家が損害の補償をして居る位で、殊に船員の補充等の場合は新規の人間を直ちに採用するといふ譯には技術的にも困難なので、殊に豫め決めてある豫備員から補充せねばなりません。それで國家から之れに對す補償も充分でなければならぬし、造船事業等も商船は軍艦と同様に大切にせねばなりません。占領地域の造船施設も軍政下に於て極力回復して利用の路を拓き、又鐵鋼を回收して先づ優先的に造船方面へ振向け、次いで幸の事に航路は比較的簡單でありますから、これに順應した木造船なり、鐵骨船を建造の計畫中と聞きます。又支那沿岸航路には從來も使用されて居た支那特有のジャンク船を利用し延いては占領地間の小交通には之れを活用出来るでせう。

茲に注意せねばならないのは、前大戰後の頃米國が大量製産した船舶が餘り粗製であつた爲全部廢船となつた轍を踏まぬ事で、同じ米國の例が示して失敗となつたものにセメント船があります。

第六課 整備を急ぐ各部門

(一) 貿易部門

我國の貿易は前世界大戰の影響に依つて輸出入とも著しく増加を來し、殊にその相手國の中心は米英でありましたが、日獨伊同盟以來兎角敵性行爲に阻害されて居ましたところ遂に當の輸出入相手國と戰端を開く様になりましたので、舞臺は一變致して共榮圈に重點を置く様になり、所謂圓價中心經濟圈内の貿易が將來は約束される様になりました。

然し飽迄今日に於ては自給自足經濟が其建前であり、従つて貿易の根本とする基調は(一)南方諸地との物資交流の圓滑 (二)南方より重要物資取得 (三)南方へ開發資材、生活物資の供給の三大眼目に分れるのです。

政府は茲に於て貿易業整備要綱を決定致し、先づ輸出貿易業の整備に着手致しました。即ち第三國向貿易は全く杜絶しましたので、從來の貿易業者では有り餘るので之を整理する主旨を以て業者の内小規模のものを整理して業者の數を從來の三割に二舉に減じますが、その取扱金額から言ふと從來の八割迄減ぜられた事になります。その整備の方法は企業の合同體を勧め、尠くとも五十萬圓以上の合同體を規準と致しました。これは四月頃迄に一應完了する豫定で次

いで輸入業も整備の運命に在ります。

行く／＼は大東亞經濟圏内の貿易を中心に、歐洲經濟圏との交流や南米との貿易も見込まれて居りますが、今日の情勢に於て最も苦しい境遇に置かれたのは貿易業である事は又已むを得ないでせう。

(二) 醫藥部門

決戦下物資の缺乏は臆て國民の健康を左右する事になりますが、斯くては由々しい重大問題でありますから國民厚生運動、肺結核撲滅運動は益々その必要に迫られて居ります。

その一の表れである國民醫法といふのは、從來ありました醫師法と齒科醫師法を一本に纏めたもので、その特色としては

(1) 從來兎角弊害の多かつた醫師道を改めて日本醫師道を完成するに在ります。即ちその第三條に於て「醫師又ハ齒科醫師ハ醫療及ビ保健指導ヲ掌リ國民體育ノ向上ニ寄與スルヲ以テソノ本分トス」と在るのでも判る様に從來病氣を治すのを唯一の任務とした醫師が、それだけに止らず一層國民の健康を指導して行く本分を附け加へられたのです。従つて今迄醫師の免許を

取消される理由としては何か法律上の罰則を蒙つた場合に限られて居ましたが、更にこれからは道徳的な不正行爲や品位を傷ける行爲の時も同様免許を取消されます。

(2) 政府が一億圓の出資をして日本醫療團といふものを新に設立致します。この醫療團は更に五億圓迄の醫療債券を發行出来るので、之等の資金に依つて目下我國民體育上の二大缺點である結核の撲滅と全國無醫村對策に乗り出すのです。先づ結核對策としては第一期計畫として五ヶ年計畫で現在二萬床あります療養所を一舉十萬床に増設致します。又東京と大阪には中央病院を設け、更に全國的には現在醫者の無い村三千五百の内千二百ヶ村に療養所を作り、六百の郡綜合病院を、道府縣の所在地にも綜合病院を新設して完全なる病氣の擊滅を期します。

この醫療團は飽迄治療を行はず、更に今迄商賣して來た開業醫も勿論その儘商賣を許すのです。その外病院診療所の經營は許可を受ける制度とし、從來兎角誇大廣告に依つて病人を惑わした博士號の廣告は一切許しませんし、又専門廣告には一々厚生大臣の認可を必要と致します。學校卒業又は試験出の醫師、保健婦、助産婦、看護婦は二年以内當局の指定した病院へ勤務の責任を負はされました。

次に今日七百餘の薬局方收載の藥品がありますが之等は有害な物を除いて全部重要視し、その内でも特に重要な物を大切にすることに、又年々新薬が約三千位出ますが、これは単に届出さへすればよかつたので随分いかゞはしい物もありました故今後許可制と致し、從來發賣して居るものでも再検討をする事になりました、一つの病氣にも賣薬は數多あつて國民にその選擇を迷はせました賣薬は何と今日約四十萬種ありますがこれ又篩ふるいにかけられる譯です。

(三) 保險部門

保險會社の經營を合理化して、弱體會社を整理合同し、新體制を組織作る事は今その緒に就いて居りますが、茲に述べ様とするのはそんな専門的な事ではなく、國民常識として知るべき戦時保險の話であります。

即ち大東亞戦争に依つてこれ迄の損害保險會社が除外としてゐた空襲其他戦争に依る損害に對する保險の處理であります。戦争に依つて生じる動産なり不動産に蒙る損害を保證出來ないとすると、これが民心に與へる不安は銃後の一致協力を亂す事になりますので、政府は茲に戦争保險臨時措置法を實施することになりました。

即ち戦闘行為又は空襲に依つて生じた火災に依る損害（敵機襲撃中であつても唯の火災は勿論これに含まない）に就いて從來の火災保險と全然取扱を別として一月二十六日から從來の火災保險會社四十社が施行する事になつたもので、保険料は全國一律で普通半ヶ年に千圓に付四圓の割合です。目的物は現在火災保險の契約中にあるものもないものも關係はなく、保険金額は保険價格の九割を最高とし（最近七割と改めらる）、保険金の支拂處分には一定の制限があり又その支拂延期の場合年に三分四厘の利子が付きます。

又空襲傷害保險も三月一日から實施され取扱會社は民間會社の大阪海上外十五社で、保険金額は最高一萬圓迄、保険料は三ヶ月千圓に付三圓となつて居ります。

生命保險は空襲等の事故による場合も支拂をする事になりました。獨逸に於ては國營で生命の賠償も既に實行されて居るところです。

(四) 木炭部門

木炭の供給は今日の國民生活の重大部面を爲すもので生産計畫は八億四千餘萬貫を目指し、これが需要供給の調節には特別會計制度を以て運用して來たのでありましたが、今後の具體的

な確保の手段としましては

(1) 普通木炭の場合

その生産目標は七億五千萬貫で、専ら計画的に増産を徹底させる主旨からして内地には道、府、縣、市、町、村、部落團體に製炭の割當制を實施して居り、外國に於ては臺灣、滿洲及び新開拓地の増産獎勵の爲凡ゆる運動を強化して居ります。

又その配給方面を見ますと、切符制を愈々實施致し、生産側の道、府、縣から政府が直接に買入れて之れを消費側の道、府、縣へ配給して居るので、消費者直接の賣買を認められて居らないのは既に皆様御承知の通りです。

(2) 瓦斯用木炭

普通木炭の生産を阻害しない程度に於てこれ又極力増産中であります。

(五) 水産部門

北方に世界三大漁場の一を占め、その魚獲技術に於て世界に冠絶し、捕鯨漁業に於ても日本の眞價を世界に發揮した我國水産界の前途は南方各地の包括に依つて一層今後に期待される所

大であります。

併し何分戦時下にあつては漁業用の資材は缺乏し、肝心の燃料が不足し、努力又充分と申し兼ねますので現在のところには生産額は漸減の傾向にあります。

(1) 沿岸漁業又沖合漁業に於ては従來漁業組合がある事はありましたが、單に販賣や購買の仕事に主力を盡すに過ぎませんでしたものを今後は生産の中心機關として計画的な増産を計り、一方小漁業は努めて協同とか合併を促進して無駄な経費を省き努力の節約を計ります。

(2) 特殊漁業又は資本漁業に就きましてはこれを國家的産業といつても差支へない程重要なもので日本の國富を殖やす上に於ても今後その發展を促進せしめ、水産統制の強化は絶対必要なものです。

現在主要な海洋漁業會社は資本金の多少に依つて竝べますと、①日本水産 ②日魯漁業、大洋捕鯨、北日本漁業、極洋捕鯨 ③林兼商店、北千島水産、日本蟹罐詰、太平洋漁業、北洋罐詰、北洋捕鯨、日出漁業、高砂漁業、共同漁業、鮎川捕鯨、遠洋捕鯨等でこの内①②③を日本三大漁業會社といひます。

尙此の外三百餘社の關係會社や底曳、鯉、鮪等の個人經營等數多あります。政府が之等數多ある水産業の統制へ乗出した結果、農林省は左の様な水産統制要綱を決定致しました。

(1) 日本水産統制會社を設立しまして、これが中心となつて海洋漁業に關する総合的な計畫の樹立やら船舶其他の設備、資材、資金の運用を掌ると同時に、水産物の販賣や製氷冷蔵業の經營の統括もするので、水産の統制機關に相當する譯です。

(2) 日本漁業會社は主要な海洋漁業會社の企業合同に依つて設立するもので、前記の日本水産統制會社から船舶其他の設備の貸付、資材及び資金の供給を受けて海洋漁業の實地經營を行ふのです。

尙此の統制範圍は目下のところ内地にのみ限られて居り、臺灣及び南洋群島其他外地に於ては夫々の水産事情に依つて適宜の統制機關を作つた後、本機構と連絡をとる事になるでせう。ところで大東亞共榮圈内其他國外に於ける漁業に就いては今のところ何の計畫もなく唯臺灣、南洋群島に連繫させる豫定といはれてゐます。

(六) 林産部門

木炭部門で覗ひ知られる通り、我國の造林は支那事變以來木材の需要が激増して居るのに一方輸入木材が著しく減退したので、森林の伐採が過度に陥りこの儘放つて置く事は今後の蓄林造林に於て重大事となりました。

一體内地の民有林といふのは我國森林の約六割を占めて、過伐の爲に林相といつてその植林の具合が大變劣悪となつてゐるので、農林省は民有でない立木林地の全部と今後生ずる伐採跡の土地へ優良な林木の造成を計つて居ります。

又一方造林者には助成金を交附して奨励すると同時に、造林を怠る者には改正森林法の適用に依つて造林の命令を下したり、又は政府が代執行をするなり大童となつて、民有林の新造林を十六年度から十ヶ年間に亘つて三十二萬町歩、人工植栽百萬町歩、人工播種二萬町歩、天然下種補整三十萬町歩の大造林計畫中でありませう。消費規正に於ても近く材木の配給統制等も實行される事だせう。

(七) 技術部門

大戦以前の技術界は鎖國の状態で、特殊技術といへば殆ど歐米諸國の模倣の域から抜け切れ

す、特許の様なものも我國の技術界では受け入れられない爲外國に於てその眞價を現したりする場合があつたり、かと思ふと外國の特許を莫大な権利使用料を拂つて我國へ輸入して居た始末でした。

尤も我技術に於ても紡績機械や機關車修繕の技術又はトンネル開鑿技術等は世界第一の誇を持つて居りましたが、この輸入結込技術から離れて新しい科學技術の教育を振興させ日本的な技術を完成するのは今日の急務であります。

此等の目的からして内閣直屬の總動員機關として技術院が此度創設されました。その具體的な方策としては、民間に在る試験研究機關を指導したり助成したりする事、工業所有權や工業そのもの、標準規格を一定して工業規格の簡單にして能率あるものを發達せしめ、扱は又内外の科學技術や之れに必要な資源の調査を爲すものでありまして、差當て目下の研究の目標に在るものは航空技術の開發促進といへませう。

更に此の技術院を補成させる半官半民の機關として國立研究機關を創設致し、尙此等の技術を採擇に當つて慎重に有能の人達が集つて研究調査する科學技術審議會を設け、此の技術院、

國立研究機關、科學技術審議會の三機關が三位一體となつて理想的な科學日本を育て上げる方針なのです。

尙從來の特許局は今後この技術院へ移管されて統制の一元を強化致します。

(八) 航空部門

一國の商業航空網の發達は、近代國家に於てその國の文化の進歩を示す一證左であると同時に、國防的見地から誠に重要な事であります。

この意味に於て滿洲事變後に於ける滿洲には滿洲航空會社、支那事變に於ては中華航空會社が設立されました。同様にして大東亞戰爭後は廣大なる共榮圈地域を結ぶ交通網は航空を措いて外に見出されません。

從來共榮圈内に於ける外國の航空會社を見ますと、米國の汎米航空會社、英國のインペリアル・エアウエイ、和蘭のK・L・M、佛國のエノル・フランス、ソ聯のウラチオ附近に迄達した航空線等大變な輻輳振りを示して居り、我國に於ては大日本航空會社の南方線が南方委任統治領パラオから蘭印を越えチモール迄達して居り、赤道の南十度迄行き互るこの線はグアム島

附近で米國の航空路（四發單葉の飛行艇チャイナ・クリツパー機使用で有名な航空線）と交叉して居たのでした。

今後南方の空路は主幹線として東京——新京——北京——南京——廣東——盤谷——西貢——バタビヤ——マニラを結ぶ所謂南方共榮ルートを結び、南方建設の重大役割を果す一大航空會社の出現は確實で、更にビルマ——印度——イランを経て歐洲圏への重大な交通路を握るものと言はねばなりません。

（九） 治安部門

戦時下の我國內治安は流石大國民の態度を示し一絲も亂れる所なく又敵國在留人に對する我國民の態度も非常に立派なものであります。

政府は開戦直後直ちに共產主義者の詭激な分子は檢舉し、又敵國スパイ容疑者も總檢舉し、刑務所に留置中の囚人の中で特に悪性の者は特定の場所へ移監して空襲の場合一時在監者を釋放する様な場合が生じて何等心配ない様な手配を致しました。

更に時局下の銃後の犯罪に就いては嚴罰を以て處斷する主義を採用し、刑法の一部を改正し

て、燈火管制中又は人心動搖期に於ける婦人に對する犯罪や強窃盜の如き犯罪を死刑又は無期乃至相當の重刑に處する事に致しました。

斯くあるのは勿論當然の事でありまして、獨逸に於きましては燈管も日本より一層嚴重で眞黒な爲平時に於ける小さい犯罪でも死刑に處せられる事があり誠にその戦時立法は峻嚴を極めて居ります。

之等の社會公共安寧を亂す刑法上の犯罪のみでなく、延いては國民生活に不安を與へる所謂經濟犯に對しても嚴罰主義を以て當つて居ります。例へば生活必需品の買占めとか賣惜しみや、防空従事者への公務執行妨害又氣象觀測の妨害、國政變亂の行爲等これを罰する事の嚴重なのは勿論です。

尙戦時下に於ては兎角冗長に流れ勝な裁判の簡略化をも規定して居ります。

（十） 人口部門

南方地域を新に活躍の天地に迎へた今日、我國人口は何程あつても足りない様な状態であります。

ところで我國現時の人口状態はどんな具合かと心配になつて参ります、先づ支那事變最中に於ては昭和十三年前半から十四年の前半にかけて約一年間は一時的にせよ人口が漸減の傾向を辿り、一抹の不安をたゞへました。併しながら國民生活力の根強さは戦争には影響されず、今日に於ては少くとも統計の示す所は戦前より良好な成績を示して居ります。つまり昭和十六年度の推算數は、出生二百二十一萬、死亡百十四萬、自然増百七萬でこの數字は我國未曾有の増加を示して居ります。

殊に喜しい現象は兎角我國人口増加の上の心配の種であつた乳兒の死亡率が激減した事で、此の一事だけでも國家から見て頼しい限りであります。

茲に參考迄に南方諸民族の人口状態を簡単に申しますと、人口密度から言ふと第一は比島で一平方軒當り五十四人、最も稀薄なのが濠洲で同じく〇・九人、又人口増加率の多いのも第一は比島次に馬來、少いのは新西蘭及濠洲となつて居ります。

(十一) 證券部門

支那事變中の證券市場は一口に言へばチリ貧(段々に下落相場をたどる市場語)状態で花形

株の新東でさへ百圓臺を割る慘憺たる閑散振りであります。それが一度米英宣戰布告となりますと、奉公の赤心と國力の爆發とが一緒になつて俄然株價は一齊に高騰又高騰に移り、天井知らずの躍進振りで新東は百四十圓を突破する有様です。當局は先に株價統制令に依つて暴落に備へる最低價の統制を致しましたが此度は最高價格の統制をするに至りました。勿論之れは健全な騰貴を確保する爲になされた事ですが、其後市場人氣は冷靜で、戰果の擴大に迷はされず、投機を目的とする株から堅實で採算のよい事業株に漸時人氣が移つて居りますが、證券界の前途又期待に満ち／＼てゐる有様です。

元來取引所の介在する意味を申しますと、決して投機によつて一攫千金を夢見る所ではないのですが、^{たゞ}偶々昔の市場に於ける株の高低が餘り著しかつた爲にこのやうな誤算を與へる様になつたもので、飽迄取引所は流通資金の運営と取引の安全を主眼とし、生産力擴充に貢獻して健全な投資の對象として資金の調達を圓滑ならしめるのを使命とするのですから、この大使命の達成に今日は頗る近いと言はれます。

之れに反して開戰直後の米、英取引市場を一瞥致しますとその狼狽振りがはつきり察知出來

てその経済力の貧弱に一驚致します。

即ち米國に於ては開戦第一日及第二日と諸株皆暴落を重ね、代表株であるニューヨーク株式は二乃至八ポイント方崩落し、一九三八年以來の安値を示しました。次いで商品市場も混乱に陥り遂に物價管理局が乗り出してコ、ア及ブラジルコーヒの取引は一時中止まで立ち至つた位の慘憺さです。

一方英國も同様で石油株、煙草株、インド關係株は買物が全部無くなりましたので大暴落を來たし、引際ひききはになつて些か正氣を戻したのかインド及ビルマ會社株、錫株、ゴム株は前日に比し落勢は小幅で済んだようです。

何れにせよ一國經濟産業の大勢を人氣で表す取引市場に於てこれだけ日本と米英とは實力の相違があつたのです。

(十二) 電力部門

決戦下の電力界に於ける應急對策としては二方法あります。

(1) 電力配給の整備がその一であつて、この爲には送電の系統を適當に區分しなければなり

ません。例へば一方の送電線が空爆されても他の一方で役立つやうにして置かねば戦時下の萬一の事態に對處して萬全を計る譯には行きません。又同一意味に於て重要な軍需の工場の電源を確保する必要上からも一系統の配電であつては一大事です。

之れに反して電力を配給する元締もとじゆたる司令は一元的に確保せねばなりません。

(2) 電力を動員するに當つてその完璧を期さねばなりません。

電力を動かすのに充分圓滑に行かぬ様であつてはなりません、この爲には既に電力國家管理の形式で國策會社である日本發送電會社が設立されて居りますが、更に配電の方も統制の必要があります。即ち發送電部門と配電部門が一致連絡されなくては眞の電力の統制とは申せません。

政府は従來配電の統制は總動員法と電氣事業法とを實施して配電の管理を實行中でありまして、不急の電氣を節約し民間の電燈も一定使用量以上に對しては制限を附して居る位です。

以上は開戦に當つての應急處置ですが長期を目指す恒久對策の樹立が肝要であります。その第一は電力擴充計畫であります。つまり電力の需要は殖える一方で之れをこのまゝにして置く

事は許せませんから、未開發の電源を續々と開發致し、又資材を確保する事です。それには電力設備の戦時に於ける規模を決定する事言ひかへれば發電機、變壓器、電動機等の戦時中の一定の規模形式を規定して、例へば銅を極力節約して送電線や配電線には主として代用品としてアルミを利用するが様な事です。

又平時の場合と異り戦時に於ける電気料金は均衡を得たものでなくてはなりませんので努めて遍派な料金を率直大膽に改正する事です。

元來發電施設は改めて申す迄もなく火力に重點を置かなくてはならない事は、水力には天候に依つて左右される弊害がある爲ですが、火力の燃料となる石炭も生産の制限を受けたり輸送船舶の不自由があるのですが、昨年は幸にして降雨量が相當あつたので、相當量の貯炭が出来てゐる次第です。

第四章 南方經濟建設と決戦日本産業

考へても御覽下さい。南方共榮圏には幾多の有り餘る物資が手を束ねて私共の開拓を待つて

居るのです。現在生産出来る物資は言ふ迄ありませんが、今後私共の建設の努力次第では從來出なかつた貴重な資源にもぶつかる事せうし、新しい開發手段に依つては從來の物資を私共に必要な物資へ移り變へる事も出来るのです。殊に心強い事に戦争遂行には缺く事の出来ない石炭やゴム及錫の類が私共の手に入るばかりでなく、敵國へはその一片でも手渡さないで済むのです。こんな痛快な事が又とありませうか。

赤道直下の地味肥かな南方諸地方では例へば樹木に就いて見ても樺太で百年かゝるものがその三分の一で済むのです、米等も内地で年一回の收穫が常識になつて居るのに、佛印や泰では三回も採れる位ですし、ゴムの成長等も親指位の苗が四年間経つか経たない内に直徑五寸位の一人前のゴムの木に成長致します。

礦物類でも太陽の恩恵は偉大なもので、鐵にしる錫、銅、ボーキサイトにしたところが寒帯にないよい物が出来るのは風化作用の爲残滓物を流し去る爲と思はれます。

今此等の南方諸物資の豊潤さを説明し、之れと同時に此等を輸入するまでの決戦日本經濟の各方面に亘つて御話し申しますが、説明は飽迄面倒な數字を避けて理解を第一とし、その知識

も専門的になるのを避けてその基礎知識を主眼と致しました。

第一課 鐵 鑛

我國の鐵鋼は從來主として海外依存の建前から成立して居ました。即ち原鑛は比島、馬來方面から、屑鐵は米國から及び銑鐵は印度から輸入して居ました。併しながら大東亞戰爭の勃發前既に之等の諸國からの輸入は杜絶に近い状態に在りましたので、いやでも應でも自給體制を確立するの外はなくなつたのです。その對策としては先づ滿洲の増産開發計畫を完成致しました。鞍山鑛區は品位三十三%といふ貧鐵鑛であります。其他大栗子溝、七道溝を初め數ヶ所にはこの貧鑛から銑鐵を作り出す事に成功致しました。其他大栗子溝、七道溝を初め數ヶ所には品位も相當よく世界的富鑛も含まれてゐます。その生産額も十四年頃の調べでは大孤山外七山で年産約三百五十萬噸と言はれてゐます。

朝鮮にも續々開發計畫が實行され着々整備されて居ますが、支那の埋藏量は或ひは一億トンといひ又三億トンと甚だ漠然ですがそれだけ將來性があるもので、その内北支那が全支埋藏量

の二分の一を越えてゐると稱せられ、我國と協力開發をなす主な鐵山は龍煙鐵鑛、金嶺鎮鐵鑛、大冶鐵山等です。

海南島には極めて品位よく最高六八%の優秀な物もあり、主なものは田獨山、石碌山等で、この開發には石原産業と日本窒素が當つて居り、數年の内に〇百萬トンの年産も有望といはれて居ます。この外品位は悪いが泥鐵も一部あります。

比島の鐵鑛は廣範圍に分布してゐますが、主として八鑛床から成り確在量は約四―五億トンとされてゐます。

佛印に於てはカンボヂヤ地帯を除き殆ど全土に埋藏があり、今後の開發によつては相當の埋藏量を約束されてゐますし、その鑛區は目下日佛合辦（合同經營）其他で着々發掘されて居ます。

泰の鐵鑛は現在のところ全く未知數であります。

馬來には極めて品位のよい鑛床があるので石原産業、南洋鐵鑛、日本鑛業等が經營してゐるものが從來からあります。

唯此等の各地何れも製鐵事業が從來抄々しく行かなかつたのは、必要とされてゐる粘結性炭ねんけつせいといふ石炭が印度以外には發見されない爲と領有國である本國が寶石とか特殊礦物又は南洋獨特の產物等を主として此等の土地へ求める爲に製鐵へは氣を注がなかつたのも一大原因です。印度には有名な「印度の鐵帶」を控へタター・バーン・ベンガール等大製鐵會社があつて主として英國へ輸出をしてゐましたし、濠洲にはワイヤラ・ヤンピサウンド等の富礦の外幾多その埋藏に恵まれて居ます。

此等の資源を控えて我國製鐵技術の一段の飛躍を希望されてゐますが、既に米國から屑鐵の輸入を得られなくなつて以來、新鑛石法を發見し屑鐵を多く必要としないで銑鐵さへあれば出来る様になつたのは誠に心強い限りです。

又技術の進歩は特殊鋼、鍛鋼、鑄鋼も惡條件の屑鐵制から世界的の水準に迄發達させましたが、何分原鑛の點が心配となります。

尙商工省は屑鐵回收強化の一手段として特別鐵鋼の増産計畫として、特に(一)産業設備を強大として遊休設備を整理し(二)特別回收の方法を強化し(三)遊休の資材を總動員する爲

には海上輸送力即ち船舶の配分を優先的に第一位とする非常手段を採り、又(四)造船製鋼に當つて必要な石炭の増産と努力を確實に握る爲の別扱の手段を採つて居ります。

第二課 非鐵金屬

非鐵金屬と言ふのは錫、銅、ボーキサイト、マンガン、クロム、亞鉛、鉛、ニッケル等を總稱するもので、之等金屬は最近の工業の發達や進歩した近代兵器には缺く事が出来ないものばかりであります。

ところが我國は昔から産銅國と言はれながらその産銅は事變前には全需要の三割迄輸入に依存してゐた位で、アメリカ、カナダ、及び南洋から此等が入つて來たものが此度の大戦で完全に停止してしまひました。日本はアジア第一の産額を持つ銅でさへそいつた具合ですから其他の非鐵金屬は推して知るべきで、政府は從來の日本金屬鑛業聯合會の事業を一切繼承して、鑛山統制會を設立し、國內鑛山物の増産を最高度に昂める爲鋭意努めて居る譯です。

併しながら新に私共の經濟圈に入つた非鐵金屬資源は大變に豊富なものであります。

馬來、蘭印の錫、ビルマの亞鉛、鉛、比島のクローム、ボーキサイト、銅等の寶庫は、此度は反對に米英を逆封鎖するに至りました。

錫

東亞共榮圏内の錫の生産額はゴムと共に世界有數であり、馬來だけで世界の三割餘を占め其外蘭印、ビルマ、佛印を合計すると世界の約五割即ち八萬九千トン（一九三九年調）を産出して居まして、この外北支那からも相當量の生産があるので、戦後はゴムと共にその生産配給に一苦勞する位なのです。

今日の近代戦争に於ての花形武器である飛行機、タンク、軍艦、大砲を初めこの錫を使はぬものはない位で、馬來、蘭印、支那、英本國から戦前その八割までも輸入してゐた米國の困亂振りは氣の毒な位でせう。

銅

南方の銅生産高は今日までのところは大したものではありません。併し我國の資本と技術を

以てしたなら比島、ビルマ、佛印に於て相當量の埋藏を活用する事が出来る見込があります。

この外滿洲、中支那等にも埋藏があるので樂觀は禁物であります。特に比島に豊富な鑛脈があると發表されてゐます。要するに今後の開發重點は銅に置かねばなりません。

尙北米、智利、加奈陀、墨西哥、秘露（何れも南米）の産出する産額は世界の八割餘を占めてゐます。

ボーキサイト

アルミニウム原料で銅と共に我國の重要資源でありながら、消費量の約七割をジョホールから輸入してゐました。

ボーキサイトの南方産地は、蘭印を第一に馬來を第二としますが、之等の産出量は殆ど無盡藏と迄言はれ心強い限りであります。」

マンガ

合金銅の材料に缺く事の出来ないマンガン鑛はこれ又比島を首位として馬來、蘭印、佛印に産し、又中南支にも相當の埋藏量があり、滿洲にも可成の埋藏量があります。

クローム

クローム鋼の合金材料で、このクローム鋼は戦時にあつてはタンク、砲車板、鐵兜とし平時にあつては精密機械の材料として大切なものです。比島、蘭印を主産地とし相當量の確保が出来ます。

128

亞鉛

眞鍮合金材料でその原鑛の亞鉛鑛の主産地はビルマ、佛印、其他滿洲、支那にも出ます。

鉛

ビルマ、滿洲、支那に産します。

ニッケル

比較的共榮圈内には埋藏量が少いけれども、ビルマ、蘭印に産出します。

右の外共榮圈内には多少ながら金、銀及タングステン（これはウラル地方のものより良質といはれます）を出し、南洋は非鐵金屬の殆ど全部を網羅してゐると言つてもよい位で、誠に天然の寶庫であります。問題は之等の資源を輸送する運輸の方法で、戦時下の今日急速に輸入は出来ませんが、今後の開發によつて我國鑛業界の活況は輝しい前途を約束されて居るといへませう。

129

第三課 石 炭

自由經濟の華やかだつた時代石炭政策はその性質上非常に大切な役目がある事を忘れて補足的な取扱をしたり、昭和四、五年頃の不景氣な時代に石炭事業の規模を縮小したり等した爲新體制に取り掛る以前は石炭の生産状態は感心したものではありませんでした。

往年銅と共に我國の主要輸出品の一であつた石炭もこんな状態でその生産高は内地の需要さへ満たしきれない位でした。

ところが近頃は炭鑛も統合整理が行はれ著しくその能率も増産的となりましたが、炭鑛といふものはその整理の方法が地上の工場を合併する様な具合に簡單には行かず、例へば百人の坑夫を一つの山から他の山へ移すとその半數が減つて了ふといはれた位のもので極めて統合の困難な事業といはれてゐます。併し現在戦争の影響で坑夫の愛國的な觀念も手助つて少勞力を以て大きなカロリーの石炭を出す増産運動は拍車をかけられました。併し石炭の供給には輸送方法がその鍵を握つて居るので、遠い良質炭より近い悪質炭と迄いふ位です。

今日製鐵原料に大切な粘結性石炭即ち開瀾炭の確保が比較的運送距離も手近い所へ得られた事は慶祝に堪へません。

一體石炭の増産に問題となるのは埋藏量の點も在りますが次に勞力次第で大變に能率が違ふ事は勿論で、炭坑夫が一人殖えると年に二百トンの増産が出来ると見て、百人増せば二萬トンの増産可能な譯であります。先にも坑夫の移動の例を申しました通り地下勞働は監督が不足

する性か兎角怠けが多く、又米の配給が炭坑夫も同一であるといふ不合理な配給の爲從來増産が捗々しく行かなかつたと思はれますが、宣戰以來この點は坑夫の意氣込からして違ひますから心配がなくなつたと言はれませう。

今我國の總埋藏炭量は約百六十億トンと稱せられ、石炭の近來の需要増加から見てその壽命は百年と保たないとされてゐます。

併し隣邦滿洲國及び中國の埋藏量は約二千六百億トンといはれ、殊に北支五省の包藏炭は全支の八割六分強を占めこの支那の石炭だけで共榮圈の需要を満たし得られる位です。

佛印の石炭は北支に次いで豊富なもので、而も無煙炭の様な良質のものを産します。その採炭事業は五十年位前から始められたもので從來の主要輸出地は支那、日本、香港等でした。

蘭印のスマトラ、ボルネオにも亦相當の埋藏量がありますがその採炭業は十分發達してゐません。併し今後蘭印が工業化した場合充分自國の石炭で賄つて行けませう。

比島は從來年五十萬トンの消費石炭を輸入に仰いで來ましたが、惡質乍ら炭鑛は存在してゐます。

第四課 石 油

大東亞に於ける石油の産地はその性質から言つて大體大きく二區分する事が出來ます。

(一) 外側石油地帯

東亞大陸の東側及び東南側の海上に在る島々に現れ、其處から脈を作つて東亞大陸の外側を取巻く地帯で、所謂第三期地層に屬するものです。

この地帯に屬する油田は、樺太及び日本群島の油田で年産約七十萬瓩あります。又比島は從來試掘は大分されて來ましたが未だ充分な産油量を出して居りません。蘭印諸島は開發に依つて將來有望でありまして、ボルネオ、ジャワ、スマトラ、セラリ四島で約七百四十萬瓩を産してゐました。

英領ボルネオも亦九十萬瓩を産し、東印度全體では實に八百三十萬瓩を産します。又緬甸にも百萬瓩を産し實に南洋は石油の寶庫と言へます。

(二) 大陸地域

東亞大陸中に斑點狀に盆地を作つて散在してゐます。所謂中世代地層と呼ばれるもので、これに屬す地方は支那大陸及び滿洲國です。

支那に於ては四川省、峽西省の盆地に産するもので、年産は僅か百五十萬瓩です。

滿洲に於ては昭和六年達賚湖の油徴地が發見され、昭和十三年には阜新炭田の近くに油徴を發見致しました。尙今後發見の可能性があり日本の物理探鑛法が應用されたなら相當の發見が出來る事と思はれます。

此の様に南方には幾多石油の資源地を控えて居りますが、何分今の場合早急に之等の物資を當てにする事は出來ませんので益々今後は貯油をして、天然油田の開發を心がける一方次に詳しく述べます人造石油の發達を指さねばなりません。

尙今日のところ軍需用石油としては、陸軍側では主として占領地英領ボルネオのルトン・ミリ・セリアで工事を進捗中であり、又海軍は蘭領ボルネオの破壞施設を復舊中で相當産油もあり軍需の石油には心配ないと軍當局は發表致しました。又昨年暮から軍用石油の内から民間へも特別配分を行つて居ります。

第五課 人造石油

只今申した通り南洋の豊富な石油事業も戦後の破壊回復工事やら輸送能力の問題等で急場の間に合せは危険ですから此際極力人造石油事業の發展が期待されます。

殊に人石はそのオクタン價（極めて良質のもので航空機用及び潤滑油の製造に適しますが能率的であります）、現在のところ採算經費が天然油の約四倍に當りますので政府は補助金又はプール計算でその一定量を確保する爲鋭意努めて居ります。本年秋にはその飛躍的な増産が期待されて居ります。今後南方から資源が續々入つて來る場合もこの事業の保育政策には變りはありません。つまり國防的に言つて國內自給工業の確立は目下の急務なのであります。

それなら人造石油事業とは一體何を言ふかといひますと、各種の物質から石油代用の液體燃料を作り出す事なので、その原料には頁岩及び石炭を以てするのが主要なものです。勿論この外にも魚油、亞麻仁油、菜種油、椰子油等々からも石油を製造しようとする研究が行はれてゐます。

頁岩から作るには乾溜法に依るもので、滿鐵が撫順の頁岩から現に採取してゐる方法が代表的なもので、昭和四年十二月その工場が竣工以來今では十數萬瓩の重油を採取してゐます。撫順炭礦の石油頁岩は四百尺の厚層を爲し埋藏量五十四億トンと稱され、乾溜に依つて平均5%の石油が得られるさうです。

又石炭から石油を採るには低温乾溜法と合成法と水素添加法（石炭液化）の三種があつて、我國では大分以前から朝鮮石炭工業會社、滿鐵、北海道炭礦會社、三井鑛山、日本鑛業會社等が何れも研究的期間を過ぎて實績を擧げつゝあります。尙現在工業的に液化事業をやつてゐるのは我國の外に獨逸、英國等があります。

元來我國の人造石油事業は昭和十二年から増産計畫を樹て人石事業法を制定し十七年春から運轉を開始したもので、工場は全国各地にあつて、近頃では一工場の年産〇萬トン乃至〇〇萬トンといふ素晴らしい飛躍發展振りを示して居ります。

又十二年からはその計畫の外に別個に人造石油工場の急速建設を目指しその内には撫順の頁岩油工場も含まれて居ります。この計畫は本年の初冬迄には完成の豫定です。

政府は國家目的に添ふこの事業には特別の保護方法を講じ、この事業に適正の利潤が得られる様に保證を與へて居ります。又生産費が比較的高い事が問題であります。これは外國から石油が入つて來た場合こそ高いといへる問題で（昔はライディングサン・スタンダード、まつかた松方日蘇等輸入石油の大競争でした）今日では軍事的目的から言つてもコスト高は問題ではありません。又人石の設備機械は帝國燃料が大規模な専門製作工場を設立して着々として製作中でありま

す。
又人石原料炭の供給としてはその爲に特に専用の新規の鑛山を開發し、目的に添ふ石炭のある土地へはどしどし工場を新設して輸送の不便を避け、又各炭鑛へは人造石油用の石炭は普通石炭と別個の取扱配分をして特別の便益を計つて居ります。

第六課 砂 糖

大東亞圈の砂糖の産額は比島百萬トン、ジャワ百七十五萬トン、それにハワイの八十五萬トンで此等の砂糖は東亞圈内で消化するとなると過剰過ぎて困るといふ有難過ぎる心配が出て來

るので。

其處でその對策は今のところ別に具體的にきまつた譯ではありませんが方針としては二つあるので

(一) 臺灣の糖業を主軸として、蘭印や比島の糖業は今後は編成替を行つて棉の栽培等に振り向ける案です。元々南方の此等の土地は古くから砂糖が出來た譯でなく、昔は棉花の産地であつたものですが、米國及和蘭が領有後は自國の需要を中心として砂糖事業へ^{くらがへ}鞍替させた譯ですから、結局元の狀態への復歸といふ事になります。

(二) 南方圈の砂糖を全部生かして日本糖業を中心とし各地の糖業を包括して運営し一元的に統制する案で、この爲には歐洲圈への輸出とか生産の制限等も伴つてくる問題となります。ところで我國の産糖額は何程かといひますと、全國で來期産糖額二千二百二十五萬五千ピコル見當で本期に比して約五百八十萬ピコルの増産が期待せられ、臺灣だけでも千九百萬ピコルの生産が確實と見られて居ます。つまり日本だけで砂糖は百三十餘萬トン出る譯です。

これだけの生産があつて何故今日の様に砂糖が市場になくて甘黨を悲しませてゐるかと言ひ

ますと、東亞戦争の爲船舶が不足したのが主要原因と言へませう。

ところでこの臺灣の糖業を南方圏の豊富な砂糖輸入を見越して大轉換させ米作の様な新規な方面へ改組したらといふ考へを持つ人も出て來ました。

併しこれはなか／＼簡単に組織替への出来る問題ではなく国防と海運とを離れて物事の判断を決める譯には行きません。この點は今日各國とも絶大な努力を傾けて自給方法に努力して居るところで和蘭、英國、ソ聯等が代表的な例です。而も假に臺灣の甘蔗耕地を米作に轉換して見たところで年産約見積りで百萬石位でこの量では國內消費高の約一％にしか過ぎません。

又甘蔗耕地の米作地への編成替へは灌漑の不便等の諸條件があつて急速に實現は困難な事です。

138

此等技術的な點を離れて見ても臺灣に於て糖業へ投下された資本は尠くないので之れを全然見棄てる譯にも行かず、糖業と農民との關係を今更急に他へ變へる事は出来るとしても得策とは申せません。

南方の豊富な砂糖資源を目の前にして、今や我國糖業界の統制は着々と整備されつゝあり、

生産部門に於ては農作物の作付統制や臺灣糖業審議會の運用や臺灣糖業の原價計算制度の採用に依つて生産力は益々加はり、新糖は増産の見込充分となつて居りますし、積出統制に依つて輸送力の不足を早出等はやだしの方法で埋め合せて居ります。

一方配給の方面に於ては砂糖配給會社、元賣機關、卸賣機關、小賣機關が一體となつて軌道に乗つて參りました。

又御存知の如く戦時財政の一翼として砂糖消費税も決定致し家庭用砂糖も切符制に依つて確保されました。併し加工用砂糖は今後も一層割當が削減され又増産はしても積出はならず、臺灣に於て倉庫設備を擴充せねばならぬ二重の負擔となりましたが品物が無い譯でなく在庫品として所有する限り先行は頼たよしい事です。

139

第七課 ゴム

嘗て南米のブラジル原産地からその苗木二十二本を移植した馬來のゴムは今日南洋の寶庫として、その栽培面積は約五百萬英反の廣大な面積に亘り、蘭印を含めて年額約百三十萬噸とな

つたのであります。

即ち世界のゴム供給地は馬來半島が最大で次は蘭印、錫蘭、佛印の順位で、その内馬來が全體の五割三分を占め次の蘭印は三割三分、兩者で既に世界の八割六分の多きに上つてゐます。元來此等の地方の近年のゴム生産高は、一九二九年以來減退してゐましたところ、米國自動車工業の復活に伴ひゴムの販路は好轉して來ましたし、更に一九三四年五月に限産協定が成立してからゴム界は一時に明朗になりました。

このゴム限産協定といふのは、世界的の不景氣とゴムの生産過剩から來るゴム値段の暴落を防ぐ目的で、ゴム生産國を主とする國際ゴム生産制限協定を締結し、各國別に輸出數量や生産數量を基本割當に依つて最高限度を決めた協約をいふのです。従つてゴム栽培事業は其後ゴム價の安定と共に益々發展を來たしましたが、その生産量は現在割當量の九割見當と見られて居ます。

而も南洋の我勢力圏に入つた場所だけで實に世界の總生額の九割以上を占め、從來之等の供給地からゴムの輸入を仰いだ米國は逆に日本から經濟封鎖を受ける様になつたのは誠に運命の

皮肉と言はなければなりません。

今我國のゴム工業の沿革は大して古いものではありませんが、昭和四、五年から支那事變直前迄は爲替安時代の爲、日本のゴム製品が各國へ輸出されて幅を利かした頃があつたので、この頃我ゴム工業も異常な發展を來たして世界へ安値のゴム靴を流出して世界の業界を一驚させ、又米國へも相當量のタイヤを輸出したもので、世界中のゴム業者に悲鳴を出さした位でした。その當時の我國の原料ゴムの使用量は年額七萬噸に近く米國に次いで世界第二位の消費國だつたのです。

ところが茲に支那事變が突發前後に當りまして、世界の各國は關稅を高くして外國品の輸入を防止する手段に出でましたし、他方南洋からのゴム原料の輸入も杜絶しましたので遂に我國はゴムは軍需品以外には製造する事を一切禁ぜられる様になりました。

この對抗策として合成ゴム工業が發達して參りました。合成ゴムといふのは古ゴムの利用方法で古チューブ、足袋底等のゴム製品の使ひ古しを粉碎して油又は苛性ソーダと高熱で處理し一度練つたゴムから再製したもので、今日世界の合成ゴムの總生産高は約十萬トンであります

が、その額は天然ゴムの約一割にしかな過ぎず値段は安いけれども強靱性がないといふ弱點があります。

我國の合成ゴム工業は今日相當量の生産を致して居り昭和十四、五年の頃には米國から相當量の原料屑ゴムを輸入してゐましたが、漸次米國から入る屑ゴムの品位が低下して參り、その内經濟斷交となつて輸入が絶えた譯です。

茲に問題となるのは我國ゴム工業界の前途であります、元來我代表工業であつた紡績工業にとつて代つて無限の資源を擁したゴム工業は如何に發展しようと思はせうか。

平時六、七萬トンのゴム消化をして來た工業が一躍よく百萬トンのゴムを消化し切れませうか、現在の我ゴム工業の施設を全部運轉するとしたところで約二十萬トンのゴムを製品化するのが精々と思はれます。而も之れにはゴム工業に附隨する補助原料としてカーボンブラック、加流促進劑、老化防止劑、綿布等を必要と致しますが之等の入手も考へねばなりません。

尙我國のゴム工業は總消費量の過半を占めるタイヤ製造關係を除くと、他は殆ど中小雜工業

の様な規模經營の小さいものが大變多く、これがこの業界の一つの痛となつて居りました。

其處で商工省は昨年ゴム工業整備要綱といふものを作つて今迄千四百もあつた工場を三百六十に縮減致しました。そして今後豊潤な南方資源を迎へるに當つて之等工業者の今後採る可き方針を大體左の様にすべしとの見解を示してゐます。

(一) 南方百三十萬瓩のゴム生産の内我國へは〇〇萬トン輸入し、一部を國內消費へ他の一部を滿支へ向ける。

(二) 工場の運営を合理化して原料の消費を充分に行き互らせる。

(三) 從來代替品を以て賄つてゐた或部門へは天然ゴム製品を振向ける。

(四) 天然ゴム製品の輸出を旺盛とさせる。

(五) 消費剩餘量は輸送力を考に入れて現地に於て重要物資管理營團に於て保管確保する。最後に南方の資源は明日にでも入手出来るやうな危険な考は飽迄避けて、中小ゴム工業の再編成は實行する方針に變りはない事を明にしてゐます。

尙消費對策としては現地で使用してゐるゴム汁凝固用の蟻酸、醋酸等は我國から供給すると

いつでもその數量に自づと能力の限度がありますから、從來よりもその生産高は多少減少される事は已むを得ませんし、又生産の制限も場合によつては考へねばならぬ事です。(最近ゴム汁凝固用劑を椰子油からとる發明が日本人技師によつて完成されたといひます)

積極的にその生産を制限する手段としては (1) 一部ゴム液の採收を行ひ、一部のゴム樹は當分ゴム汁の採收を中止する。そして尙且その餘剰生産分は現地で貯藏する。(2) 一部ゴム樹を伐採してその後へ棉花を栽培する。

右に依つて生じた原住民の餘つた勞力は、食糧品特に米の様な他から輸入してゐたものの生産に振當て、食糧の自給制度を採らせる。

更に又ゴム生品の使用配分も從來の方法以外に進んで道路計畫、自動車増産、ゴム工業補助原料、化學工業の擴充に向ければその使用方法も亦大分廣まる事になります。

最後に南洋經濟圏からのゴムの締め出しに依り米國の今後はどうなりませうか検討を與へて見ませう。

即ち米國の軍事的工業方面殊に自動車工業に於てはその苦痛振りには想像以上で既にタイヤの切符制が實施されて居りますが、我國と違つて自動車と國民生活と切つても切れない米國の苦面は察するに餘りあります。

然し乍ら決して今日の米國は日本が考へてゐる程短期に弱音を吐くとは思へません。數年前から中南米にはゴムの栽培を企業化して居ります。今石油原料の安價な合成ゴム工業は急激に増産を加へ、從來澤山のゴム製品を持つてゐた國だけに再生ゴムの原料も亦數多あると見ねばなりません。

ですから二年や三年の一時凌ぎは簡單に出来るものと思はねばなりません。唯何といつても米國の輿論の中心は自動車工業に在つたのですから、その精神的の打撃は日頃豪語してゐた國柄だけに、想像以上に痛切に響いてゐると思はれます。

敵性英國のゴムに就いては米國の様に當面の心配はありません。現在セイロンと印度からの輸入で充分であります。今日印度の動向は樂觀を許せませんし、殊に船舶を以てする輸入の

危険は獨、伊樞軸國の健在なる限り之れ又頭痛の種と言はねばなりません。

第八課 人絹、ス・フ工業

大東亞戰爭の目的とする所は高度國防國家を建設すると共に、東亞共榮圈の樹立に在る事です。この共榮圈が經濟的に相互に連絡しながら發展して行く事はつまり大亞細亞の力を増進せるに外なりません。

此の新しい隣組である南方經濟圈から私共は幾多の貴重な且有り餘る物資の供給を約束されてゐます。それなら之等十億に餘る南方民衆に對して私共からも何かの贈り物をせねばなりません。その第一は彼等の生活必要物資であります。殊に纖維品の輸出特にその中でも原綿品の惱みある綿製品よりも人絹、ス・フの輸出を中心とせねばなりません。

人絹は昭和十一年に於ては濠洲を除いた共榮圈へ二十八萬噸、人絹糸十六萬噸、計四十四萬噸を輸出してゐた実績を持つて居ります。

ですから人絹工場で現在遊んで居る設備も出来る限り保存してその目的の爲に向ける事が今

後大いに期待して已まないのです。

ス・フ工業は將來南洋方面の木材からもバルブの生産が出来ますし殊にその工業に缺く事の出来ない鹽も南方から輸入する事が出来て益々有望であります。

ス・フはその初期に於ては随分と各方面でその品質の劣惡の爲不評判となりましたが、今日の代表的なス・フに於ては綿に遜色ない位改良されて、綿や羊毛の完全な代用品となつて居ります。殊に雜纖維や混紡用としては缺く事の出来ない品物で、將來安い棉花や羊毛がどしどし輸入された場合ス・フはどうかと心配の向もありませんが、決して心配はなく、支那大陸方面や南方各地への輸出は大歓迎されて居るのです。

今我國人絹、ス・フ工業の現状を見て見ませう。

即ち他の凡ゆる工業部門と同様海外からの物資輸入難の爲に之等の工業も大轉換の餘儀ない破目に陥つたのです。つまり諸藥品、石炭、勞力の不足の爲限られた生産力を以てより、以上の効果を擧げるが爲に昭和十五年秋之等の企業合同の整理合同の具體案は十五の單位の結成を見

るに至りました。

その統合の目標とする所は (1)人絹、ス・フ專業の場合は日産五十疋以上 (2)人絹、ス・フ兼業の場合は日産能力七十疋以上の事且人絹、ス・フ何れも二十疋を下らない事としました。併しこの統合は形式に流れ勝ちで資本の合併とか、經營も形式の集團的合同とかになり勝て今後は本當の意味の經營の合理化が必要とされて居ります。

元來纖維工業は重要産業に指定されて居りませんので、この方面には統制會の動きを今迄見なかつたのですが、今後はその設立も近いものと思はれます。纖維製品の配給に付いてはその整備方式が既に決定されて居ります。

第九課 紡 績

我國の紡績業は慶應三年に初まり、その後日清、日露、及び歐洲第一次大戰を経て今日の隆たる大工業となつたのは轉懷古の情に堪へません。一面我紡績業の支那進出は、その經營と市場の販賣が有利であつたといふ好條件に恵まれて内地紡績業と共に顯著な發達を示したもので

です。

併し之等紡績業の原棉の供給地が主として印棉及び米棉が占めてゐた事は米、英の資産凍結に依つて一大逆境に直面した事になります。

その外軍事的成功に依つて英米が支那市場から完全に撤去され、今迄支那に在る我紡績業と事毎に争ひと妨害を續けた英人紡績が上海租界と共に東洋から永遠に姿を消した事は一方の難問題の鼻が附いた譯です。

英米よりの原料杜絶の問題は簡單には片付けられないのですが、差當り支那棉、朝鮮棉を増産して他面に現在の手持原料を食延して持久策を採らねばなりません。

更に此の方面へ今日殆ど原料パルプの輸入をせず済ませる人造纖維の利用も考へる可きでせうが、これは前項に述べた如く石炭や苛性曹達の不足といふ心配もあります。

それなら共榮圏内の棉花資源はどうかといふ事になりませう。

併し共榮圏の棉花は品質が劣つて居るといふ悪條件もありますが、第一數量的に見ても需要約三千萬ピクルに對し供給約三千三百萬ピクルで量的に言つてトン／＼の状態で共榮圏外から

従來は七百萬ピクルを輸入してゐた状態に在ります。

従つて今後共榮圈棉花中壓倒的主位にある支那棉花の改良の大切な事が考へられます。この支那棉も最近迄の數字はその生産額の次第に減少振りを示し、昭和十四年には六百三十五萬ピクルとなつて居て心細い所があります。これには華北、華中棉産改進黨が設立されて生産の回復と出廻りの増進に研究が續けられてゐますが、内地遊休の設備を大陸へ移駐せしめたり、治水、利水の一層よい活用が期待されます。

此の外比島を初め砂糖、麻の過剰産地に對してはこれを棉花と代作させる工夫もありますが何分これは今後の問題で今急には當てには出来ません。

我紡績業の統合も之の目的に添へて考へねばなりません。現在のところ七十七會社が十四の企業體に統制されて居り、更に五割の操業、三割の豫備、二割の軍需産業提供といふ形を採つて居りますが、今後益々これ以上の整備を要求されて居り、他面全纖維の綜合の統制會の成立するのに近い事と思はれます。

第十課 生 糸

過去何十年かの間輸出の大宗として我國貿易商品の首位を占めた生糸も遂に大東亞戰爭を一轉期として百八十度の方向換へをせねばならなくなりました。元々戰爭の勃發前といつても生糸の主要需要國である米國の敵性態度とナイロン（生糸代用人造糸）發明の爲海外向は極端に輸入制限を受けましたので應久策として生産額の三分の二は内國需要に振向け、残りの三分の一を外需に向ける方針の元に對策を練つて來てゐましたが、愈々大東亞自給自足經濟の今となつては生糸は茲に新しい出發を爲さねばならなくなつて了りました。

一體一口に生糸と言ひましても輸出向と内地向とは品質がまるで違ふので、輸出向の生糸は外國の需要の關係で細く細くと作られ、従つて値段も高い譯でこれを急に内地向には出来な

いし、又國內ではこんな贅澤品は七・七禁止令に依つて製造が出来ない所へ來てゐました。

こんな意味で蠶糸業再編成の第一陣を受持つたのが例の蠶糸業統制法なのです。尙政府は國內桑園の内十萬町歩を大整理して麥や芋作に轉作せしめたりしたので蠶業の前途

には大分悲觀論が現れました。

併し農家の金錢收入の中で第三位を占めてゐた繭の生産を一朝にして廢して了ふ等は到底出來得ない事でありまして、この對策としては劃期的な減産及び繭の短纖維化の二方法が生じて参ります。

減産の點は御解りと存じますが短纖維化とは何を言ふのでせうか、つまり從來の長纖維の生糸を短纖維のものに作り變へる事です。昔の本當の絹らしい生糸は細くて長い纖維から出來てゐましたが之れは實用品ではありませんから改造して、太くて短い丈夫な生糸とする事です。この纖維は羊毛や綿布に織り込んで利用すればその用途はなか／＼廣く、又内地の羊毛代用品として立派に役立つのみでなく、東亞共榮圈諸民族向けとして十分に輸出の可能性が参ります。

ですから減産どころかこの糸の増産は目下の急務となつて來ました。但し現在のところ南方へ輸出するにはその風土は適してゐても、その價格の點から言つて購買力の點が疑問となりまゝす。従つて絹物の代價を低くする爲に絹に人絹やス・フを織り込んだものが輸出される事にな

らうと思はれます。絹に對する内地の需要を増す爲に目下政府が絹物の消費には衣料切符にも特別扱をして特に懸命となつて居る譯です。

最後に参考迄に申しますが昭和十六年收購産額は前年の八千萬貫に比べて著しく減少して居ります。

第十一課 其 他

(一) 麻

一口に麻と言つても亞麻、大麻、苧麻、黃麻、南京麻等と多様にありますが比島に産するマニラ麻は主として綱を作るのです。

比島に於けるマニラ麻の生産は極めて多額で、共榮圈確立後に我國へ流入する事が過剩になる心配がありますと、我國内の麻生産農民が迷惑致しませうから輸入麻に對しては國內配給統制の整備中で、これが機關としては營團に依らず統制團體で取扱ふ事になつて居ります。

(二) 工業鹽

曹達工業の原料として従来はアフリカ、支那沿岸、關東州、近海から輸入して居りますが、將來は南地へも鹽田の計畫を持つて居ります。重要物資管理營團は現在のところ工業鹽は取扱物資の内に含んで居りませんが、先行は取扱ふ品目となりませう。

(三) 米

佛印と泰の輸出力は二千萬石、ビルマ二千萬石で、一方需要の方面は、馬來二、三百万石、南支那一千萬石で、印度はビルマに依存して居りますから差當つて我國の處理する必要のあるのは約一千万石ありますが之れは現地に貯藏する方針であります。

(四) 油脂

南洋方面特に海南島は油脂工業の原料資源に恵まれ椰子、海棠樹、落花生、胡麻等が栽培されてゐますが、我國の油脂會社は主として椰子を中心として油脂工業の開発を行つてゐます。椰子の果肉から採るコブラが椰子油の原料でこの油を原料として石鹼、洗劑、人造バター、食用油及びグリセリンの原料となります。この外椰子油粕、果皮、椰子ノ水、材幹、何れとして用途のないものはありません。

尙椰子油からは最近潤滑油やゴム凝結劑の發明も完成されたと言はれて居ります。椰子はこの外比島には世界の三割四分を出します。

(五) セメント

南方にはセメント工業はあまり盛んでないので今後南方の建設に伴ふセメントの需要は内地の供給を待たねばなりません。共榮圈内のセメント工場は數ふるに足らぬ程で戦前は歐洲、日本等から輸入して居りました。

將來は現地にも大工場の必要がありませうが、當面先づセメントの大量増産が必要です。

(六) 電力

米英は従来南洋へは大工業の進出を許さなかつた爲電力は南洋諸土地何れの方面にも發達してゐません。

蘭印、馬來、比島、佛印、泰を總計して水力、汽力計約八十萬キロワットに過ぎないので、この内蘭印が四十四萬キロで首位を占めてゐます。

元來蘭印、馬來、佛印等は水力の包藏も多く、雨量も相當あつて有望な所から、前歐洲戦後

はその工業化も叫ばれたのですが開發計畫中に大東亞戰爭へ突入した譯で、これ等未開發の水
力地點を日本技術の移入に依つて増進せしめ、ある程度の輕工業の發達は促進させる事が出來ま
す。

第五章 大東亞共榮圈を繞る諸國

第一課 タ イ

日本と泰との友好關係は相當昔からあつたので有名な山田長政の渡泰以來泰國の我國に對す
る好意は、滿洲事變の國際聯盟總會に於て世界各國舉つて我國に反對の投票をした際敢然と唯
一國棄權して我が感謝を買つたのは私共の未だに忘れる事の出來ないものであります。而もア
ジア廣しと雖も完全なる獨立國としてピブン首相の統率の元「タイ人のタイ」を目標として、
一九三二年立憲革命を成就して以來歐洲の壓迫勢力に四圍を圍まれ乍ら勇敢に戰つて來た事を
思ふ時頭の下る思ひが致します。

而して泰が完全に獨立の國家としての出發をしたのは昭和十四年六月國號シヤムを泰（自由
の意味）と改めて以來の事で、この新興國家のユワチヨン（青年）ユワナリ（少女）の愛國的
軍事教育運動は未來の泰の躍進を約束してゐるかの様であります。

泰國の經濟及財政は米を首位とする輸出に基礎を置き毎年六、七千萬バーツ（等價とならない
前百バーツは約百五十圓）の輸出超過を續けて來ましたが、その輸出の六、七割は英國に向けら
れ、茲に泰國の英國依存經濟の惱と今後我國に課せられた泰指導の鍵とが在る譯であります。

米

泰は一年を通じての太陽の恵みとメナ河に培はれた大平原とに依つて米作國として發展して
來ました。國民の八割三分がこの米作農業に従事してゐますが遺憾せん原始農業の域を超えら
れませんが米の輸出額がその總額の半ば以上に達し、尙其後二、三年も世界の泰米に對する需
要が増加しまして遂に一億バーツに垂んとしてゐます。

併しこの輸出の増加に依つて農民は少しも恵れず單に仲買人である支那商人（華僑）の懷を
肥すに過ぎない有様にありました。政府はこの弊を改めんとする意味で年々多數の産業組合を

農村に設立し昭和十五年末迄に千五百の産組(内千四百迄は信用組合として金融の救済を行ふ)が設立されてゐます。

尙仲介業を営む華僑こそは泰國の一つの痛でありまして泰國の經濟力の實勢力を握り、泰人口千六百萬の内二百五十萬を占め年々之等華僑が本國へ送る送金は數千萬銖といはれて居りました。

ゴム

ゴム栽培は大部分南部半島方面で行はれますが近年その組織が發達して優良な生品を出します。併し交通機關が不満足な結果首都のバンコックへ輸送するよりも英領のピナンへ生ゴムの儘で送られ同地で製品として輸出されてゐました。全生産額は年五萬トンですがゴム生産制限協定條約に依つて實際の生産は四萬トン位でしたが、最近増産計畫が着々實施されてゐました。

錫

一九一九年施行の鑛業法に依つて北緯十二度以上の鑛物資源は子孫の爲に残すといふ建前で開發を許さない爲、十二度半から南部即ち半島半面で錫を主として産します。附隨してタンク

ステンも開發されますし、金も出ますが之れは外國人には許可してゐません。

而もこの錫の開發は主として英國資本の元に行はれ(全投資額の約八割迄)残りはデンマーク系其他で最近米國資本も南部方面へ投下され出した様でした。我三菱もコブケブの錫山を経営してゐました。タイの錫生産は世界錫生産制限協定に依つて割當が一萬八千五百トンとなつてゐましたが、輸出額は三、四千萬バーツで米に次ぐ重要輸出品でした。主として錫鑛としてピナン、シンガポール(昭南港)方面へ向けられました。

チーク

泰の林産資源は極めて豊富でチークは其の代表的なものです。主として北部方面に産し、年産六百萬バーツを超える重要資源ですが、英國及デンマーク、佛國等がその六割迄も投資してゐました。併し山林局を設け特許制を實施して漸次泰自身の手へ移す方針でした。

皮革

農業國としての泰は水牛、牛各々約五百萬頭を有し、皮革の輸出は百萬バーツに近いと言はれます。

この様に天然物資に富む泰國は他面石油、石炭等の燃料資源を缺き又工業に必要な製品、機械類を一切輸入に仰いでゐたので、この方面の日本技術の任務は重大となつて参ります。

三百年の國交の歴史を持つ日泰兩國は昭和十五年友好親條約が締結され、又昭和十六年五月には佛泰平和條約に伴ふ保障及び政治的諒解に關する日泰議定書を取り交し、彼のタイ、佛印國境紛争も我國の居中調停に依つて平和裡に成功を納めました。

次いで大東亞戦争の勃發と共に即時日泰協定が決定して皇軍の泰領を通過する事に同意し十二月には軍事的協力を約し日泰攻守同盟は固く結ばれるに至りました。

この同盟に依つて日泰兩國は十年の期間中、米英を共同の敵として大東亞戰完遂の爲に單獨の休戰や講和をせぬ事を約しましたので、續いて泰は敵國に對し宣戰の布告を致しました。

茲に新たな隣邦として手を握り合つた泰國と我國との經濟合作こそは共榮圈建設中の第一の眼目と言はねばなりません。

從來泰國在住の邦人數は毎年増加の勢に在りまして昭和十五年には五百人を突破、同年日本から泰への旅券査證が六百人の多きに達したさうであります。

大戰前迄の泰國との經濟關係を見ますと、泰國に在る華僑の抗日ボイコットもありましたが南方唯一の關稅障壁のない自由市場として日本商品の輸出は顯著なものがあり、その泰への輸出の主要品目は綿糸布等の綿製品を第一に陶器、雜貨等で、日本への輸入はさしたる事はありませんでしたが今後泰米を初め重要物資の輸入は著しいものがあるでせう。

今その品目別に簡単に申しませう。

(一)米 從來輸出の出来る量の三分の二は昭南港、香港、英領殖民地及重慶政權の奥地向けに輸出されてゐましたが、今後全面的日本への輸出は可能です。

(二)ゴム 戦争下の今日世界ゴム生産限定協定の圍かたいを離れて生産は益々増加され、日本へ輸出されませう。

(三)錫 南部の無盡藏の包藏量は純分度七十五度から以上の良質の物で、日本資本と技術の施す改良發達は期待出来ませう。

(四)チーク材 従来米英商社の独占の爲我國への輸出は全然抑壓されて居たのですから今後どしどし優良なチーク材の輸入を見られます。

(五)牛 元來泰は佛敎國ですから食用には供されないので主として農耕にのみ使用されてゐましたが、今後は肉の食糧問題は其の皮革と共に我國人を安心させられます。

(六)綿布、鐵、タングステン 日本より秀でた技術を注入して開發して行けば其の躍進は期して待てませう。

(七)交通政策 泰の生品が豊富な割に鐵道線は三千五百キロ程ありますが殆ど幹線のみで農産物の集荷輸送は主として河川に依る不便さでしたが、此の方面への日本獨得の技術の投資は物資の交易を一層容易なものとする事が出来ませう。

茲に重大な問題は同地にある華僑への對策であります。これに付いては改めて詳しく一章を設けて説明致しませう。

第二課 佛 印

佛印は東京、安南、カンボチャ、ラオスの四保護國及び交趾支那の一殖民地から成り、これに佛國の租借地廣州灣を加へて佛印聯邦と言はれてゐます。

佛本國は此等諸地域に對して約六十年前から一貫して本國中心の産業貿易政策を強いて近年に及んで居ります。即ち

- (一) 佛印を佛本國商品の獨占的消費市場とした事
- (二) 佛印の原料物資は成可く佛本國の需要に適合させ且つ其の移出は優先的な事
- (三) 佛本國の工業に邪魔にならず、又佛印の土着民を富裕とさせない程度の工業を認める

事

右の様な本國に都合のよい政策に依つて開發を續けて來たので、外國商品の排他的なことと鑛業、商業總てに外國資本の介入を阻止してゐます。

農業

原始的な土人農民による米、煙草、棉、桑と佛人の近代的經營に依るゴム、珈琲等が代表的なものです。

米は東京米及び西貢米で世に知られるもので安南人の勤勉な努力と豊沃な自然的恩恵に依りその輸出額は總體の四割五分内外を占めて居ります。但し東京米はこの生産地帯である東京が世界的にも有名な人口の割合が稠密してゐる土地なので住民の食糧用としての使用が多くて輸出額は大した事はなく、主として西貢米が國外へは輸出されてゐます。

佛印米第一の仕向地は佛本國を除いては從來支那で此點に我國は注意せねばなりません。

佛印經濟の元をなす米の技術的方面を見ると實に貧弱で、耕作、治水、施肥等我國の新技术に依つて遙かに多額の收穫を得られる事は明であります。

ゴム

佛人が専ら此の方面に近代的經營を行つてゐますので佛印でも交趾支那、カンボヂヤ方面に主として栽培されて居ります。ゴムの輸出は昭和十四年には六萬八千トン、金にするると九千五百ピアストルで、輸出額は米國が第一位になつて居ります。

佛本國のゴム需要はこの佛印だけで優に賄へるだけになつてゐます。

尙この外農産物中で將來有望なものに黄麻があるさうでこの點も見逸す譯には参りません。

鑛業

現在佛印から出る鑛物資源は量に於ては大した事はありませんが、世界有數の優秀な石炭、錫、鐵、マンガンがあります。

この外既に我が南洋拓殖及び大日本燦鑛、臺灣拓殖等が手を染めてゐる磷灰石は注目すべきでありまして、品位四〇%以上埋藏量一億トン以上と言はれます。

この磷灰石は内地米増産に必要な磷酸肥料となるもので從來我國は南洋委任統治領の鑛量に期待してゐましたが、その將來性に於て遙かに佛印の方が有望であります。宜しく今後はこの開發とこれが輸送の鐵道の發達が重大事と申さねばなりません。

特に佛印鑛産物は從來佛國資本のみの獨占で未調査、未開發のものが多く、今後のやり様によつては想像以上の發見も約束されて居りますから特に佛印の地下物資は忘れてはなりません。

水産

輸出額は第三位にあり從來支那、泰、馬來方面土着民用として輸出されてゐた水産物は、年

漁獲高四十一萬トンばかりですが、水産日本の名に於てもこの將來性は尠くありません。外に海鹽は年産二十萬トンあります。

共榮圏の一員としての佛印は、本國佛國との經濟連鎖は第二次歐洲大戰に依つて打ち切られ經濟自立の必要に迫られてゐますから愈々日本の開發の手を待つばかりであります。

新式の大規模な工業開發の手をさし延べるのは佛印に於て最も大切であると信するのです。

166

尙佛本國が對獨降伏をする迄は大分敵性行爲に目に餘るものがありました。其後日佛印軍事協定確立し、茲に共榮圏の一員として發足した佛印の今後に於ける日本との經濟合作こそ大きな觀物と言はねばなりません。

第三課 比 島

從來比島の邦人はダヴァオの一萬七千八百餘名を筆頭に二萬九千二百餘名を算してゐました。就中このダヴァオは邦人の麻栽培と共に發達した町で、邦人が隆々三十五年の辛苦に依つて質量共に世界一のマニラ麻の約半數は邦人の手に依つて産してゐたものです。

其外ダヴァオの邦人投資額は麻、椰子栽培五千五百萬圓、商工業二千萬圓、林業三百二十萬圓、漁業五十萬圓、道路其他二百五十萬圓、計八千萬圓に上つてゐました。

比島が日本人のこの苦心に對する報酬は皮肉にもフィリッピン移民法を初め幾多の日本人壓迫行爲でした。

167

元より米國の傀儡としてのこの敵對行爲は經濟的にも政治的にも米國依存から一步も出られなかつた比島として寧ろ同情すべきだつた事でせう。

つまり比島は米國から獨立といふ好餌に釣られた經濟上の植民地に過ぎなかつたのです。その主要輸出農業である砂糖、煙草、マニラ麻等に就いて米國向の率を見ると

輸出に於て七割二分以上、輸入に於て六割一分以上を占め、日本は輸出で五分、輸入で九分にし過ぎませんでした。

農業

比島産業の中心をなすもので砂糖、椰子油、マニラ麻、煙草を代表的なものとし、この内砂糖、椰子油は各一億ペソ内外を米國へ輸出してゐました。

米は比島人の常食ですが國內生産だけでは不充分で國外からの輸入に待つてゐました。

椰子油は世界總産額の三割四分を占めてゐます。

煙草は世界第七位で輸出は一千四百萬餘ペソ、マニラ麻は百三十九萬俵、内譯で見ると第一位英歐、第二位米國、第三位日本其他となつてゐます。

鑛業

比島第二の産業で資源は豊富ですが未開發のものが多く、昔から採金は有名で、次いで鐵、銅、マンガンは從來日本を常顧客としてゐました。

クローム鑛は世界有數の産地で主として米國へ輸出されてゐました。

林業

全島の森林面積は約五割七分で有用材としてラワン、アピトン、タンギリ等があります。

茲に注意する事は比島の産業中農業にしる鑛業にしる外國資本の投下されたものが多く日本の資本も相當投下されてゐる事です。

何れにせよ唯一無二に米國へ依存してゐた比島の經濟が、果然日本依存となつた今日ですが、從來の對米輸出品をそのまま日本が消化し、又日本から從來米國ばかりから仰いでゐた物資を輸入する事は元より不可能な事です。

茲に比島經濟の樹直しの必要とこれに對する研究が焦眉の急となつて來るのです。

第四課 馬來

御存知の如く馬來は世界最大のゴム、錫の産地で、この二商品だけで輸出總額の八割餘を占めてゐる有様で、次いで輸入品は綿、鐵、機械、米等です。

而も之等輸出の過半は米英向であつて、その特長とする所は完全な米英依存經濟であつた事と近隣の植民地からの中繼貿易を中心としてゐたことです。

泰、佛印、蘭印と異り今次の戰爭に依つて完全に我統治領となつた馬來の經濟的機構の改革

こそは我經濟建設戰の使命を制するものと稱せませう。

尙馬來特有の千年を誇るジャングルこそは開拓次第で正に天然の寶庫と言へませう。

第五課 蘭 印

蘭印は米英にとつて重大な商品であるゴム及錫を供給する植民地とでも言へるので、和蘭の領有してゐた土地であり乍ら却つて米英經濟圏の植民地化し米英の勢力下に戰前幾多目にあまる排日行爲のあつた事は改めて茲に言ふ迄もありますまい。

我商品の不當輸入制限、や邦人の入國制限、又時の商相小林一三氏、前外相芳澤謙吉氏との日蘭印會商ももつれにまつれた擧句は遂に決裂となつて大東亞戰爭となつたのですが、最早今日に於ける蘭印は日本を離れては在り得ないのであります。

和蘭本國は昨年三月獨逸に占領されて八百萬のその國民は今はその保護下に在りウイヘルミナ女皇はロンドンに蒙塵して英國の保護下に置かれその唯一最大の植民地も亦日本の手に移つたのも運命の致す所でありませうが又自ら求めた償ひとも言へます。

ところで蘭印の地勢を申しますとジャバ、ボルネオ、セレベスを含む大スンダ列島とバリ、ロンボックを含む小スンダ列島、ハルマヘラ及その近くの諸島を以てするモルツカス群島その他ニューギニア等を總括するその總面積は我全領土の三倍に當る位で、大小二千の島々から成り立つて居まして、神戸からスラバヤ港迄最近の快速船で約九日程を要します。

蘭印六千萬の人口中土着民族即ちインドネシヤ人と呼ばれる者はその九割七分迄を占め、その大多數がジャバとマヅラに住んで居ますので、この兩地の人口の稠密度は我國よりも大であります。

この蘭印土着民族の大多數を占めるインドネシヤ族は一口にインドネシヤ族と言つて居りますがその種類は非常に多種で、その言語、風俗、性格、文明の度が何れも違つて居て民族を指導して行く上に於て非常に慎重を要する點が茲に在るのです。

而も土人の九割迄が回教徒でその外セレベス島にはキリスト教、バリ島にはヒンヅー教が行はれてゐます。

蘭印の産業は農業が中心で鑛業がこれに次ぎ、企業投資の六割が農業へ、一割が鑛業へ向け

られてゐます。

鑛業

(一) 石油

その産額は米國、ソ聯、ヴェネゼラ、ルーマニアに次いで世界第五位で、約その二分八厘を占めてゐますが地域の廣大な蘭印は未だ充分な埋藏調査が行はれてゐる譯でなく更に設備の改善に依る増産の可能性が多分にあります。又天然ガスの生産も相當あり(年百二十二萬トン)これから精製されるペンチン、重油、輕油等も著しいものがあります。

(二) 錫鑛

蘭印の錫は世界第三位でその一割八分を占めてゐます。

尙此地方の錫鑛床は皆海岸や河流の鑛床です。

(三) 石炭

炭質は良好で炭層も相當の厚さを持つてゐます。

(四) 金

金は世界の一厘五毛、二千三百トンを生産します。

其他ボーキサイトは從來日本が輸入してゐました。

農業

天然の豊富な地味と日光の恩澤に依つて著しい勢ひで成長し、規那、カボック、胡椒、ゴム、ココ椰子、茶、砂糖、油椰子、コーヒー、カカオは世界産額の大部分を占めてゐます。

(一) 砂糖

農業中の代表的なもので土地の經濟を左右するものです。ジャバ島中心に行はれてゐます。

(二) ゴム

世界生産額の約三分の一を保有し我國が最も關心を持つ所であります。

(三) 茶

世界紅茶の輸出國として世界第三位で輸出制限をしてゐた位です。

(四) 規那

現在蘭印はキニーネ供給の獨占的地位を占めてゐます。世界消費高約五百トン乃至六百トン

に對し蘭印の生産は過剰になる位です。

第六課 ビルマ

東亞共榮圈の外廊を爲し、その民族はビルマ族を首位にシャン族、アーチン族、チン族等で、戦前日本人の在留数は千人に満たない有様でした。

ラングーン米で知られたビルマの米は内地米にも劣らない味と質を持つて居り、ビルマ人口の八割迄はこの農業に従事してゐます。

米の外ゴム、棉花、其他の増産も計られてゐます。

林業はチーク材を首位として毎年平均三十萬トンを出してゐます。

鑛山資源は著しいものがあり石油の産額は北部に特に無限に埋藏されてゐると言はれ、其他鐵、錫、ウオルフォラム等の重要資源を持つて居ります。

従來ビルマの經濟的實力者は英國で（英の自治領）最近インド人の進出が英國を背景として華僑をしのぐものがありました。

扱日本とビルマとの貿易關係を見ますと日本の方が受取超過となつてゐましたが、その總額は全輸出入額の八分七厘といふ微々たるものであります。

併しビルマ・ルートの援蔣行爲は飽迄英國の敵對行動であつて、ビルマ人そのものは日本に對して憧れを持ち、東亞から歐米の勢力を一掃した曉の共榮圈的感情は著しく日本に有利なものと解されませう。

宗教から言つて見てもインドに興つた佛教が今日では發祥地であるインドに於て衰微し日本に於てその華を咲かせてをりますが、ビルマも亦原始佛教の教を損はずに受け繼いで居ります。一體ビルマの民族は又人種的に言つて我國人に酷似して居り、性質も勇敢で、その使用する言語も學問的の専門の調べから見て全く同一なのは不思議な位です。

之等體質から言つても言語から見ても同一系統に屬する日本とビルマ人種とは考古學から言ふと同一民族が東進して大和民族となり南進してビルマ民族となつたといふ説を生み出した位なのです。

今や之等の兩民族は再び手を握り合ふ好機に恵れたのです。尠くともこの意味に於てビルマ

の共榮圈への参加は重大なる性質が在るものと信じます。

第七課 印度

印度は三百餘年間英國の壓制と搾取の元にありましたが、今や三億の民族が敢然立つて東亞の爲の東洋人として自覺すべき秋が参りました。

實に印度は尨大な人口と豊富な資源を擁して居りますが長い間西洋人である英國の寶庫となつて來ました。

三億五千餘の人口の内七割迄が農業に従事して棉花、甘蔗、茶等の産額は極めて多く、工業の主要なものは紡績で、鑛業は石炭、マンガン鑛、石油、金、鹽、銅、銀、ボーキサイト、マグネサイト等を産します。

住民の宗教はヒンヅー教が大多數を占め、回教、佛教がこれに次いで居ります。

扱印度の政治組織が誠に意味深長なもので從來度々の印度獨立運動にも拘らず今日迄巧みに延ばし續けられて、専ら英帝國の搾取に吸々として利用されて來たものが、今回皇軍の銳鋒が

印度に迫り帝國が印度人の印度として奮起せよと呼びかけたのに對して國爾相クリツプス特派して各方面の懷柔に努めた結果は失敗に終つた事は笑止の限りと言はねばなりません。

今簡單に印度の國家組織を申しますと、印度の財政、軍事、外交一切の國務を司る機關は總て英國の握る所でありまして、英政府内のインド事務大臣と彼に直屬するインド事務會議より成つて居り、インド内部にあつてはインド總督が文武統治の一切の廣大な權限を持つて居り、その下に中央政府に相當する執行會議があつて七名の各大臣から成立してゐます。國事を議する議會は國會（上院に當る）立法會議（下院に當る）から成つて一應インド自治の形式は出來上つて居る様ですがその實英國の巧妙な欺瞞的な組織である事はインド總人口三億の内投票權のある者は僅かに五百萬人に過ぎないのを見ても解ります。

政黨には國民會議派を主流として自由黨、正統派ヒンヅー教團、インド回教徒聯盟、全インド回教徒會議などがありますが、その内國民會議派がインド知識階級から成立つ最有力なものです。

併し一口に國民會議派といつてもその包括する階級が多層に分れて居る爲穩和派と急進派で

三大分派に分れて居ます。

その最も穏和派は單にインドの獨立を自治領位にししか解釋しないものですが、マハトマ・ガ
ンジーの指導する一派は不服従運動、飢餓ストライキ等の消極的民族闘争を手段とする急進的
一派です。併しこの様な生なまぬるい手段に不満を抱き反英統一國民戦線を形成する一派こそ現國民
會議々長を任めるジャワハルラル・ネールを首班とする左派の一黨であります。

英國が躍起となつてインド獨立の許容といふ常例の羊頭狗肉條件に依つてガンジー、ネール
等を懐柔して居る一方、在日のビハリ・ボースと滯獨中のチャンドラ・ボース兩氏を最高指導
者とする自由インド聯盟の動きは注目すべきものがあります。

東亞共榮圏の一員として完全な獨立國インドとして起ち上る日を期待して、之等指導者の方
向を誤らない善處を期待して已みません。

第八課 濠洲

濠洲は歐洲人がこれとニュージーランドとを總括してオーストララジアと稱して居るのでも解

る通り南アジアといふに外なりません。元々アジア人の同胞であつた原住民が住んで居た濠洲
は、キャプテン・クックの太平洋探險に依つて英國の侵略する所となり次いで囚人流刑地とし
て光榮ある濠洲は穢けがされて行つたのです。而も英國は原住民を戰慄すべき虐殺主義と熱帯への
追放主義に依つて、勝手な白濠主義をきめこみ有色人種の侵入を防止したのです。

現在全濠住民の九割七分迄は英系で、その八割七分迄が濠洲生れで極端に文化の開發を虞れ
本國離脱を避ける爲に極端に不開拓主義を採つて來たのは茲に最大原因があるのです。この爲
七百七十萬方籽の廣大な大陸を僅か六百萬足らずの人口で埋めて居る次第で、これが却つて仇
となり國防的に言つては殆ど零にも等しい貧弱さの下に濠洲をして英國頼むに足らずとして米
國依頼を叫ばしめるに至つたのです。

今濠洲の産業を一瞥致しますと英國年來のこの壓制植民地主義が影響して居るのをよく知る
事が出來ます。

即ち農業及び農酪業を中心勢力とし、而もその産物の五割迄が英本國へ向けられ濠洲の求め

る工業生品の五割迄が英國から輸入されて居ります。

私共は茲に亦英國資本主義のカラクリに一驚する事は、濠洲がかく單一經濟に依つて收支償つて居るかといふとそれ所か反對の飛んでもない結果となつて居るのです。つまり濠洲は年々英國債に對して三千萬磅の利子を支拂はされて居るのです。而も輸出超過に依つてこの負債を支拂へど支拂へど一向借金が消えないといふ珍妙な組織になつてゐて、これこそ本當の金縛りといふ言葉が當てはまる事になります。

日本が共榮圏の一員として濠洲に對する經濟再建設は誠に天の理を完うする事は之等の事實を知つて初めて理解出来る事になります。

誠に「青年大陸」濠洲の資源開發は天が我國に與へられた使命とも言ひ得ませう。その資源に就いて解説しますと左の通りです。

牧畜業

世界最大の羊毛產出國であると同時に輸出國で、羊の飼育頭數は世界總數の約六分の一で、その產出高は世界の約四分の一を占めてゐます。殊に英國は對獨宣戰と同時に強制に羊毛を買

上げる羊毛徵發制度を實施しました。

羊以外では牛が一千三百万頭、馬が百七十萬頭、豚百二十萬頭に達しその肉は殆ど國內消費で輸出も英國一本調子であります。

皮革は米、佛等へ多數に輸出され、農酪品ではバターがその五割迄を占め、羊毛、小麥に次ぐ重要輸出品であります。

農業

特に小麥は羊毛と共に濠洲經濟の重要地位を占め、總農產物中の四割を占めます。この外燕麥、甜菜、葡萄、果實等英本國の穀倉と稱せられる所です。

鑛業

元來濠洲の金埋藏量の豊富さがこの地を開發させた主要原因をなした程で、世界第三位の金の產出量を持つて居ります。其他石炭、銀、鉛、銅、錫等も産します。」

濠洲の東部に在る新西蘭^{ニュージーランド}は濠洲と共に世界的にその牧畜業及農業は有名です。四大畜産物としてバター、チーズ、獸肉、羊毛があり、三大農作物として小麦、大麥及び燕麥があります。

その綿羊飼育は約三千萬頭で、羊毛産出量は全體三億ポンドに達します。鑛産資源としては石炭を主とし産額は大した事はありませんが、産出額は約十七萬オンスで實に新西蘭發展の基礎を作つたものです。

第六章 日滿支の經濟合作

新たな南方共榮圈の加盟に依つて大東亞經濟再編成の緒が成らうとする時、兎角忘れ勝ちな事は日滿支の關係の重大性であります。

南方には勿論私共の必要とする幾多の重要な諸物資が我等の開拓の手を待ちわびて居ります。天然の恩源に恵まれた南方各地がこれからの男子躍進の天地である事は思ふだけでも欣快を感じざるを得ませんが、餘りに南方へ目をとられる事は西方及び北方に嚴然として控える大

中國と滿洲帝國及び蒙疆の存立をして一層重要な意義を確立せしめる謂に外ならないのに深く留意せねばなりません。

つまり日滿支が中心となつて一つの立派な強度の國防國家體制を作り上げ、この三國のみの自足自給經濟を固く樹て直してその後に於て初めて南方の意義が出てくるのでせう。

言ひ換へれば三國を中心とした南方は培養線でなければなりません。飽迄南方のみに重點を置く事は危険で、この關係は極めて冷靜に利害判斷を下すのが立派な日本人の任務でせう。

既に企劃院に於て聲明致した通り人口政策の見地からしても日本人の移民は南方は第二次的のもので今後に期待せねばなりません。今日の問題とする所は滿洲への義勇移民の擴大とこれが優良な成果であります。

又岸商工大臣の言に依りますれば、日本鑛工業の經驗技術を南方資源の爲に葬り度くはないと言はれ、無やみに勞なく手に入る無限の物資の爲從來辛苦して得た日本工業の成果を顧みずに乗て去る事は出来ません。日本工業はそれ自體自ら生きる道がなければならぬし、又これを進歩發達させねばならぬのです（例へば人造石油事業の様なもの）

井野農相は又輸送關係の點や内地人口維持等の諸見地から見て、内地農産物の増強を主張されて居りますが、成程尤な事で一概に南方農作物に目が眩んで内地の農業を見棄てたなら今日の英國の様な悲惨な境遇に置かれるよりは外なく、富國強兵の基礎が何處迄も日本農村を中心として來た我國の歴史から見て、南方の物資に依存して居れば、我國は明日からでも農業を棄て、工業國として新たな出發が出来るものと解釋する譯にも行きません。

つまり人口的に見て優秀な素質を持つて居た日本人が南方移民に依つて果してその素質の低下を來す憂がないでありませうか。勿論赤熱の太陽の下と雖我國人は充分活躍の自信はありますが、徒らに猫も杓子も南方進出とあつては南方諸地域の土民を統率して行く上に危険の上もありません。

今迄の米英人の搾取を排撃して彼等をして眞の生活の幸福を唱へさせる方式の南方進出でなければ國家百年の大計は元より計られるものではありません。

大東亞の盟主として恥かしからぬ識見手腕の具つた人達に依てのみこの大事業は爲されなければならぬのです。勿論南方は未開拓の原始的土地が多いので病魔の困苦も幾多横たはつて居

る事でせう。正に經濟開拓の第一に従事する人々は皇軍の將士にも劣らぬ訓練と覺悟が要る譯です。

次に國防の觀點から見て、南方へ注意を集中する前に先づ北を熟視せねばなりません。A・B・C・D包圍線を崩したからと言つて安心は絶対に出來ません。北方の守りは飽迄日本國民に課せられた大任務であります。

此の點から言つて滿洲の強大は頼もしい限りであります。今後一層國防工業地域は日本及滿洲を中心として遂行完成せねばなりません。

政治上から言つたらどうなりましたか。南方に眩惑されるの餘り、日滿支自體の建設を離れた政治は屋臺骨のゆるんだ大建築物のそれに似た事になります。政治的に三つに取組んで離れない強固な日滿支の政治的連繫はそれ丈で立派な經濟建設戦への勝利とも言ひ得ませう。

經濟それ自體から見ても、重工業は今後日本を中心とせねばならない運命にあります。南方への技術の移出も大切ですが今迄南方諸地何れも原始産業の一本建で工業の發達は見る可きものがない状態にあります。勿論今後必要の土地へ自給の工業力を培養する必要がありますが、

彼等の米英から求めた工業機械類外一切の工業關係品の支給の元は日本に在るのです。動力に就いて見ても電力資源は日本、滿洲以外は貧弱至極なものです。石炭も日、滿、支が第一です。鐵、棉花、食糧も亦安堵を許しません。これ等も日、滿、支の負ふべき所は尠しとしません。以上申し述べた據り所からして以下支那及滿洲、蒙古に就いてその基礎となる知識を説明致しませう。

第一課 中華民國

昭和十五年春汪精衛氏を主班とする正統國民政府が南京に還都して以來新興支那の天地には生氣が溢れ、新しい建設の歩武は脈々として音を立て、居ります。

その財政的部門を見ましても中國聯合準備銀行が設立され敵性通貨は驅逐され支那幣制は確立され財政の基礎は微動だに致しません。

北支

日、滿、支經濟建設十ヶ年計畫と之れに對應して北支經濟十ヶ年計畫は出發致しました。

北支農産物の元を爲すものは綿花及小麥であります。併し北支農民の主要食物である小麥、高粱、粟等は従來自給出來ずに海外、中支、蒙疆、滿洲から輸入せられたもので、これが食糧の増産自給は、北支の棉花が日本の加工資源として重大なる事と相對立するのです。

元來北支の耕地面積は極めて大きいのですからこの兩者の増産は凡ゆる技術の開拓に依つて行はなければなりません。一例を挙げれば病蟲害の除去や旱魃、洪水の脅威から一日も早く近代的施設に依つて脱出せねばならないのです。

鑛業に就いては石炭及鹽が出來ますので北支開發會社の子會社が經營に當つて居ります。何れにせよ北支一億の八割を占める農民の啓發と豊富な埋藏資源に依つて長期經濟建設は臆て王道樂土の實現も遠い將來ではないでせう。

中支

上海を中心として長江一帶の米英權益の一切は掃蕩され又長い間の敵性の中心だつた租界地も清掃されて茲に明朗な中支を現出するに至りました。

中支の主要資源は農産物で、その内米はインドに次いで世界第二位に在り全支産米量の六割